千塚分団本部拠点施設建設（建築主体）工事

ＮＯ	名　　称	縮 尺
Ａ−０１	タイトル・図面リスト	—
Ａ−０２	工事区分表	—
Ａ−０３	建築特記仕様書(1)	—
Ａ−０４	建築特記仕様書(2)	—
Ａ−０５	建築特記仕様書(3)	—
Ａ−０６	建築特記仕様書(4)	—
Ａ−０７	設計概要書・内・外部仕上表	—
Ａ−０８	案内図・付近見取図・配置図・敷地求積表	1:100・1:200
Ａ−０９	１階・２階平面図・屋根伏図	1：100
Ａ−１０	立面図・断面図	1：100
Ａ−１１	全体面積表･室面積表	1：100
Ａ−１２	排煙･採光･換気計算表・消防無窓計算表	1：100

ＮＯ	名　　称	縮 尺
Ｄ−０１	矩計図	1：5・1：20・1：30
Ｄ−０２	階段詳細図	1：15・1：30
Ｄ−０３	１階平面詳細図	1：50
Ｄ−０４	１階展開図　車庫・更衣・便所	1：50
Ｄ−０５	２階平面詳細図	1：50
Ｄ−０６	２階展開図(1)　詰所・会議室	1：50
Ｄ−０７	２階展開図(2) 詰所・便所	1：50
Ｄ−０８	１階･２階天井伏図・建具キープラン	1：100
Ｄ−０９	建具表(1)　AW・AD・SS	1：50
Ｄ−１０	建具表(2)　WD	1：50
Ｄ−１１	部分詳細図	1:5・1:10・1:20
Ｄ−１２	外構図	1：50
Ｄ−１３	外構詳細図	1：10・1：20
Ｄ−１４	ホース乾燥塔詳細図	—
Ｋ−０１	仮設計画図（参考図）	1：100

ＮＯ	名　　称	縮 尺
Ｓ−０１	構造設計特記仕様書	—
Ｓ−０２	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)	—
Ｓ−０３	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)	—
Ｓ−０４	鉄骨構造標準図(1)	—
Ｓ−０５	鉄骨構造標準図(2)	—
Ｓ−０６	ベースパック柱脚工法 標準図	—
Ｓ−０７	ＱＬデッキ合成スラブ設計・施工標準	—
Ｓ−０８	地盤調査位置図・柱状図	—
Ｓ−０９	梁伏図	1：100
Ｓ−１０	軸組図(1)	1：100
Ｓ−１１	軸組図(2)	1：100
Ｓ−１２	基礎リスト	1：30
Ｓ−１３	地中梁リスト・雑詳細図	1：30
Ｓ−１４	柱リスト・柱脚リスト・大梁リスト	1：30
Ｓ−１５	継手リスト・部材リスト	1：30
Ｓ−１６	Y2通鉄骨詳細図・X1通鉄骨詳細図	1：30

摘　要	月　日			

ESSE INC.
甲府市飯田4丁目7-14
株式会社　イ　ズ
ＴＥＬ　055 (226) 8888(代)
ＦＡＸ　055 (226) 5727
一級建築士　長田 孝三　第123273号
一級建築士事務所　第1- 031039号
E-mail ： esse@coral.plala.or.jp

管理建築士	検図者	設計者	担当者

作 製　令和 6 年 12 月 20 日

工事名称	千塚分団本部拠点施設建設（建築主体）工事	図面番号
図面名称	タイトル・図面リスト	縮 尺 A-2 NO SCALE A-3(35.35%に縮小)

A − 01

No	項　　目	建　築	電　気	機　械	別　途		備　考
1	設備機器・配管・配管用の床・壁・天井の点検口の製作・設置	○					
2	鉄筋コンクリート造等の躯体貫通部分（設備機器配管・配線用）の構造補強	○					
3	同上貫通部のスリーブ及び箱入れ等の製作及び設置、及び穴埋め補修		○	○			
4	雨水竪樋	○					
5	同上ＧＬ以降の埋設配管及び雨水浸透桝工事			○			
6	照明器具及び空調吹出口等のための天井ボード類下地及び枠補強	○					
7	同上墨出し、切込み		○	○			
8	設備用吊ボルト及びインサート類の打ち込み		○	○			
9	給排機器類の設置及びフード（ベンドキャップ共）			○			
１０	同上 取付に伴う開口及び補強	○					
１１	同上 配線配管		○				
１２	換気扇取付枠			○			
１３	ライニング及び甲板	○					
１４	衛生器具の設置			○			
１５	設備機器取付用下地補強	○					
１６	システムキッチン	○					
１７	同上への配管接続			○			
１８	設備機器の一次側への電源供給・接続		○				
１９	同上への給水・排水			○			
２０	空調機の設置			○			
２１	同上 電源供給		○				
２２	空調機室外機架台			○			
２３	化粧鏡設置			○			
２４	各種天井吊り設備機器の吊り補強		○	○			
２５	各種設備機器・配管の耐震、防振、消音、安全対策等		○	○			
２６	各種盤類取付のための下地補強	○					
２７	ピクチャーレール・ブラインド（取付下地、同補強とも）	○					
２８	消火器	○					
２９	什器・備品の購入・設置（図示以外のもの）				○		
３０	竣工引き渡しまでの工事電力・用水使用料金	○	○	○			
３１							
３２							

摘　要	月　日			

ESSE INC.
甲府市飯田4丁目7-14
株式会社　イ　ズ
ＴＥＬ　055 (226) 8888(代)
ＦＡＸ　055 (226) 5727
一級建築士　長田 孝三　第123273号
一級建築士事務所　第1- 031039号
E-mail ： esse@coral.plala.or.jp

管理建築士	検図者	設計者	担当者

作　製　令和 6 年 12 月 20 日

工事名称　千塚分団本部拠点施設建設（建築主体）工事

図面名称　工事区分表

縮　尺　A-2 NO SCALE　A-3(35.35%に縮小)

図面番号　A － 02

特　記　仕　様　書

Ⅰ　工　事　概　要

1　工事番号・名称　　千塚分団本部拠点施設建設（建築主体）工事
2　工　事　場　所　　甲府市千塚一丁目1842の一部
3　用途地域等
都市計画区域（(○) 内　※市街化調整区域　・　外）　用途地域（ 第1種住居地域 ）
防火地域等（・ 防火　・ 準防火　・ 指定なし　(○) ２２条 ）
その他の地域・地区（ 下水道供用開始区域 ）
4　主　要　用　途　　その他（消防団詰所）
5　敷　地　面　積　　283.92㎡
6　工事の概要　　A.建築主体工事
B.外構工事
C.
D.
7　別　途　工　事　　千塚分団本部拠点施設建設（電気設備）工事
千塚分団本部拠点施設建設（機械設備）工事
8　そ　の　他
石綿等の取扱いについては，石綿障害予防規則(平成17年2月24日厚生労働省令第21号)
(以下、「石綿則」という。）を遵守すること。
9　特記仕様書の範囲
特記仕様書は、本特記仕様書のほか以下の○印のもので構成する。
(○) 構造特記仕様書　(○) 外構工事特記仕様書　・ 植栽工事特記仕様書
・ 電気設備工事特記仕様書　・ 機械設備工事特記仕様書　・

Ⅱ　建　築　工　事　仕　様

1．共通仕様
図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書(令和4年版）」（以下、「標準仕様書」という。）による。ただし、「標準仕様書」に記載されていない事項は、「公共建築改修工事標準仕様書（令和4年版）」(以下「改修標準仕様書」という。）及び「建築物解体工事共通仕様書(令和4年版）」(以下「解体共通仕様書」という。）による。
2．特記仕様
1）項目は、番号に○印のついたものを適用する。
2）特記事項は、・(印)のついたものを適用する。・(印)のつかない場合は※印のついたものを適用する。・(印)と(※)印 のついた場合は、共に適用する。
3）特記事項に記載の（ ）、＜ ＞及び［ ］内の表示番号は、それぞれ「標準仕様書」及び「改修標準仕様書」及び「解体共通仕様書」の当該項目、当該図又は当該表を示す。
（ただし、表示番号はそれぞれの仕様書(令和4年版)のもので、参考とする。）

章	項　目	特　記　事　項
1 一般共通事項	① 一般事項	(○) 工事施工中に予期せぬ事態や疑義が生じた場合には、監督員に報告の上、指示に従うこと。 (○) 請負業者は、監督員と随時打合せを行い、工程の確認・調整及び工事の円滑な進捗をはかること。 (○) 施工体系図を現場に掲示すること。 ・ 工事着手前及び完成時に，以下に示す調査範囲の近隣家屋等の内外の状況（地盤，擁壁，内外壁，床，建具等）を調査・記録し，報告書を監督員に提出すること。 調査範囲　※ 図示
	② 適用基準等	・ 建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　最新版） ・ 公共建築工事標準仕様書　建築工事編（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　最新版） ・ 公共建築改修工事標準仕様書　建築工事編（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　最新版） ・ 工事写真の撮り方　改定第2版（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修） ・ 建築構造設計基準（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 最新版）
	3．概成工期	工事工期より　　日前　(1.2.1)
	④ 工事実績情報（コリンズ）の登録	※ 適用する（請負精算額が500万円以上の場合）　(1.1.4) 受注時、変更時及び完了時にあらかじめ監督員の確認を受け、登録手続きを行い、工事カルテの受領書を、監督員に提出すること。 （請負額が2,500万円未満の場合は、受注時のみ） ・ 適用しない
	⑤ 発生材の処理等	発生材の処理　(1.3.8) ・引渡しを要するもの（　　） ・特別管理産業廃棄物（　　） 受入れ施設名・所在地(km) ・再生資源化を図るもの

種　類	受入施設名	所在地（Km）	備　考
・ セメントコンクリート塊			
・ アスファルトコンクリート塊			
・ 建設発生木材			
・ 建設汚泥			

・現場において再利用を図るもの（　　）
・その他の廃棄物（安定型)(　　）
受入れ施設名・所在地(km)
・その他の廃棄物（管理型)(　　）
受入れ施設名・所在地(km)
上記の処理、処分は設計積算上の条件明示であり、処理施設を指定するものではない。なお、上記によらない場合は、監督員と協議すること。
また、処理、処分に先立ち処分場等の受け入れ可否を確認すること。

章	項　目	特　記　事　項
1 一般共通事項	6．電気保安技術者	・ 適用する　※ 適用しない　(1.3.3)
	⑦ 事故報告	工事の施工中に事故が発生した場合は，直ちに監督員に通報するとともに，別に指示する「事故報告書」を指示する期日までに監督員に提出する。　(1.3.10)
	⑧ 建築材料等	材料の品質等　(1.4.2) ※ 本工事に使用する材料は，設計図書に定める品質及び性能を有するものとし，その材料にJIS又はJASのマークの表示のある場合を除いて監督員の承諾を受ける。 特定のものが特記された場合は，設計図書に規定するもの又は，これらと同等のものとする。ただし，同等のものとする場合は，監督員の承諾を受ける。 ホルムアルデヒド仕様　(1.4.1) 使用する材料のホルムアルデヒド放散量は、次のとおりとする。 ホルムアルデヒド放散量　規制対象外　の場合の該当する建築材料 1）ＪＩＳ及びＪＡＳのＦ☆☆☆☆品 2）建築基準法施行令第２０条の７第４項による国土交通大臣認定品 3）次の表示のあるＪＡＳ適合品 a．非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b．接着剤等不使用 c．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない材料使用 d．ホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用 e．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料使用
	⑨ 室内の空気中の化学濃度の測定	・ ホルムアルデヒド及び揮発性有機化合物の測定　(1.5.9) 測試料採取及び測定は，厚生労働省の「室内空気中化学物質の採取方法と測定方法」の新築住宅の例に準拠するほか，拡散方式ではサンプラー製造所の定める仕様により行う。 測定対象物質：　※ ホルムアルデヒド　(濃度指針値0.08ppm) ※ スチレン　(濃度指針値0.05ppm) ※ トルエン　(濃度指針値0.07ppm) ※ エチルベンゼン　(濃度指針値0.88ppm) ※ キシレン　(濃度指針値0.20ppm) ※ パラジクロロベンゼン (濃度指針値0.04ppm) 測定対象室　・ 図示　(○) 監督員の指示による。 測定箇所数　・ 図示　(○) 2カ所 採取方法　：　吸引方式または拡散方式とし、拡散方式では８時間採取する。
	10．特別な材料の工法	「標準仕様書」及び「改修標準仕様書」に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法とする。 (8.4.3)(8.5.3)(13.2.3)(13.3.3)(13.4.3)(14.7.3)(16.13.5)

適　用　工　事	建築基準法の指定
(○) 金属板葺　(○) 折板葺 ・ 粘土瓦葺　(○) アルミニウム笠木 ・ ガラスブロック　・ ・ 押出成型セメント板外壁パネル	風速(V0)　※３０　・ 地表面粗度区分　・Ⅱ　(○)Ⅲ 多雪地域の指定　・有　(○)無

⑪ 建築基準法による風圧力等の指定	
⑫ 設計G.L.	※ 図　示　　・ 現状平均地盤高
⑬ 技　能　士	・ 下表で技能士を適用することとした職種に、１級又は単一級技能士を配置する。　(1.5.2) ※ 下表で技能士を適用することとした職種に、１級、２級又は単一級技能士を配置する。 下表で技能士を適用しないとした職種でも、技能士の配置に努めること。

適用工事種別	適用技能士検定職種（作業）
以下の該当工事	・ 該当する作業がある以下の職種（作業）のすべて
仮設工事	(○) とび（とび作業）
鉄筋工事	(○) 鉄筋施工（鉄筋組立作業）
コンクリート工事	(○) 型枠施工（型枠工事作業） (○) コンクリート圧送施工（コンクリート圧送工事作業）
鉄骨工事	(○) 鉄工（構造物鉄工作業） (○) とび（とび作業）
ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ･ALCﾊﾟﾈﾙ工事	・ ブロック建築（コンクリートブロック工事作業）
押出成型ｾﾒﾝﾄ板工事	(○) ＡＬＣパネル施工（ＡＬＣパネル工事作業）
防水工事	(○)防水施工　・ アスファルト防水工事作業 ・ ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・ アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・ 合成ゴム系シート防水工事作業 (○) 塩化ビニル系シート防水工事作業 ・ セメント系防水工事作業 ・ シーリング防水工事作業 ・ 改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄﾄｰﾁ防水工事作業 ・ ＦＲＰ防水工事作業
石工事	・ 石材施工（石張り作業）
タイル工事	・ タイル張り
木工事	(○) 建築大工（大工工事作業）
屋根及びとい工事	(○) 建築板金（内外装板金作業） ・ スレート施工（スレート工事作業）
金属工事	(○) 内装仕上げ施工（鋼製下地工事作業） (○) 建築板金（内外装板金作業）
左官工事	(○) 左官（左官作業）
建具工事	(○) サッシ施工（ビルサッシ施工作業） (○) ガラス施工（ガラス工事作業） ・ 自動ドア施工（自動ドア施工作業）
カーテンウォール工事	・ カーテンウォール施工（金属製カーテンウォール工事作業） ・ サッシ施工（ビルサッシ施工作業） ・ ガラス施工（ガラス工事作業）
塗装工事	(○) 塗装（建築塗装作業）
内装工事	(○) 内外仕上施工（(○) プラスチック系床仕上工事作業 ・ カーペット系床仕上げ作業 (○) ボード仕上工事作業　）
	・ 表装(壁装作業)
排水工事	・ 配管（建築配管作業）
舗装工事	(○) 路面表示施工（・ 溶融ﾍﾟｲﾝﾄﾍﾟﾝﾄﾞﾏｰｶｰ工事作業 ・ 加熱ﾍﾟｲﾝﾄﾏｼﾝﾏｰｶｰ作業）
植栽工事	・ 造園

章	項　目	特　記　事　項
1 一般共通事項	⑭ 工事写真の取扱について	・電子媒体により納品すること。 ・納品時には、正副1部ずつを納品すること。 ・使用する媒体は、ＣＤ－Ｒとする。ただし、やむを得ない理由がある場合に限り、ＤＶＤ－Ｒの使用も可とする。 ・電子媒体に対して必ずウイルスチェックを行うこと。 （ウイルス対策ソフトは特に指定しないが、最新のウイルスも検出できるように最新のデータに更新したものを利用すること。） ・電子媒体には以下の情報を明記すること。 ①工事名称 ②工事場所 ③契約番号 ④発注者担当部署名称 ⑤請負者名称 ⑥作成年月 ⑦何枚目／総枚数 ⑧ウイルスチェックに関する情報 ⑨ＣＤ－Ｒフォーマット形式 ⑩電子媒体の内容の原本性を証明するために、直接署名又は捺印を行う。 ・電子納品される写真データは、ＰＤＦ形式、エクセル等で編集したもので、従来の印刷物写真と同様な確認ができるものとする。 ・写真データは、工種種別、撮影項目毎に分類し、工事の進捗に合わせて編集し、容易に確認できるファイル名・フォルダ名を付して整理すること。 ・工事写真の検査は、電子データで検査することを原則とするが、印刷物または電子データと併用で検査することも可能とし、その範囲は受発注者との協議による。 ・検査に使用する機器の準備と操作は、受注者が行うことを原則とする。 ・やむを得ない理由により、電子納品できない場合は、受発注者との協議により、従来の印刷物による納品も可とする。 ・ここに定めなきことは、受発注者との協議により決定する。
	⑮ 完成図等	※ 作成する　・ 作成しない ※ ２つ折製本　２部（Ａ２版） ※ 電子媒体　１部（CD-R） ※ 施工計画書　１部 ※ 施工図　１部 ※ 保全に関する資料　１部
	⑯ 完成写真	※ 作成する　・ 作成しない 撮影箇所及び撮影方法は、下記による

分類規格	撮影箇所数	部数	原版の大きさ（mm）
カラーキャビネ版	外部（3）内部（各室）	※２・６	100×125以上
カラースライド	同上	・１	24×36以上
カラーパネル	外部（ ）内部（ ）	・０・２	寸法 400×325（縁なし）
電子データ		※１	200万画素以上・300dpi以上

電子データについては、CD-Rにて作成し、納品を行う

⑰ 工事進捗状況の報告	請負者は発注者が必要と認めた工事については、所定の様式により、「工事報告書」を毎月一回監督員に報告する。 報告方法：電子メール、報告書
⑱ 火災保険等	工事目的物及び工事材料等について，次により保険に付す。 保険の種類　・ 火災保険　※ 建設工事保険 保険期間　※ 工事着手から完成工期に１４日を加えた日までとする。
⑲ 環境対策及び再資源の利用の促進と建設副産物の適正処理方法	環境対策及び再生資源の利用の促進と建設副産物の適正処理方法を書面により、明確にすること。 （建設機械については、排ガス対策型の建設機械の使用を原則とする。）
⑳ 下請負届の提出	適正な下請負契約を確認するため、下請負届を提出する場合は次の書類を添付すること。 ・ 下請負契約書（請書等）の写し ・ 下請負業者の建設業許可証の写し ・ 元請負業者における「指定建設業監理技術者資格者証」の写し
㉑ 下請施工体系の作成及び提出	「甲府市暴力団排除条例の施行に伴う、公共工事からの暴力団排除」を目的として、受注者は、下請負業者を用いる場合には、金額、工種の如何にかかわらず、末端の下請負者まで反映させた、「下請施工体系図」を作成し、遺漏、誤謬が無いよう記載内容を十分確認の上、遅滞なく監督員に提出するものとする。 また、提出した「下請施工体系図」の内容に変更が生じた場合は、その都度、変更するものとし、遅滞なく監督員に提出するものとする。 なお、提出は打合せ簿によるものとする。但し、メールによる提出も可能なものとし、この場合は後日、打合せ簿を提出するものとする。
㉒ 再生資源利用計画（実施）書及び再生資源利用促進計画（実施）書の提出	本工事は、建設副産物実態調査の対象工事であり、請負者は国土交通省のホームページから「建設リサイクル報告様式（計画書・実施書）（EXCEL 様式）」の最新バージョンをダウンロードし、作成出力した再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書を出力し、1部（紙）を施工計画書に添付し監督員に提出するものとする。（以前より使用していたクレダスを使用した様式での提出はH30センサスに対応していないため不可） 工事完了後は速やかに、当初入力した工事データを実績値に修正した再生資源利用実施書及び再生資源利用促進実施書を出力し、1部（紙）を完成書類に添付し、また、電子データを電子媒体（CD、DVD、FD等）により監督員に提出するものとする。 なお、入力した電子データは自社で１年間保管するものとする。 ※入力時の最新版を国土交通省のホームページからダウンロードして入手すること。 URL　http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/recycle/d03project/d0306/page_03060101credas1top.htm
㉓ グリーン購入法	「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」（グリーン購入法）に基づき、「山梨県グリーン購入の推進を図るための方針」より定められた次の資材に関しては、同法の判断基準を満たすものの採用に努め、建設機械については原則使用とすること。
㉔ 設備工事との取合い	施工範囲　各工事の区分表による。 施工図　設備機器の位置，取り合い等が検討できる施工図を提出して監督員の承諾を受ける。

章	項　目	特　記　事　項
2 仮設工事	① 仮囲い	※ 設ける 仮囲いの位置及び延長は図示による。 ・万能鋼板（H=　）　・波形鉄板（H=　）　・単管シート（H= 2.0 m） ・シートゲート（H=　，W=　）×　　箇所 ・ 設けない
	② 危害防止	・ シート張り　・ 金網養生
	③ 交通誘導員	(○) 配置する　・ 配置しない
	④ 監督員事務所	(○) 設けない（請負者事務所に打合せ会議室を確保する）　(2.3.1) ・ 設ける ） ・ 設置しない
	⑤ 工事表示板	・ 設置する　設置枚数　１枚
	⑥ 工事用水	構内既存の施設　(○)利用できる（※有償　・無償）　※利用できない
	⑦ 工事用電力	構内既存の施設　(○)利用できる（※有償　・無償）　※利用できない
	⑧ 工事用通路	※ 指定しない　・ 指定する（図示）
	⑨ 足場等	足場を設ける場合は、「手すり先行工法等に関するガイドライン（厚生労働省平成21年4月策定）」によるものとし、設置については「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」及び「働きやすい安心感のある足場に関する基準」によること。　(2.2.4)
	１０．その他の仮設	
3 土工事	① 埋戻し及び盛土の種別	種別　・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　(3.2.3)(表3.2.1) Ｃ種の場合　建設発生土受入数量　　㎥ 発生場所
	② 建設発生土の処理	(○) 構外に搬出し適切に処理する。　(3.2.5) ・ 構外指示の場所に搬出する。 受入れ施設名・所在地（km） ・ 構内指示の場所に敷きならす。 ・ 構内指示の場所にたい積する。
4 地業工事	1．既成コンクリート杭 鋼杭地業	杭の種類 ・ プレストレストコンクリート杭（ＪＩＳ規格品）　(4.3.2)(4.4.2) ・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種 ・　(4.3.2)
	※ 構造図による	

	記号	杭径（mm）	長さ(m)及び種別	設計支持力	セット数	備　考
試験杭						
本　杭						

継　手 ※ アーク溶接継手又は建築基準法の規定に基づき認定された無溶接継手　(4.3.6)(4.4.5)
・
先端部形状　・閉塞平坦型　・開放型　(4.3.2)(4.4.2)（表4.4.2）（図4.4.1）
杭の施工法
・ 掘削打撃併用工法　プレボーリングの掘削深さ　(4.3.3)(4.4.3)
杭先端予定レベルの上方　　mのレベルまで
オーガー径　杭径－５０mm程度
・ セメントミルク工法　(4.3.4)(4.4.3)
・ 特定埋込杭工法　(4.3.5)(4.4.4)
（旧建築基準法第３８条の規定に基づき認定された工法）
杭打機の種類
ハンマーの種別　※ 油圧パイルハンマー　・ ドロップハンマー
パイルドライバー　※ 三点支持式クローラークレーン
騒音・振動の測定　・ 行う　※ 行わない

2．場所打ちコンクリート杭地業	コンクリートの種別　・Ａ種　・Ｂ種　(4.5.3)(表4.5.1) 掘削工法　・アースドリル工法　※ 安定液使用　(4.5.4) ・ リバース工法 ・ オールケーシング工法 孔内の水張り　※ 行う　・ 行わない
3．地盤改良	工　法（・柱状改良　　）
④ 床下防湿層	(4.6.5) ※ 設ける　ポリエチレンフィルム厚0.15mm重ね幅縦横とも300mm以上とし、地中梁がある場合は、300mmのみ込みとする。 ・ 設けない
5．土間スラブ（土間コン）下断熱材	※ 設ける　Ａ種ポリスチレンフォーム３種b　厚25mm 敷き込みとし、
⑥ 砂利地業	・ 設けない (4.6.2～3) ※ 再生クラッシャラン　・（　　）

摘　要	月　日		

ESSE INC.
甲府市飯田4丁目7-14
株式会社　イ　ズ
ＴＥＬ　055（226）8888(代)
ＦＡＸ　055（226）5727
一級建築士　長田 孝三　第123273号
一級建築士事務所　第1- 031039号
E-mail ： esse@coral.plala.or.jp

管理建築士	検図者	設計者	担当者	工事名称	千塚分団本部拠点施設建設（建築主体）工事	図面番号
作製　令和 6 年 12 月 20 日				図面名称	建築特記仕様書 (1)	A － 03
					縮尺 A-2 NO SCALE A-3(35.35%に縮小)	

5 鉄筋工事

① 鉄筋の種別 (5.2.1)(表5.2.1)

規格名称	種類の記号	径(mm)
鉄筋コンクリート用棒鋼	※ SD295A	※ D16以下
	※ SD345	※ D19以上

2．溶接金網 (5.2.2)
※ JIS G 3551のJIS表示認定製品
線径(mm) 6.0 × 網目(mm) 100
使用箇所（ ）

③ 鉄筋の継手 (5.3.4)

接合方法	径(mm)	施工箇所
※ 重ね継手	D16以下	
※ ガス圧接	D19以上	はり 柱の主筋

4．耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ (5.3.5)

施工箇所等	表5.3.5の値に加える寸法(mm)

⑤ 各部配筋 (5.3.7)
各部の配筋は，図示による。図示がなければ，標準仕様書 末尾資料の「各部配筋 参考図」による。

6．柱の帯筋 (参考図2.2)
※ H形 ・ W-1型 ・ SP型

7．耐震壁を除く壁の開口部補強 (参考図 表4.3～4.4)
・ A形 ※ B形

8．はり貫通孔の補強 (参考図 表7.1～7.3)
補強形式 ※H3形以上 ・M型 ・MH型

⑨ 圧接完了後の抜取試験 (5.4.9)
試験方法 ※ 超音波探傷試験 ・ 引張り試験

6 コンクリート工事

① 設計基準強度 (6.1.4)
普通コンクリート（JIS A5308によるJIS表示許可工場の製造品）
○S－1参照

Fc (N/mm2)	適用箇所
※ 24	
※ 21	
※ 18	

② レディーミクスコンクリート (6.2.1)(表6.2.2)
種別 ※ Ⅰ類 ・ Ⅱ類
・コンクリート用骨材の品質試験を実施する。(構造体コンクリートのみ)
（アルカリシリカ反応試験(化学法)、密度試験、吸水率試験）
・コンクリート単位水量測定を実施する。

③ スランプ (6.2.3)(表6.2.1)
基礎，基礎梁，土間スラブ ・ 15cm ※ 18cm
捨てコンクリート ※ 18cm

④ 打放し仕上げの種類 (6.2.5)(表6.2.4)

種別	施工箇所
○ A 種	
・ B 種	
・ C 種	

⑤ セメントの種類
※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 (6.3.2)

⑥ 型枠 (6.8.3)

せき板の種類	板厚(mm)	適用箇所
※ 合板	※ 12 ・	
・ 床型枠用鋼製デッキプレート		
・ 断熱材兼用型枠		

MCR工法用シート ※ 適用しない ・ 適用する
・ ひび割れ誘発目地 (6.9.2)
目地寸法 ※ 図示
位置 ※ 図示

7．軽量コンクリート (6.10.1)(表6.10.1)

種別	適用箇所	所要気乾単位容積質量（t／m3）

8．寒中コンクリート
適用期間 コンクリート圧縮強度が5N/mm2に達するまで行うこと。 (6.11.1～4)

9．無筋コンクリート
適用箇所は6.14.1による他、下記による。 (6.14.1)
適用範囲

10．流動化コンクリート (6.15.1)(表6.15.1)

種別	ベースコンクリートのスランプ(cm)	流動化コンクリートのスランプ(cm)	使用箇所
普通コンクリート	・10 ・12 ・15	・18 ・21	

7 鉄骨工事

① 鉄骨の製作工場 (7.1.3)
※ 指定性能評価機関の性能評価を受けて、国土交通省の認定を受けた下記のグレード以上の工場
・ S ・ H ・ M ○ R ・ J
・ 本物件と同等規模構造の施工実績を有している工場で、監督員の承諾する工場

2．施工管理技術者 (7.1.3)
※ 適用する ・ 適用しない

③ 鋼材の種別 (7.2.1)(表7.2.1)

材質				規格
○SS400	○SSC400	・STK400	○STKR400	JIS表示認定製品
○BCR295	○SN400B	・SM400	・SM490	○SN490C

④ 高力ボルト (7.2.2)
※ トルシア形高力ボルト セットの種類 ※ 2種(S10T) ・
○ JIS形高力ボルト セットの種類 ※ 2種(F10T) ・
・ 溶融亜鉛めっき高力ボルト セットの種類 ※1種(F8T相当) ・

⑤ 溶接部の試験 (7.6.11)
完全溶込溶接部の試験は超音波探傷試験とし、下表による。

溶接の区分	A0QL(%)	検査水準	備考
工場溶接	・2.5 ・4.0	・4 ・	構造設計標準仕様による
現場溶接			構造設計標準仕様による

⑥ 錆止め塗装 (7.8.3)(7.8.4)(表18.3.2)(表18.3.3)
※ 適用する(標仕18章3節による)
・ 適用しない

7．耐火被覆 (7.9.2)(7.9.4～7)

種別	材料及び工法製造所	備考
・ラス張モルタル	標仕15章2節による	
・耐火材吹付け	建築基準法に基づく指定又は認定を受けたもの	※半乾式 ・湿式
・耐火板張り		
・耐火材巻付け		

8．アンカーボルトの保持及び埋込み工法 (7.2.4)(7.10.3)(表7.10.1)

種別	適用箇所
・ A 種	
※ B 種	
・ C 種	

⑨ 柱底均しモルタル (7.2.9)(7.10.3)(表7.10.2)

種別	適用箇所	
※ A 種		※ 無収縮モルタル
・ B 種		※ 無収縮モルタル

10．溶融亜鉛めっき (7.12.3)(14.2.3)

亜鉛めっき	適用箇所
※ A 種	

8 押出成型セメント板工事 コンクリートブロック・ALCパネル

1．補強コンクリートブロック造
ブロックの種類 (8.2.2)
※ 空洞ブロック 16 ・

2．コンクリートブロック帳壁及び塀
ブロックの種類
※ 空洞ブロック 16（ただし、設備配管用裏積等は空洞ブロック 08とすることができる） (8.3.2)(表8.3.1)

③ ALCパネル (8.4.2)(8.4.3～5)

工法	パネル種類	厚さ	幅	取付工法種別	施工箇所	耐火指定
○外壁パネル工法		50		・A種 ・B種 ・C種	外壁	
・間仕切りパネル工法				・B種 ・C種 ・D種 ・E種		
・屋根及び床パネル工法				※F種		
・パラペット						

4．押出成形セメント板 (8.5.2～4)(表8.5.1)(表8.5.2)

工法	パネル種類	厚さ	幅	取付工法種別	施工箇所	耐火指定
・外壁パネル工法				・A種 ・B種		
・間仕切りパネル工法				・B種 ・C種		

9 防水工事

1．アスファルト防水・改質アスファルトシート防水 (9.2.2)(9.2.3)(9.3.2)(表9.2.3～8)(表9.3.1)

種別	施工箇所
・ A－1	
・ B－1	
・ D－1	
・ E－1	
・ AS－1	

アスファルトの種類 JIS K2207のJIS表示認証製品 ※ 3種
押さえ金物（※アルミ製L－30×15×2.0 ・ ）
・ 断熱材 ※ A種押出法ポリスチレンフォーム3種b
厚さ(mm) ・25 ※30 ・50
・ 脱気装置(材質 ・ 数量・)
・ 溶接金網（規格 ）
適用防水種別（・ ）
・ 伸縮調整目地(※成形伸縮目地 ・)
製造所（ ）

② 合成高分子系ルーフィングシート防水 (9.4.2)(表9.4.1)

種別	厚さ(mm)	施工箇所	保護塗料(露出)
・S－F1	※1.2 ・		※カラー ・シルバー
○S－F2	※2.5 ・1.5	外階段・通路/サンダック ノンスキッドステップ 東リ NSステップ 800 同等品	※カラー ・シルバー
・S－M1	※1.5 ・		
・S－M2	※1.5 ・		※カラー ・シルバー
・S－M3	※1.2 ・		

ルーフィングシートの種類 JIS A6008のJIS表示認定商品
・ 脱気装置 （材質： 数量： ）
・ 絶縁シート （発泡ポリエチレンシート ）
・ その他の材料（ ）

③ 塗膜防水 (9.5.3)(表9.5.1)(表9.5.2)

種別		施工箇所	保護塗料(露出)
・ウレタン系	・X－1	バルコニー	※カラー ・シルバー
	○X－2	ひさし	※カラー ・シルバー
・ゴムアスファルト系	・Y－1	地下外壁	
	・Y－2	室内（便所・浴室）	

・ 脱気装置（材質：ステンレス製又はアルミ製 ・ ）
（設置数量： 箇所）

④ シーリング (9.7.2)
※ 被着体との組み合わせは（標仕 表9.7.1）による。

5．防水保証
アスファルト防水、改質アスファルトシート防水及び合成高分子系ルーフィングシート防水の保証期間は、引渡し日より10年間とし施工業者との連名の上、保証書を提出する。
塗膜防水については、メーカー・防水業者が通常定めている期間とし，作成し提出する。

10 石工事

1．石材 (10.2.1)(表10.1.1)(表10.2.1)(表10.2.2)

石材の種類	品質	施工箇所	工法	産地・名称	仕上の種類
花こう岩	2等	汚垂石	湿式	御影石	本磨き

2．汚れ防止
床のワックスかけ ・ 行う ・行わない (10.1.5)

11 タイル工事

1．タイル
タイルの種類 (11.1.2)

施工箇所	形状寸法(mm)	きじ 磁器	きじ せっ器	きじ 陶器	うわ薬 無釉	うわ薬 施釉	役物	役物 なし	色 標準	色 注文
玄関床		・	・	・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・	・	・

タイルの見本焼き ※ 行わない ・ 行う

2．タイル下地コンクリート
後張りタイル下地コンクリート素地面の処理 (11.1.4)
・ 行う（下記のいずれかとする） ・ 行わない

素地表面処理の工法	下地モルタル	適用箇所
MCR工法	標仕 15.2.5(C)による	
MCR工法	ポリマーセメントモルタル	
目荒し工法（高圧水洗）	標仕 15.2.5(C)による	
目荒し工法（高圧水洗）	ポリマーセメントモルタル	

MCR工法はせき板面にMCR工法用シート張りとし（6.9.3(e)）による。
目荒し工法の高圧水洗は（15.2.4(C)）による。
ポリマーセメントモルタルの調合は（15.2.3(b)）による。

接着力試験の引張接着強度 (11.1.5)(表11.1.2)

適用	引張り接着強度（単位:N/mm²）
陶磁器質タイル張りの場合	0.4以上
陶磁器質タイル型枠先付けの場合	0.6以上

3．陶磁器質タイル張り
内装タイルの工法 (11.3.3)(表11.3.2)
※ 改良積上げ張り 施工箇所（ ）
※ 接着剤張り 施工箇所（ ）

外装タイルの工法 (11.3.3)(表11.3.2)
※ 密着張り 施工箇所（ ）
・ 改良圧着張り 施工箇所（ ）

ユニットタイルの後張り工法 (11.3.3)(表11.3.2)
※ マスク張り

12 木工事

① 木材
表面仕上げの程度 ・ A種 ※ B種 ・ C種 (12.1.4)(表12.1.1)
含水率 構造材（※ A種 ・ B種 ） (12.2.1)(表12.2.1)
下地材（※ A種 ・ B種 ）
造作材（※ A種 ・ B種 ）
造作材の材面の品質 ※ A種 ・ B種 (12.2.1)(表12.2.2)
代用樹種を使用しない箇所 (12.2.1)(表12.2.2)
※ なし ・ あり（ ）

2．集成材
造作用集成材12.2.2.(2)による (12.2.1)

等級	見掛かり	その他
	※ 1等 ・ 2等	※ 1等 ・ 2等
単材の樹種		
単材の厚さ(mm)	10～15	10～15

3．床張り用合板
床下貼り用合板 (12.2.1)
※ JASの構造用合板 特類 2級 C－D
・（ ）

④ 接着剤
接着剤に含まれる可塑剤は，難揮発性のものとする。 (12.2.2)

5．木材保存剤
木材保存剤（木材の防腐・防蟻処理）は，非有機リン系のものとする。 (12.3.1)(12.3.2)
防腐・防蟻処理の方法
工場における加圧式とし，十分に乾燥を行う。ただし，現場における加工が生じた場合には，加工した箇所に対し，現場にて木材保存剤を塗布する。

13 屋根及びといし工事

① 金属板葺 (13.2.2)(表13.2.1)

材種		厚さ(mm)	屋根葺形式	備考
・JIS G 3312 カラー亜鉛鉄板（※片面塗装 ・両面塗装）	JIS G 3312	※0.4 ・	※瓦棒葺（心なし）	
・JIS G 3321 ガルバリウム鋼板（※無塗装 ）	JIS G 3312	※0.4 ・	・	AL55%
○JIS G 3322 ガルバリウム鋼板（※カラー ）	JIS G 3322	※0.4 ・ 0.5	※立ﾊｾﾞ葺	AL55%
・		・	・	

※監督員の承諾する業者とする。

2．折板葺
JIS A 6514のJIS表示認証製品 (13.3.2)

材種	規格	厚さ	山高及びピッチ	断熱材	耐火性能
・JIS G 3312の屋根用規格品（カラー亜鉛鉄板）	JIS G 3312		○ 0920	○ 有	・ 有(30分耐火)
○JIS G 3302の屋根用規格品（カラーガルバリウム鋼板）	JIS G 3322	0.6	・ 1525	・ 無	○ 無
・JIS K 6744のSGのA種規格品（ポリ塩化ビニル被覆）	JIS K 6744		・ 1730		
・			・ 1550		

・形式 （○ 重ね形 ・ はぜ締め形）
・軒先面戸 （ ）

3．粘土瓦葺
JIS A 5208のJIS表示認証製品 (13.4.2)

種類	大きさ	産地	役物瓦の種類	耐凍害性資料
				・ 提出する ・ 提出しない

④ といし
樋の材質 (13.5.2)(13.5.3)(表13.5.1)(表13.5.3)(表13.5.4)

材種	防露
・配管用鋼管（SGP）	※ 表13.5.4により行う ・行わない
○硬質塩化ビニル管	
・ステンレス管	

鋼管製といの防露巻き工法
※ （表13.5.4）による
・ 樋受石（材質・規格 ）
※ 第一桝まで接続

⑤ ルーフドレン
※ 鋳鉄製 (13.5.2)
※ 縦型 ・ 横型

14 金属工事

1．あと施工アンカー
引抜き耐力の確認試験 ・ 行う ※ 行わない (14.1.3)

2．ステンレス表面処理
※ HL ・ NO.2B (14.2.1)

3．アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理 (14.2.2)(表14.2.1)

種類	施工箇所	色合
・ B－1種		無着色
・ B－2種		ブラウン・ブラック・ステンカラー

4．鉄鋼の亜鉛めっき (14.2.3)(表14.2.2)

種類	施工箇所
・ A 種	
・ B 種	

溶融亜鉛めっきの付着量試験 ※ 行わない ・ 行う
電気亜鉛めっきの被膜厚さ及び塩水噴霧試験 ※ 行わない ・ 行う

⑤ 軽量鉄骨天井下地 (14.4.2)(表14.4.1)
野縁などの種類
屋内 ※ 19型 ・ 25型
屋外 ・ 19型 ※ 25型
耐震性を考慮した補強 (14.4.3)(14.4.4)
※ 行わない ・ 行う（補強方法と補強箇所は図示による）
耐風圧性を考慮した補強（ピロティ、屋外軒天井等）
※ 行わない ・ 行う（補強方法と補強箇所は図示による）
床版の断熱材打込部分は断熱用インサートを使用する。

⑥ 軽量鉄骨壁下地
スタッド、ランナーなどの種類は、（表14.5.1）による。 (14.5.3)(表14.5.1)

摘要	月 日		

ESSE INC.
甲府市飯田4丁目7-14
株式会社 イズ
TEL 055 (226) 8888(代)
FAX 055 (226) 5727
一級建築士 長田 孝三 第123273号
一級建築士事務所 第1- 031039号
E-mail : esse@coral.plala.or.jp

管理建築士	検図者	設計者	担当者

作製 令和 6 年 12 月 20 日

工事名称 千塚分団本部拠点施設建設（建築主体）工事
図面名称 建築特記仕様書 (2)
縮尺 A-2 NO SCALE A-3(35.35%に縮小)
図面番号 A － 04

7．金属成形板張り

種　別　（　　）　(14.6.2)(14.6.3)
表面処理　（　　）
※　割付図を作成し監督員の承諾を受ける。
伸縮調整接手　・　設ける　・　設けない

⑧ アルミニウム製笠木

表面処理　※　B-1種　・　B-2種　(14.7.2)(表14.7.1)
隅角部及び突当り部の役物の使用
※　使用する（笠木本体製作所の仕様による。）

9．手すり及びタラップ

(14.8.2)(14.8.3)

	材料の種別	表面処理の種別
手すり	・ ステンレスSUS304	HL仕上程度
	・ 鋼　製	亜鉛めっきの場合表14.2.2のC種
タラップ	※ ステンレスSUS304	外部HL仕上程度，内部No.2B仕上程度

10．体育館の鋼製床下地材

※　JIS A 6519　のJIS表示認証製品

15 左官工事

1．セルフレベリング材

・　せっこう系　・　セメント系　(15.4.2)(表15.4.1)

② 仕上げ塗材仕上げ

(15.5.2)(表15.5.1～2)

規格名称	種類(呼び名)	仕上の形状	工　法	上塗り材
・ 薄付け仕上げ塗材	・外装薄塗材　E ・内装薄塗材　E ・	・砂壁状 ・砂壁状 ・じゅらく ・ゆず肌	※吹付け ・ローラー	
・ 厚付け仕上げ塗材	・外装厚塗材　C ・内装厚塗材　C ・外装厚塗材　E ・		※吹付け ・こて	
※ 複層仕上塗材	・複層塗材　CE ※複層塗材　E ・複層塗材　RS ・複層塗材　RE ・複層塗材　Si ○防水形 複層塗材　E ・防水形 複層塗材　RS ・	○ゆず肌 ・凸部処理 ・凸凹模様	※吹付け ・ローラー	溶剤 ※水系　・溶剤系 ・弱溶剤系 外観 ※つやあり ・メタリック 樹脂 ※アクリル系 ・シリカ系 ・ポリウレタン系 ・アクリル ・シリコン系 ・フッ素系
・ 軽量骨材仕上塗材	・吹付用軽量塗材 ・こて塗用 ・軽量塗材		・吹付け ・こて塗り	

複装仕上塗材の耐候性　・　1種　・　2種　※　3種

3．ロックウール吹付け（耐火被覆は，7章による）

吹付け厚さ（mm）　※　10　・　(15.7.3)

16 建具工事

1．一般事項

防火戸の指定　(16.1.3)
・　適用する（適用範囲は図示及び建具表による）
※　建築基準法第2条第九号の二ロの規定に定められたもの
※　認定を受けたもの(監督員の承認を受ける。)
※　適用しない

防火戸との連動　(16.1.3)
・　適用する(適用箇所は建具表及び図示による)
・　自動閉鎖機構　・　ヒューズ装置　・　熱感知器　・　煙感知器

見本の製作等　(16.1.4)
製　作　※　行わない　・　行う（建具表による）
仮　組　※　行わない　・　行う（建具表による）
防犯建物部品　※　使用する　・　使用する（建具表による）　(16.1.6)

② アルミニウム製建具

外部に面する建具性能等級等　(16.2.2)(16.2.4)(表16.2.1)(表14.2.1)

種　別	耐風圧性	気密性	水密性	枠の見込み寸法(mm)
○ A　種	S－4	A－3	W－4	70（引違い，片引き，上げ下げ窓で複層ガラスの場合では性能が確保できない場合は，100）
・ B　種	S－5			
・ C　種	S－6	A－4	W－5	100

表面処理	外部に面する建具	※　B－1種　・　B－2種
	内部建具	※　C－1種　・　C－2種

B－2種，C－2種の場合　・ブロンズカラー（※標準色　・濃色）
・ステンカラー

防音ドアセット，防音サッシ　・　適用する（適用箇所は図示による）
※　適用しない
適用する場合の遮音性の等級　・　T－1　・　T－2　・　T－3

断熱ドアセット，断熱サッシ　・　適用する（適用箇所は図示による）
※　適用しない
適用する場合の断熱性の等級　・　H－2　・　H－3

耐震ドアセット，耐震サッシ　・　適用する（適用箇所は図示による）
※　適用しない
適用する場合の面内変形追随性の等級　・　D－1　・　D－2

③ 網戸

使用方法による区分　※外部納まりの可動式　○内部納まりの開き式　(16.2.3)

防虫網（線径0.25mm　網目16-18メッシュ）
・ガラス繊維入り合成樹脂　※ステンレス(SUS 316)　・合成樹脂

防鳥網
※ステンレス（SUS304）線径1.5mm　ピッチ15mm

4．鋼製建具

簡易気密型ドアセット　(16.4.2)(16.4.4)(表16.4.1)(表16.4.2)
※　使用する（適用箇所は図示とする）
気密性　※　A－3　・
水密性　※　W－1　・
・　使用しない

外部に面する建具の耐風圧性　※　S－4　・　S－5

建具寸法が(16.3.4(a))を超える又は図示された建具に使用する鋼板類の厚さ

区　分		使用箇所	厚さ　(mm)
窓	枠類	枠，方立，無目	(表16.3.2)に同じ
出入口	枠類	一般部分	2．3
	戸	中骨	2．3
上記以外			(表16.3.2)に同じ

標準型鋼製建具　※　使用する　・　使用しない　(16.4.6)

5．鋼製軽量建具

簡易気密型ドアセット　(16.5.2～4)(表16.5.1)
※　使用する（適用箇所は図示による）
気密性　※　A－3
・　使用しない

戸の鋼板　※　表面処理亜鉛めっき鋼板
・　ピニル被覆鋼板
・　カラー鋼板

標準型鋼製軽量建具　※　使用する　・　使用しない　(16.5.6)

標準型鋼製軽量建具の小窓枠，ガラリ　※　鋼製　・　アルミ製

6．ステンレス製建具

簡易気密型ドアセット　(16.6.2～5)
※　使用する（適用箇所は図示とする）
気密性　※　A－3　・
水密性　※　W－1　・
・　使用しない

外部に面する建具の耐風圧性　※　S－4　・　S－5

表面処理　・　HL　・
鋼板の曲げ加工　※　普通曲げ　・　かど出し曲げ

⑦ 木製建具

(16.7.2～4)
建具材の加工。組立時の含水率　・　A種　※　B種　・C種
かまち戸の樹種　かまちは杉上小節程度　桟，鏡板は杉無節程度
ふすまの上張り　※　新鳥の子程度又はビニル紙程度
ふすまの種類　※　戸ふすま　・　在来型　・　チップ型

⑧ 建具用金物

(16.8.2)(表16.8.1)

金物の種類	型　式	製造所
モノロック		
本締り付きモノロック		
シリンダー箱錠		
シリンダー本締り錠		
ドアクローザー		
フロアヒンジ		
ヒンジクローザー	内　蔵　型	JIS表示認定製品。
ピボットヒンジ		
レバーハンドル	アルミ合金 レバー長さ　L=130程度	錠前類と同一製造所とする。

標準型鋼製建具及び標準型軽量鋼製建具(準標準型共)のドアクローザー，シリンダー箱錠は公共工事標準型とする。

マスターキーの作成　○　要　・　不要　(16.8.4)
・　不要(既存マスターキーで施解錠可能とする。)

9．自動ドア開閉装置

性能　・　スライディングドア　(16.9.2)(表16.9.1～2)
・　スイングドア

センサーの種類　・　光線式（反射）スイッチ　(16.9.3)(表16.9.3)
・　マットスイッチ式
・　タッチスイッチ式
・　補助センサ併用
・

凍結防止装置　・　要　※　不要
全半開装置　※　設ける（半開幅＝　　）
・　設けない

10．重量シャッター

(16.11.2)（表16.11.1）

種　類	シャッターケース	耐風圧性能	開閉方式	保護装置
・ 一般シャッター	※　設ける ・　設けない	・ 50 ・ 80 ・ 120 ・ (JIS A 4705による強さの区分)	※　上部電動式（手動併用） ・上部手動式	障害物感知装置（自動閉鎖型） ※　設ける ・　設けない
・ 防火シャッター ・　外部用 ・　内部用	※　設ける ・		※　上部電動式（手動併用）	障害物感知装置（自動閉鎖型）を設ける。
・ 防煙シャッター				

(16.12.2～4)(表16.12.1)

開閉形式	シャッターケース	耐風圧性能	スラットの形状	保護装置
※　手動式 ・　上部電動式（手動併用）	※　設ける ・　設けない	・ 50 ・ 65 ・ 80 ・ (JIS A 4705による強さの区分)	○ インターロッキング型 ※　オーバーラッピング型	障害物感知装置（自動閉鎖型） ※　設ける ・　設けない

11．軽量シャッター

12．オーバーヘッドドア

(16.13.2)(16.13.3)

材　質	開閉方式	収納形式	耐風圧性能	ガイドレール
※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	※　バランス式 ・　チェーン式 ・　電動式	※　スタンダード形 ・　ローヘッド形 ・　ハイリフト形 ・　バーチカル形	・　50 ・　75 ・100 ・125 (JIS A4715による強さの区分)	※　溶融亜鉛メッキ鋼板 ・　ステンレス鋼板

保護装置
障害物感知装置　※　設ける　・　設けない

⑬ ガラス

(16.14.2)(16.14.3)(表16.14.1)
※　外部の建具に使用するガラスは，建築基準法に基づく耐風圧性能を有すること。
※　ガラスの材料，厚さ，それぞれの種類等は建具表及び図示による。
合わせガラスの特性
・　I類　・　II－1類　・　II－2類　・　III類
強化ガラスの特性
・　I類　・　III類
熱線吸収板ガラス
性能　・　1類　・　2類
色調　・　ブルー　・　グレー　・　ブラウン
複層ガラス
性能　・　1種　・　2種
・　3種　（・　U3－1　・U3－2）
・　4種　・　5種
封止の加速耐久性による区分
・　I類　・　II類　・　III類
熱線反射ガラス
日射遮へい性　・　1種　・　2種　・　3種
耐久性　・　A類　・　B類
色調　・　ブルー　・　グレー　・　ブロンズ
・　シルバー
反射皮膜　・　内側　・　外側
映像調整　・　行う　・　行わない

ガラスの留め材
※　シーリング　・　ガスケット（可動アルミ建具に限る）
防火戸のガラスの留め材は建築基準法の認定を受けたシーリング材とする。
ガラスの溝幅については、標仕(表16.13.1)による。ただし強化ガラス、合わせガラス及び倍強度ガラスの溝幅は図示による。

複層ガラスの保証期間は引き渡し日から10年間とし、メーカー保証書を提出する。

14．ガラスブロック（中空）

JISによる区分　(16.14.5)

表面形状による区分	モジュール呼び寸法による区分（長さ×高さ）		厚さによる区分
正方形	・ 125×125 ・ 200×200	・ 160×160 ・ 320×320	・ 80 ・ 95
長方形	・ 250×125	・ 320×160	・ 125

品質等

ガラスの種別	柄	目地色	金属枠	耐火性能
・ 一般ガラス ・ 乳白ガラス ・ カラーガラス ・ 熱線反射ガラス	・ 無 ・ 有	・ 白 ・ グレー	・ アルミニウム製（表面処理　） ・ ステンレス製（表面仕上　）	・ 規定しない ・ 有（　　分間）

17 カーテンウォール工事

1．カーテンウォールの性能

(17.1.3)(17.2.2)(17.3.2)

カーテンウォール種別	メタルカーテンウォール	PCカーテンウォール
材　種		
耐風圧性		
耐震性		
水密性		
気密性		
耐火性		
耐温度差性		
遮音性		
断熱性		
材質等性能の確認方法		
シーリング材		
構造ガスケット		
ガラス		
断熱材料		
枠見込み		
表面仕上げ		

18 塗装工事

① 一般事項

屋内の壁及び天井の塗装の仕上げは、建築基準法に基づく基材同等の認定のあるものとする。　(18.1.3)

② 素地ごしらえ

各部の素地ごしらえ　(18.2.2～7)
木　部　※A種（不透明塗料塗）　※B種（透明塗料塗り）
鉄鋼面　・A種　・B種　※C種
亜鉛めっき鋼面　・A種　※B種　・C種
モルタル・プラスター面　・A種　※B種
コンクリート・ALC面　※A種　・B種
ボード面　※A種（縦目処理工法）　※B種（その他）

③ 錆止め塗料塗り

塗料の種別　(18.3.2)
鉄鋼面　※A種　※B種（標準仕様書8節の場合）
亜鉛めっき面　※A種　・B種
・C種（標準仕様書8節の場合）

錆止め塗料塗り　(18.3.3)
鉄鋼面　※A種（見え掛り）　※B種（見え隠れ）
亜鉛めっき面　・A種（鋼製建具等）・B種　※C種（その他）

④ 合成調合樹脂ペイント塗り（SOP）

塗料の種別　※1種　・2種　(18.4.2)
合成樹脂調合ペイント塗り　(18.4.3～5)
鉄鋼面　・A種　※B種
木部　※A種（屋外）　※B種（屋内）

5．クリアラッカー塗り（CL）

木部のクリアラッカー塗り　・A種　※B種　(18.5.2)

6．アクリル樹脂非分散系塗料塗り（屋内）（NAD）

アクリル樹脂非分散系塗料塗り
コンクリート・モルタル面　・A種　※B種　(18.6.2)

⑦ 耐候性塗料塗り（DP）

上塗りの等級　(18.7.2～3)(表18.7.1～2)
鉄鋼面　※1級　・2級　○3級
亜鉛めっき鋼面　※1級　・2級　○3級
コンクリート面及び押出成形セメント板面の種別　(18.7.4)(表18.7.3)
・A種　※B種　・C種

8．つや有り合成樹脂エマルジョンペイント塗り（EP－G）

つや有り合成樹脂エマルションペイント塗り　(18.8.2～4)
コンクリート・モルタル・プラスター・石こうボード・その他のボード面
・A種　※B種
木部（屋内）（多孔質広葉樹を除く）
鉄鋼面（屋内）　・A種　※B種

9．合成樹脂エマルションペイント塗り（EP）（AEP）

合成樹脂エマルションペイント塗り　(18.9.2)
コンクリート・モルタル・プラスター・石こうボード・その他のボード面
・A種　※B種

10 エマルション模様塗料塗り（EP－T）

合成樹脂エマルション模様塗料塗り　(18.10.2)
コンクリート・モルタル・プラスター・石こうボード・その他のボード面
・A種　※B種

11．ウレタン樹脂ワニス塗り（UC）

木部のウレタン樹脂ワニス塗り　(18.11.2)
・A種　※B種

12．ラッカーエナメル塗り（LE）

木部のラッカーエナメル塗り　(18.12.2)
・A種　※B種

13．木材保護塗料塗り（WP）

木部の保護塗料塗り　(18.14.2)
・A種　※B種

19 内装工事

① ビニル床シート

JIS A5705のJIS表示認証製品　(19.2.2)(19.2.3)

種　類	記号	色　柄	厚さ(mm)	特殊機能	工法
※　発泡層のないもの	※FS ・TS	※無地 ・マーブル	※　2.0 ○　2.5	・帯電防止 ・帯動荷重	※熱溶接 ・突付け
・　発泡層のあるもの	・HS ・KS	・	・	・	・

2．化粧ビニル床シート

JIS A5705のJIS表示認証製品で，表面は印刷シートに透明表層を有した木目又は石目調のもの

種類の記号	色　柄	厚さ(mm)	特殊機能	工　法
FS	※　木目調 ・　石目調	※　2.0 ・　2.5	・帯電防止 ・帯動荷重	※熱溶接 ・突付け

上記以外はすべてビニル床シートに同じ

3．ビニル床タイル

JIS A5705のJIS表示認証製品　(19.2.2)(19.2.3)

種　類	記号	寸法	暑さ(mm)	特殊機能
※　コンポジションビニル床タイル	※KT	※300×300	※　2.0 ・	・帯電防止 ・耐動荷重
・　ホモジニアスビニル床タイル	・FT	・300×300 ・450×450	・　2.0 ・	・帯電防止 ・耐動荷重

4．ビニル床シート・ビニル床タイルの特殊機能

帯電防止
・　帯電防止性能評価（JIS A 1445）1.2～3.1程度
又は耐電圧（JIS L 1023)3kv以下
・　帯電防止性能評価（JIS A 1445）3.2～5.1程度
又は漏えい抵抗値(JIS A 1454)0.1×1010オーム未満
・　帯電防止性能評価（JIS A 1445）5.2以上
又は漏えい抵抗値(JIS A 1454)0.1×107オーム未満

耐動荷重
JIS A 1454によるへこみ試験、残留へこみ試験、滑り性試験、層間剥離強度試験(発泡層のあるビニルシートのみ)およびキャスター性試験等の試験後異常がないこと。

5．視覚障害者用床タイル

(19.2.2)

材　質	寸　法（mm）
・　塩化ビニル系　・　せっ器質タイル系	300×300

⑥ ビニル幅木

材　種　※　軟質　・　硬質　・　溶接　(19.2.2)
高　さ（mm）　○　60　※　75　○　100
厚　さ（mm）　・　1．5　※　2．0

7．カーペット敷き

・　タフテッドカーペット　(19.3.3)(19.3.4)(表19.3.2)

施工箇所	パイル形状	パイル長さ(mm)	工　法	品　質	帯電性
			※　全面接着工法 ・　グリッパー工法		・(19.3.3)による

品質は参考商品名である

・　タイルカーペット　(19.3.3)(19.3.4)(表19.3.2)

施工箇所	種　類	パイル形状	寸　法	総厚さ	帯電性
	※第1種 ・第2種	※ループパイル ・カットパイル	※500×500 ・	※　6.5 ・	製造所の仕様による

8．フローリング張り

・単層フローリング　(19.5.2～3)(19.5.5～7)(表19.5.3～4)

種　別	樹種	厚さ(mm)	工法	塗装
・　フローリングボード	※ナラ ・	※15　幅　75 ・　長さ500以上	・釘止め工法 ・接着工法	※ウレタン樹脂ワニス塗り ・オイルステン塗りの上ワックス ・生地のままワックス ・既塗装品
・　フローリングブロック	※ナラ ・	※15　303×303 ・	・モルタル埋込み工法 ・接着工法	
・　モザイクパーケット	※ナラ ・	・6　・8　・9 ・	・接着工法	
・	・	・		

摘　要	月　日			

ESSE INC.
甲府市飯田4丁目7-14
株式会社　イズ
TEL　055 (226) 8888(代)
FAX　055 (226) 5727
一級建築士　長田 孝三　第123273号
一級建築士事務所　第1- 031039号
E-mail : esse@coral.plala.or.jp

管理建築士	検図者	設計者	担当者	工事名称	千塚分団本部拠点施設建設（建築主体）工事	図面番号
作　製　令和 6 年 12 月 20 日				図面名称	建築特記仕様書 (3)	A － 05
				縮尺	A-2 NO SCALE A-3(35.35%に縮小)	

19 内装工事

・複層フローリング

種　別	樹種	種別	防湿処理	工法	塗装
※　複合１種フローリング ・　複合２種フローリング ・　複合３種フローリング	※ナラ ・サクラ ・ヒノキ ・	・Ａ種 ・Ｂ種 ※Ｃ種	・行う ※行わない	・釘止め工法 ・接着工法	※ウレタン樹脂ワニス塗 ・オイルステン塗りの上ワックス ・生地のままワックス ・既塗装品
・　大型積層フローリング	・ナラ ・サクラ ・	・	・行う ※行わない	・特殊張り工法 （体育館床）	

9．畳　敷　き

畳の種別　・　Ａ種　　・　Ｂ種　　※　Ｃ種　　・　Ｄ種　(19.6.2)(表19.6.1)

⑩ 石こうボードその他ボード及び合板張り　(19.7.2～3)(表19.7.1)(表19.7.5)

種類又は記号	種別など	厚さ(mm)		規格番号
けい酸カルシウム板（繊維強化セメント板）0.8ＦＫ又は1.0ＦＫ		壁	・　8(不燃) ・　10(不燃) ・　12(不燃)	JIS A 5430（タイプ2）
		天井	・　6(不燃) ・　5(不燃)	
グラスウール吸音ボード（吸音材料）ＧＷ－Ｂ	ガラスクロス（JIS A 3414 EP18程度）額縁張り品		25(不燃)	JIS A 6301（32K）
ロックウール化粧吸音板（吸音材料）ＤＲ	※ 内部用 ・ 軒天用	普通	・　9(不燃) ・　12(不燃)	JIS A 6301
		立体模様	・　12(不燃) ・　15(不燃) ・　19(不燃)	
せっこうボード（せっこうボード製品）ＧＢ－Ｒ　ＧＢ－Ｒ－Ｈ		壁	・　9.5(準不燃) ⊙　12.5(不燃) ・　15(不燃)	JIS A 6901
		天井	・　9.5(不燃) ※　12.5(不燃)	
シージングせっこうボード（せっこうボード製品）ＧＢ－Ｓ		壁	○　12.5(準不燃)	JIS A 6901
		天井	・　9.5(準不燃) ・　12.5(準不燃)	
化粧せっこうボード（せっこうボード製品）ＧＢ－ＮＣ	トラバーチン模様 色　※白 ・黄		※ 9.5(準不燃)	JIS A 6901
強化せっこうボード（せっこうボード製品）ＧＢ－Ｆ		壁	・　12.5(不燃) ※　15　(不燃)	JIS A 6901

せっこうボードの目地処理　・　継目処理工法　・　突き付けＶ目地工法　・　突き付け工法　・　目透し工法

11．遮音シール材　・　アクリル系シーリング材　※　ジョイントコンパウンド　(19.7.2)

⑫ 壁紙張り　(19.8.2)

施　工　箇　所	品　質	防火性能の級別
仕上表による	プラスチック系	⊙不燃　⊙準不燃　・その他
		・不燃　・準不燃　・その他
		・不燃　・準不燃　・その他

品質は参考商品名である。

⑬ 断　熱　材

断熱材の打込み及び現場発泡工法　(19.9.2)(19.9.3)

種　類		箇　所	厚さ(mm)	備　考
・　ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材	・Ａ種ビーズ法 ※Ａ種押出法２種ｂ		・　25 ・	JIS A 9511の JIS表示認証製品
※　押出法ポリスチレンフォーム保温材（Ａ種）	・２種ｂ ・３種ｂ（スキン層あり）	下記以外 接地部分及び屋根防水部分ピット内部	※　25 ・	
・　硬質ウレタンフォーム保温材	※Ａ種 ・	・	・	
・　フェノールフォーム保温材	※Ａ種 ・	・	・	JIS A 9511の JIS表示認証製品
⊙　吹付け硬質ウレタンフォーム保温材	※Ａ種１ ・	⊙外壁廻り	※　20 ・	JIS A 9526 による難燃性 ・２級　※３級
・	・	・	・	

※　施工範囲は建築工事標準詳細図(図7-01-1)による。

上記以外に用いる断熱材

種　類		箇　所	厚さ(mm)	備　考
・　ＪＩＳＡ発泡プラスチック保温材	・Ａ種ビーズ法		※　25	JIS表示認証製品
	※Ａ種押出法２種ｂ	下記以外		
	※Ａ種押出法３種ｂ（スキン層あり）	接地部分及び屋根防水部分ピット内部		
⊙　グラスウール保温材	※16Ｋ品	２階天井裏	※　105 ・	JIS表示認証製品

※　グラスウール使用部分の室内側防湿シート
※　被覆品　・防湿層ポリエチレンフィルム(t0.15)張り　(重ね100)

20 ユニット及びその他の工事

1．フリーアクセスフロア　(20.2.2)

施工場所	工法	仕上り高(mm)	適用地震時水平力(Ks)	耐荷重性能(N)	表面仕上げ
	・溝工法（置敷工法）		・　1.0G ※　0.6G	・ 3,000 ・ 5,000 ・	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット
	・支柱一体型パネル工法（置敷工法）				
	・支柱分離型パネル工法（独立支柱工法）				

ボーダー部　※　一般部分の仕様に準ずる　・　図示による
床表面仕上げ材の品質は第6章による。
配線取出し用切り欠きパネルは１枚／㎡以上とする。
空調用吹き出し(吸い込み)パネル　※　なし　・　有り（※固定式　・可変式）
施工箇所は図示

2．可動間仕切（パーテーション）　(20.2.3)

構造形式による種類	スタッド式密閉形
構成材の種類	アルミニウム合金系又はスチール系
パネル表面材	焼付塗装鋼板（標準色）ｔ＝０．５以上
遮音性	３６dB以上
防火性能	不燃

3．移動間仕切（スライディングドア）　(20.2.4)

パネルの操作方法による種類	規定しない
パネル表面材の材質及び仕上げ	製造所仕様の化粧鋼板（標準色）ｔ＝０．５以上
パネル圧接装置の操作方法	ハンドル回転式又はワンタッチ上下式
遮音性	３６dB以上
防火性能	不燃
取り付け用あと施工アンカー	材質，寸法等は図示又は製造所の仕様による

4．トイレブース　(20.2.5)

表面材	カラーポリ合板
幅　木	ステンレス製 Ｈ＝６０
フレーム	アルミ製
扉	厚４０ 中心吊アール形アルミ製エッジ，帽子掛け戸当たり付き

5．階段滑り止め（ノンスリップ）　(20.2.6)

材　種	ステンレス（ＳＵＳ３０４）ビニールタイヤ入り（幅約35mm）
取り付け方法	※　接着工法　・　埋込み工法

6．床目地棒　(20.2.7)

ステンレスＦＢ（ＳＵＳ３０４）　５～６×１２
（床仕上げが異なる場合に設ける。但し、建具部は建具表による。）

⑦ 黒板及びホワイトボード　(20.2.8)

形式　⊙　平面　・　曲面

8．鏡　(20.2.9)

耐湿鏡　ｔ＝５　ステンレスフレーム付き

9．表示標識　(20.2.10)

衝突防止表示　ステンレス製　ＨＬ仕上げ　Φ３０程度　市販品
誘導標識　市販品
室名札・ピクトサイン

10．煙突ライニング材　(20.2.11)

煙突用成形ライニング材　安全使用温度　４００℃

⑪ ブラインド　(20.2.12)

形　式		
スラット	※　横型ブラインド	・　縦型ブラインド
スラット	※　アルミニウム合金	※　クロススラット
開閉方式	※　ギヤー式　・コード式	※　２本操作コード方式
スラットの成形（mm）	※　２５　・　３５	・　８０　・　１００

12．ロールスクリーン　(20.2.13)

操作方式　・スプリング式　※ チェーン式　・ 電動式
スクリーンの生地　無地で製造所仕様の標準タイプ

13．カーテン　(20.2.14)(表20.2.1)

名称・品質など	ひだの種類	形　式	引分け装置
ビニールカーテン	※　箱ひだ、つまひだ ・	⊙片引き ・引分け	※手引　・ひも引 ・電動
	※　箱ひだ、つまひだ ・	・片引き ・引分け	※手引　・ひも引 ・電動
	※　箱ひだ、つまひだ ・	・片引き ・引分け	※手引　・ひも引 ・電動

14．カーテンレール　(20.2.14)

材　質	※　ステンレス製	・　アルミニウム製	
形　状	※　Ｄ型又は角型	・　Ｃ型	

表面処理　※　Ｂ－１種　・　Ｂ－２種

15．アルミニウム製カーテンボックス

⑯ 点　検　口

施工箇所	材　種	寸　法	形　式
天　井	※　アルミニウム製 ・	※　４５０×４５０ ・　６００×６００	※　目地タイプ ・　額縁タイプ
床	※　アルミニウム製 ・	・　４５０×４５０ ※　６００×６００	※　一般形貼物用 ・　一般形充填用

17．くつふきマット

材　種	受　わ　く
※　塩化ビニール製又は塩化ゴム製 ・　硬質アルミニウム合金製 ・　ステンレス製（SUS 304）	※　ステンレス製（SUS 304） ・　硬質アルミニウム合金製

20 ユニット及びその他の工事

18．ステンレス流し台　※　600×600（ﾊﾞｯｸｶﾞｰﾄﾞ厚60以上）トラップ付
・

⑲ ｼｽﾃﾑｷｯﾁﾝ　※　フロアユニット　ステンレストップ W=1650 加熱機器 ＩＨヒーター W=450付
・

⑳ つり戸棚　※　ウォールユニット（システムキッチン同一システム）　W900×H700
・

㉑ 換気フード　※　ブーツ型換気フード　W=750

22．旗竿受金物　※　ステンレス製（SUS 304）既製品　彫り込みタイプ既製品

23．旗　竿　※ 既設移設
形　式　※　テーパー式　・　同一断面式　Ｈ＝
材　種　※　アルミニウム合金　・　≒ 10.0　m
操作方式　※　ハンドル式　・　ロープ式

24．屋内掲示板　※　既製品　アルミニウム製枠　表面発泡シート張り

25．視覚障害者用誘導ブロック　屋　外　※　コンクリート製　・　磁器質タイル（※　３００角　・　１５０角）

26．出隅面取材　材　種　※　アルミニウム合金製　・
高　さ　※　天井まで　・　１．８m程度

㉗ かご箱　市販品　フック数（木）・　３０　・　４０　・　６０　・　１００

※ダイヤル式キーボックス外壁固定用（朝日工業キーブロックⅠ型同等品）

28．身障者用可動手すり　※ 設備工事（補強のみ建築工事）

29．消火器ボックス　鋼製　既製品

㉚ ピクチャーレール　アルミ製　既製品：ﾜｲﾔｰ，ﾌｯｸ等の吊り金物（４セット／ｍ）共　天井付　中量級

30．郵便受　図示

21 排水工事

1．グレーチング　※　鋼製　・　ステンレス製　(21.2.2)

2．鋳鉄製マンホール蓋　簡易密閉式とし，表面には用途別の標準文字付きとする。　(21.2.2)

22 舗装工事

① 再　生　材　※　使用する　・　使用しない　(22.1.3)

2．盛土材料　路床の盛土材料　・Ａ種　※ Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　(22.3.3)

3．遮断層及び凍上抑制層用材料　遮　断　層　※　川砂・海砂又は良質な山砂　(22.2.2)(22.2.3)
凍上抑制層　※　再生クラッシャラン　・　切込砂利又は切込砕石

4．路床安定処理　路床安定処理添加材料　(22.2.2)(22.2.3)(表22.2.2)
※　普通ポルトランドセメント　・高炉セメントＢ種
・　生石灰（・特号　・１号）　・消石灰（・特号　・１号）

5．路床土の支持力比（ＣＢＲ）試験　※　行わない　・　行う（※　乱した土　・　乱さない土）　(22.2.5)

6．路床締固め度の試験　※　行わない　・　行う　(22.2.5)

7．砂の粒度試験　※　行わない　・　行う　(22.2.5)

⑧ 路盤材料　※　再生クラッシャラン　ＲＣ－４０　(22.3.3)（表22.3.2）
（透水性舗装の場合を除く）
・　クラッシャラン　Ｃ－４０
・　クラッシャランスラグ　ＣＳ－４０

⑨ 路盤の締固め度の試験　※　行わない　・　行う　(22.3.5)

⑩ アスファルト舗装　加熱アスファルト混合物の種類　(22.4.4)(表22.4.6)

表　層	※　再生密粒度アスファルト混合物（１３） ・　密粒度アスファルト混合物（１３） ・　細粒度アスファルト混合物（１３） ・
基　層	※　再生粗粒度アスファルト混合物（２０） ・　粗粒度アスファルト混合物（２０） ・

アスファルト混合物等の抽出試験　※　行わない　・　行う　(22.4.6)

⑪ コンクリート舗装　早強セメント　・　使用する　※　使用しない　(22.5.3)
溶接金網　※　あり　・　なし
コンクリート版の厚さの試験　・　行う　※　行わない　(22.5.6)

12．カラー舗装　(22.6.2)

種　類		部　位		厚　さ
加熱系	※　アスファルト混合物	・　車道部	・　歩道部	・　３０
	・　石油樹脂系混合物	・　車道部	・　歩道部	・　５０
常温系	・　樹脂系混合物	・　車道部	・　歩道部	・
	・　ニート工法	・　車道部	・　歩道部	・
	・　塗布工法	・　車道部	・　歩道部	・

着色骨材・自然石（　　）　(22.6.3)

13．ブロック系舗装　・　コンクリート平板舗装　※　砂目地　・　モルタル目地　(22.9.2)(表22.9.1)
・　インターロッキングブロック舗装
・　舗　石　基　層　※　コンクリート舗装　・　アスファルト舗装

⑮ 砂利敷き　・　Ａ種　※　Ｂ種　・　(22.10.2)

16．区　画　線　※　ＪＩＳＫ５６６５　３種１号白

23 植栽工事

1．植栽地の試験　透水性及び土壌硬度の確認　※　行う　・　行わない　(23.1.3)
塩分量及び土壌の酸度の試験　・　行う　※　行わない

2．植栽基盤　・　適用する　※　適用しない　(23.2.2)(表23.2.2)

種　別	樹　種　等	植栽基盤の適用
・　Ａ種	樹木	・　適用する　※　適用しない
・　Ｂ種	芝，地被類木	※　適用する　・　適用しない
・　Ｃ種		
・　Ｄ種		

3．植込み用土　※　現場発生の良質土　・　客土　(23.2.3)

4．土壌改良材　※　適用する　・　適用しない　(23.2.3)
土壌改良材は，植栽を行う植込等の面積１㎡当たりバーク堆肥で５０リットル，発酵下水汚泥コンポストで１０リットルとする。

5．芝　種　別　※　こうらい芝の類　・　野芝の類　(23.4.2)

6．屋上緑化　(23.5.2)(23.5.3)

工　法	土壌層厚さ	保水・排水層
・　屋上緑化システム	・　６ｃｍ ・　１２ｃｍ ・　３０ｃｍ	・　適用する 材質（・　軽量骨材 ・　板状成形品） ・　適用しない
・　屋上緑化軽量システム	※　システム製作所の使用による	

摘　要

月　日			

ESSE INC.
甲府市飯田4丁目7-14
株式会社　イ　ズ
ＴＥＬ　055（226）8888(代)
ＦＡＸ　055（226）5727
一級建築士　長田 孝三　第123273号
一級建築士事務所　第1- 031039号
E-mail ： esse@coral.plala.or.jp

管理建築士	検図者	設計者	担当者

作　製　令和 6 年 12 月 20 日

工事名称　千塚分団本部拠点施設建設（建築主体）工事

図面名称　建築特記仕様書（4）

縮尺　A2：NO SCALE　A-3(35.35%に縮小)

図面番号　A － 06

設 計 概 要

工 事 名 称	千塚分団本部拠点施設建設（建築主体）工事		
地 名 ・ 地 番	山梨県甲府市千塚一丁目1842の一部		
建築主住所・氏名	甲府市丸の内一丁目18番1号　　甲府市　　甲府市長　樋口 雄一		
主 要 用 途	その他（消防団詰所）	工 事 の 種 別	新築工事
構 造 ・ 規 模	鉄骨造２階建て	前 面 道 路	県道6号甲府韮崎線　幅員16.00m
都市計画区域	都市計画区域内	防 火 地 域	指定なし　22条地域
用 途 地 域	第一種住居地域	道路斜線制限	1.25
その他の地域地区	下水道供用開始区域	容　積　率	64.94% ＜ 200%（指定）
建　蔽　率	33.73% ＜ 60%（指定）	床　面　積	延床面積：184.36㎡
敷 地 面 積	283.92㎡		1階：92.18㎡　2階：92.18㎡
建 築 面 積	95.75㎡	最高の軒の高さ	7.735m
最 高 の 高 さ	8.280m		
別 途 工 事			

外 部 仕 上 表

屋根	カラーＧＬ鋼板 t=0.6 ルーフデッキ 山高=88（不燃性断熱材裏打貼）、換気面戸、折版谷用雪止付雪止めアングル2段(亜鉛メッキ品) 雨押え：カラーＧＬ鋼板　ｔ＝0.4加工　　鼻隠し：カラーGL鋼板　ｔ＝0.5　既製品 パラペット立上り部：カラーＧＬ鋼板張　ｔ＝0.4/硬質木毛セメント板　ｔ＝18　　笠木：アルミ製笠木　W＝200
庇屋根	カラーGL鋼板ｔ＝0.4立ハゼ葺き/アスファルトルーフィング22kg/硬質木毛セメント板ｔ＝18
軒天	EP塗/ケイカル板ｔ＝6目透張り/LGS　　廻り縁：塩ビ製 屋根水下先端部分　ルーフデッキ裏面現し（現し部分の不燃性断熱材は無し）
樋	軒樋：硬質塩ビ製（カラー） W=200　・　竪樋：Φ100 硬質塩ビ製（カラー）・　外階段通路部分：シート防水用鋳鉄製中継ドレイン
外壁	防水型複層塗材Ｅ吹付/ＡＬＣ版 t=50 横張り/Ｃ形鋼縦胴縁 カラーＧＬ鋼板サイディング　ｔ＝15（断熱材裏打）横張/アスファルトフェルト（17kg）/石膏ボード　ｔ＝15/Ｃ形鋼縦胴縁
地覆	コンクリート打ち放し 補修仕上　天端：設計GL+445
建具	アルミサッシ（ＡＬＣ用・一部鉄骨用　半外付）　可動網戸 軽量手動シャッター（移動式中柱仕様）
外階段	鉄部：DP塗　　踏み面・通路床：防滑性階段用床材貼　ｔ＝2.5（段鼻・蹴込共） /コンクリート金ゴテ　端部及び排水溝 ウレタン塗膜防水（水上・水下）
外部雑工事	ステンレス箱文字 200角×10文字（甲府市消防団 千塚分団） 窓上庇：アルミ製規格品　D＝200×W＝2000　　扉上庇：アルミ製規格品　D＝900×W＝6800 ダイヤル式キーボックス（壁面指定場所固定） キーブロックＩ型同等

外 構 工 事

コンクリート舗装：コンクリート舗装 t=150（ワイヤメッシュ Φ6-□150）　路盤－RC40～0　ｔ=150

伸縮目地：歴青質目地板

密粒度アスファルト舗装：密粒度アスコンｔ＝50/上層路盤ＲＣ40～0　ｔ＝100/下層路盤ＲＣ40～0　ｔ＝150

砂利敷舗装：砂利敷き均しt=60/防草シート敷

消火用ホース乾燥塔：　電動ウインチ 12本吊　(地上12 m)　DP-AU型 同等品

外階段前土間コンクリート：仕様は外構詳細図による

室外機置場土間コンクリート：仕様は外構詳細図による

メッシュフェンス　H＝900・H＝1500/独立基礎：仕様は外構詳細図による

内 部 仕 上 表

※仕上・下地・その他全てF☆☆☆☆及び規制対象外を使用する

※小屋裏・天井等の下地の建材は規制対象外の建材を使用する

階	室　名	床 仕上げ材/下地材	床 ＦＨ	巾 木 仕上げ材/下地材	巾 木 Ｈ	腰 壁	壁 仕上げ材/下地材	天 井 仕上げ材/下地材	天 井 廻り縁	天 井 ＣＨ	備 考
1階	車 庫	**コンクリート金ゴテ直押え** クラック誘発目地 15×20 （シーリング処理）	GL+200 ～ +280	ソフト巾木	100	—	EP塗装/強化石膏ボード（GB-F）t=15 / LGS 鉄骨露出部：SOP仕上(壁仕上取合い部：塩ビ見切り)	デッキプレート現し（亜鉛メッキ） 鉄骨露出部：SOP仕上	――	3,820 ～ 3,900	整理棚（3段） 木製壁面棚　D=300　防火服掛け用フック　換気扇・給気ガラリ（機械設備工事） 車止め（規格品） 消火器（粉末10号）
	便 所	コンクリート金ゴテ直押え	GL+280	ソフト巾木	100	—	準不燃ビニールクロス貼り /シージング石膏ボード（GB-S）t=12.5 / LGS	化粧石膏ボード（GB-D）　t=9.5 （910×455)張 / LGS	塩ビ製	2,500	小物棚：ポストフォーム D=200 洋風便器・換気扇（機械設備）
	更 衣	コンクリート金ゴテ直押え	GL+280	ソフト巾木	100	—	準不燃ビニールクロス貼り /石膏ボード（GB-R）t=12.5 / LGS	準不燃ビニールクロス貼り /石膏ボード（GB-R）t=9.5 / LGS	塩ビ製	2,500	
2階	詰所	ビニル床シート貼 t=2.0 / コンクリート金鏝押え	2SL+130	ソフト巾木	100	—	準不燃ビニールクロス貼り、一部キッチンボード貼 /石膏ボード（GB-R）t=12.5 / LGS	化粧石膏ボード（GB-D）　t=9.5 （910×455)張 / LGS	塩ビ製	2,500	ホワイトボード W1500×Ｈ900　消火器（粉末10号） ピクチャーレール・レール下部額類受け桟木・天井点検口（アルミ製 450角） 横型ブラインド（ｽﾗｯﾄ巾 25）　給気ガラリ・換気扇・空調機（機械設備） システムキッチン W=1650（ＩＨヒーター）＋上部吊戸棚 W900　ブーツ型換気フード 給気ガラリ・換気扇（機械設備）
	会議室	ビニル床シート貼 t=2.0 / コンクリート金鏝押え	2SL+130	ソフト巾木	100	—	準不燃ビニールクロス貼り /石膏ボード（GB-R）t=12.5 / LGS	化粧石膏ボード（GB-D）　t=9.5 （910×455)張 / LGS	塩ビ製	2,500	ホワイトボード W1800×Ｈ900　消火器（粉末10号） ピクチャーレール・レール下部額類受け桟木・天井点検口（アルミ製 450角） 横型ブラインド（ｽﾗｯﾄ巾 25）・手洗器・鏡　給気ガラリ・換気扇・空調機（機械設備）
	便所	ビニル床シート貼 t=2.0 / コンクリート金鏝押え	2SL+130	ソフト巾木	100	—	準不燃ビニールクロス貼り /シージング石膏ボード（GB-S）t=12.5 / LGS	化粧石膏ボード（GB-D）　t=9.5 （910×455)張 / LGS	塩ビ製	2,500	小物棚：ポストフォーム D=250 洋風便器・換気扇（機械設備）
	踏 込	ビニル床シート貼 t=2.0 / コンクリート金鏝押え	2SL+130	ソフト巾木	100	—	準不燃ビニールクロス貼り /石膏ボード（GB-R）t=12.5 / LGS	化粧石膏ボード（GB-D）　t=9.5 （910×455)張 / LGS	塩ビ製	2,500	床見切（SUS） 下足･スリッパ入れ:見え掛り部 ポリ合板フラッシュ
	収 納	ビニル床シート貼 t=2.0 / コンクリート金鏝押え	2SL+130	ソフト巾木	100	—	耐水合板（Ｉ類）t=12 / LGS	耐水合板（Ｉ類）t=5.5 / LGS	木製 18×30	2,500	棚 1段

不燃認定番号

石膏ボード（GB-R)t=12.5・15	不　燃	NM-8619
石膏ボード（GB-R）t=9.5	準不燃	QM-9828
化粧石膏ボード（GB-D）t=9.5	準不燃	QM-9824
強化石膏ボード(GB-F)　t=15	不　燃	NM-8615
ｼｰｼﾞﾝｸﾞ石膏ﾎﾞｰﾄﾞ（GB-S）t=12.5	準不燃	QM-9826
珪酸カルシウム板（FK）	不　燃	NM-8578
ガルバリウム鋼板	不　燃	NM-8697
準不燃ビニールクロス	準不燃	QM-9412
キッチンボード 火山性ガラス質複層板 ＵＶ塗装　同等品	不　燃	NM-1802 同等

防火構造認定番号

外　壁	ALC版 t=50（鉄骨胴縁下地）	PC030NE-9080
外　壁	金属系サイディング（鉄骨胴縁+石膏ボード　ｔ＝15下張）	PC030NE-0211（1)

共通事項

断熱材	外　壁	硬質ウレタンフォーム t=20　（Ａ種１）
	２階天井	高性能グラスウール（16K）　t=100 （片面防湿層付）

壁下地 ＬＧＳ

一般間仕切	W＝65
外壁廻り下地	1階：W＝65 2階：W＝45

摘　要

月 日		

ESSE INC.
甲府市飯田4丁目7-14

株式会社　イ ズ
ＴＥＬ　055（226）8888(代)
ＦＡＸ　055（226）5727

一級建築士　長田 孝三　第123273号
一級建築士事務所　第1- 031039号
E-mail ： esse@coral.plala.or.jp

管理建築士	検図者	設計者	担当者

作　製　令和 6 年 12 月 20 日

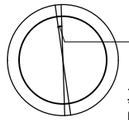
工事名称　千塚分団本部拠点施設建設（建築主体）工事

図面名称　設計概要書・内･外部仕上表

縮 尺　A-2 NONSCALE　A-3(35.35%に縮小)

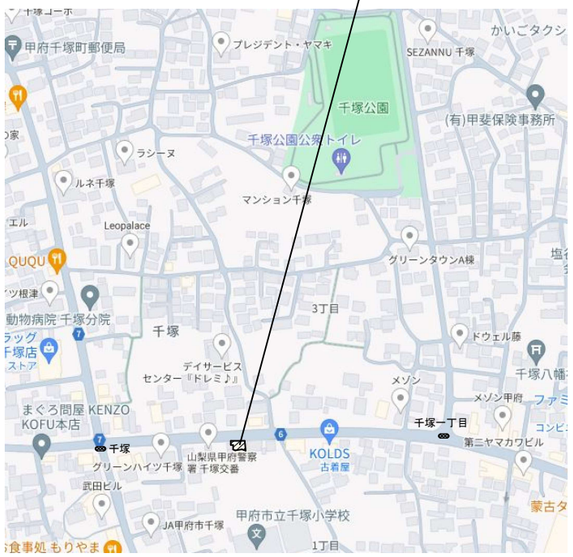
図 面 番 号　A － 07

磁北　真北



真北方向は
国土地理院ホームページ
磁気偏角一覧図による

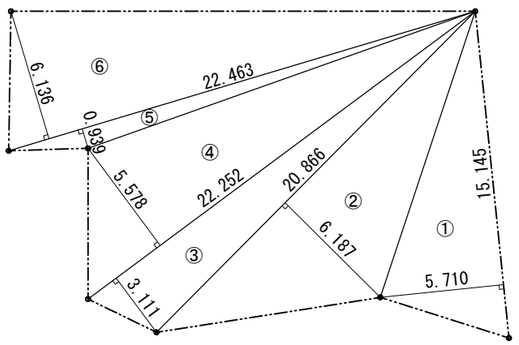
工事場所



案内図　S=NO SCALE

工事場所：山梨県甲府市千塚一丁目1842の一部

付近見取図　S=NO SCALE



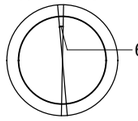
【特記事項】

・水道法第16条に適合
・給排水経路については機械設備図による
・法56条の検討
　道路斜線：道路幅員 16.00m × 1.25 ＝ 20.00m
　　20.00m ＞ 建物高さ 8.28mにより適合
　隣地斜線：建物高さ20m以下により適合

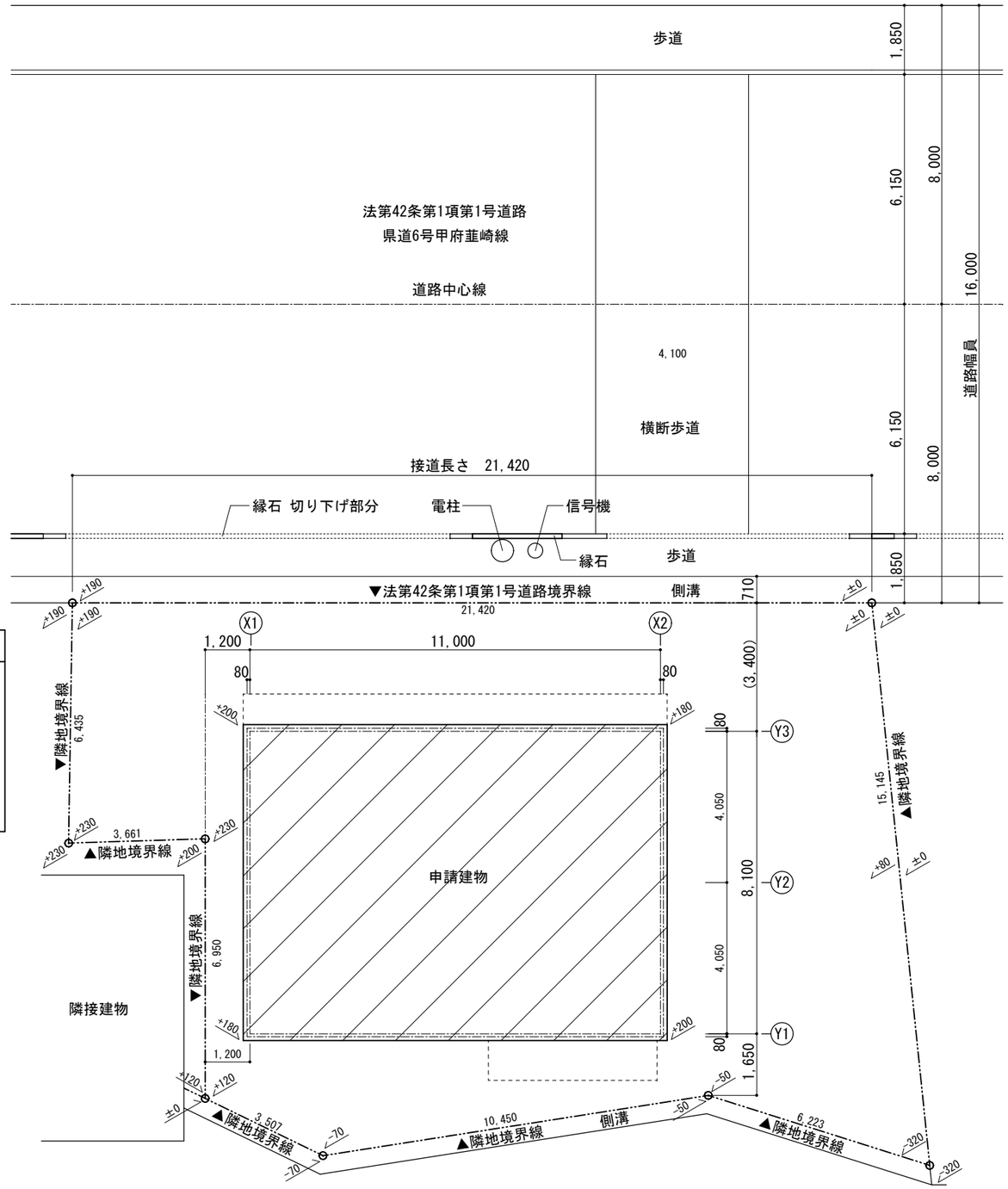
敷地面積求積表				
番 号	底 辺	高 さ	倍 面 積	面 積
①	15.145	5.710	86.477950	43.2389750
②	20.866	6.187	129.097942	64.5489710
③	22.252	3.111	69.225972	34.6129860
④	22.252	5.578	124.121656	62.060828
⑤	22.463	0.939	21.092757	10.5463785
⑥	22.463	6.136	137.832968	68.9164840
			計	283.9246225
			敷地面積	283.92 ㎡

敷地求積図　S=1:200

磁北　真北



真北方向は
国土地理院ホームページ
磁気偏角一覧図による



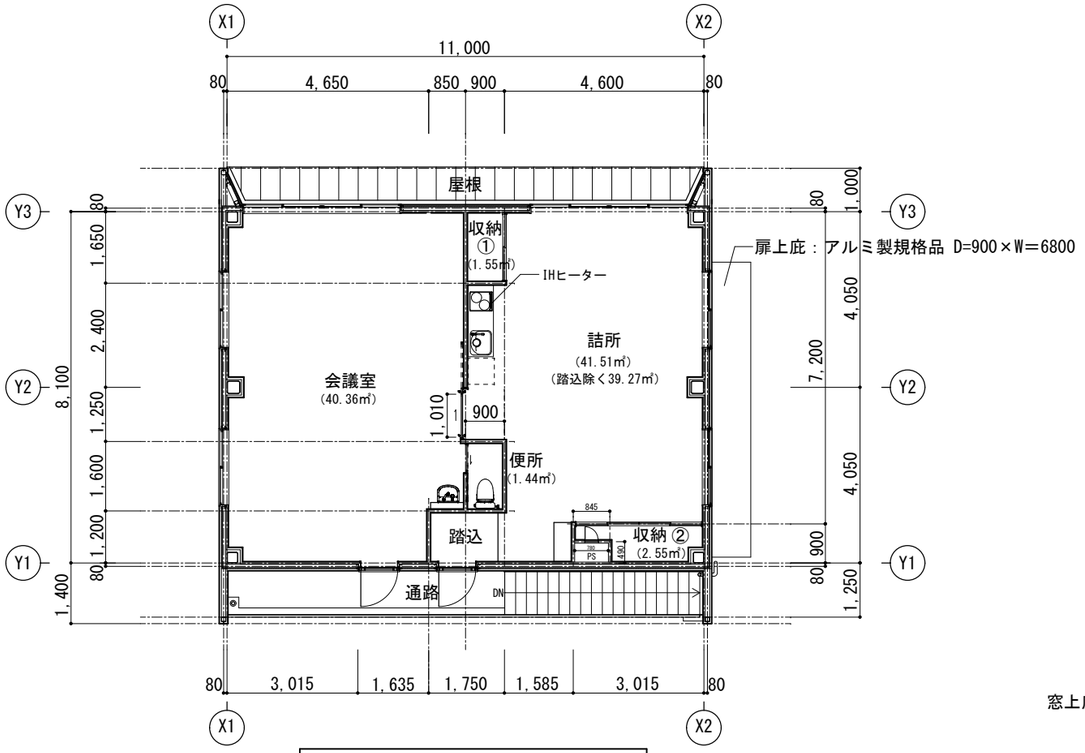
配置図　S=1:100

凡例：（　）内寸法は現場調整寸法を示す

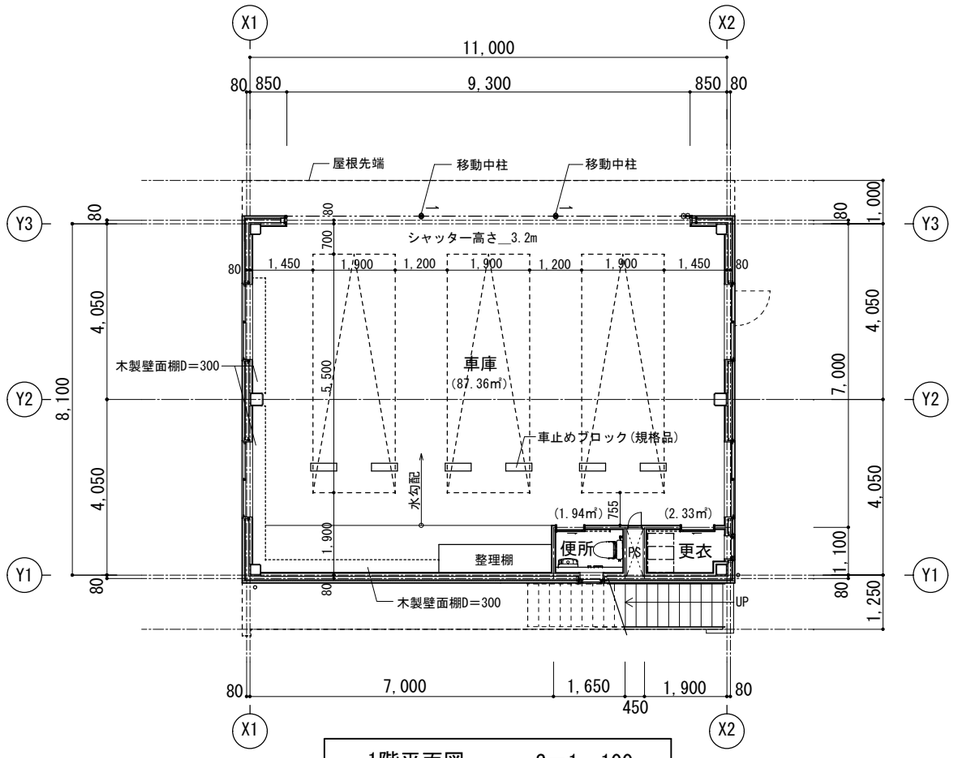
摘　要	月　日			

ESSE INC.
甲府市飯田4丁目7-14
株式会社　イ　ズ
ＴＥＬ　055（226）8888(代)
ＦＡＸ　055（226）5727
一級建築士　長田 孝三　第123273号
一級建築士事務所　第1- 031039号
E-mail ： esse@coral.plala.or.jp

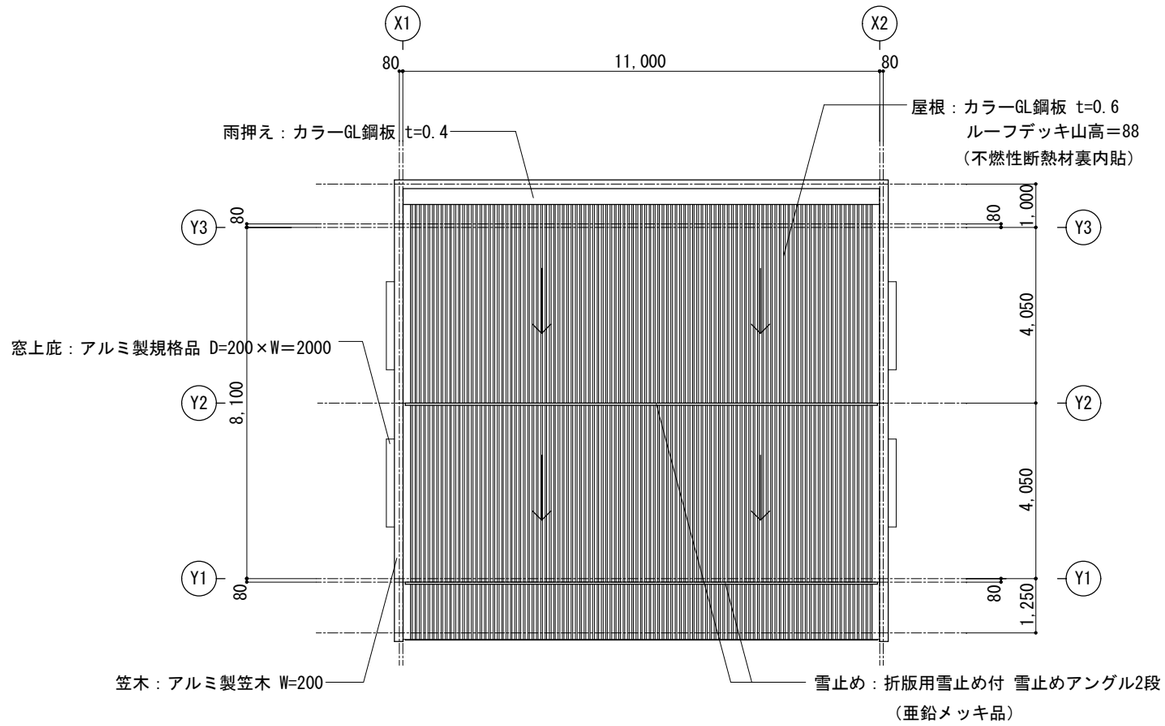
管理建築士	検図者	設計者	担当者	工事名称	千塚分団本部拠点施設建設（建築主体）工事	図面番号
作　製　令和 6 年 12 月 20 日				図面名称	案内図・付近見取図・配置図・敷地求積表	A － 08
				縮　尺	A-2 S=1:100・1:200 A-3(35.35%に縮小)	



2階平面図　　S＝1：100



1階平面図　　S＝1：100



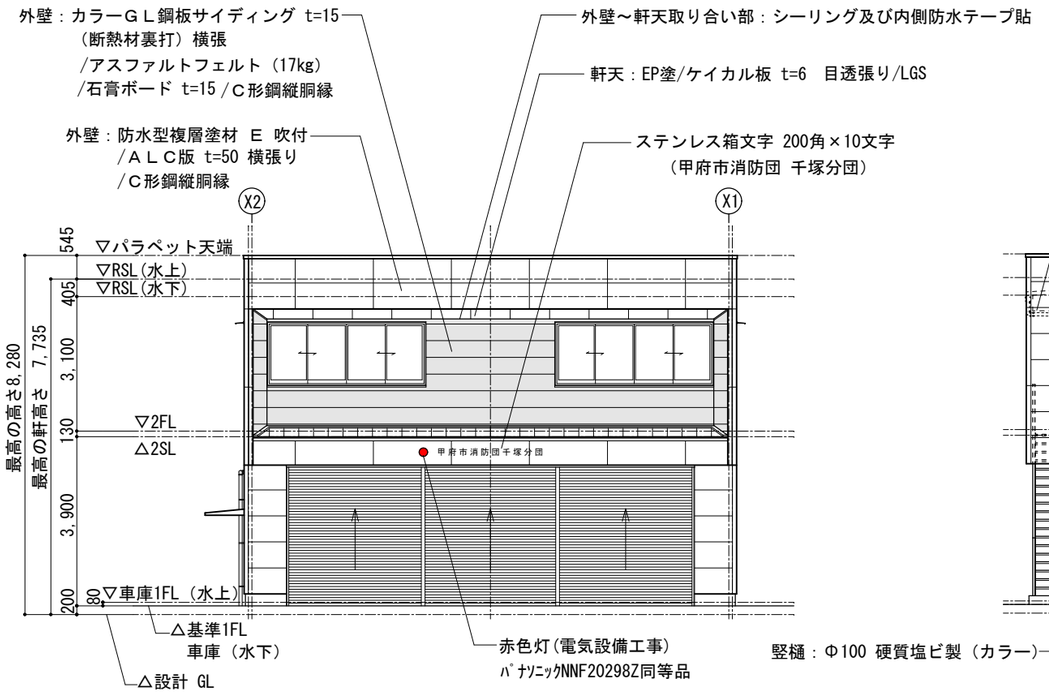
屋根伏図　　S＝1：100

階段寸法
踏面　250
蹴上　195.78
階段巾　983
手すり付

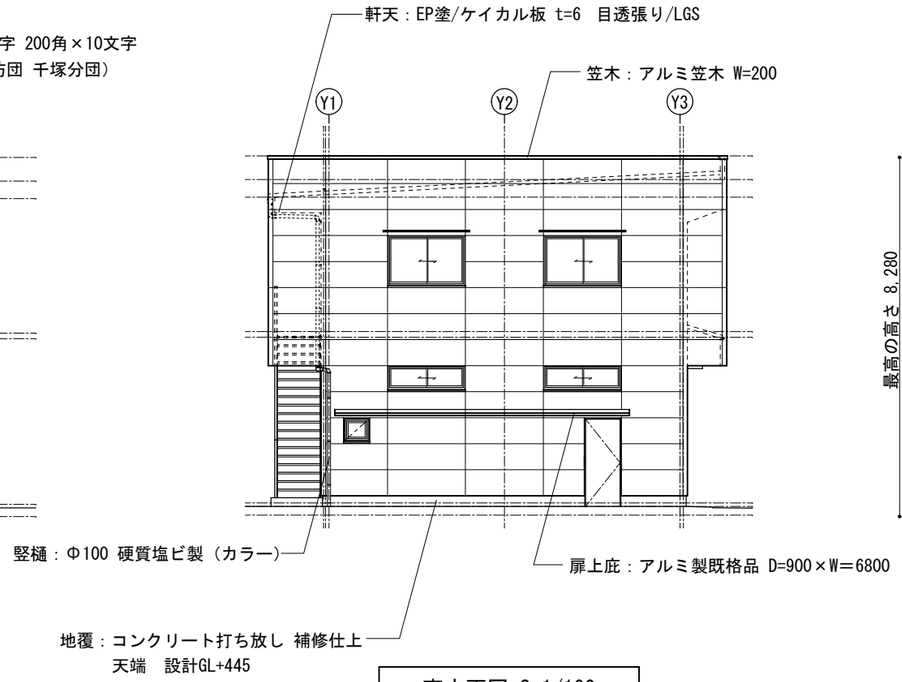
摘　要	月　日			

ESSE INC.
甲府市飯田4丁目7-14
株式会社　イ　ズ
ＴＥＬ　055 (226) 8888(代)
ＦＡＸ　055 (226) 5727
一級建築士　長田 孝三　第123273号
一級建築士事務所　第1- 031039号
E-mail ： esse@coral.plala.or.jp

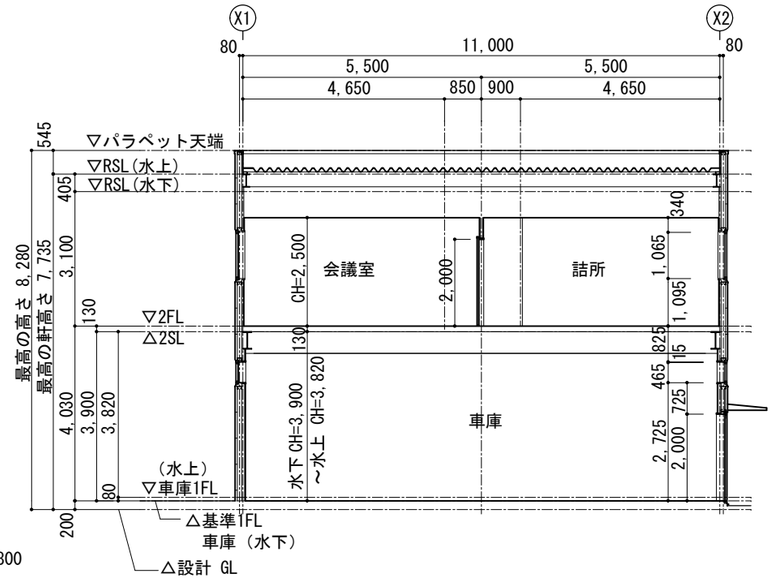
管理建築士	検図者	設計者	担当者	工事名称	千塚分団本部拠点施設建設（建築主体）工事	図面番号
作　製　令和 6 年 12 月 20 日				図面名称	1階・2階平面図・屋根伏図	A － 09
				縮　尺	A-2 S=1:100 A-3(35.35%に縮小)	



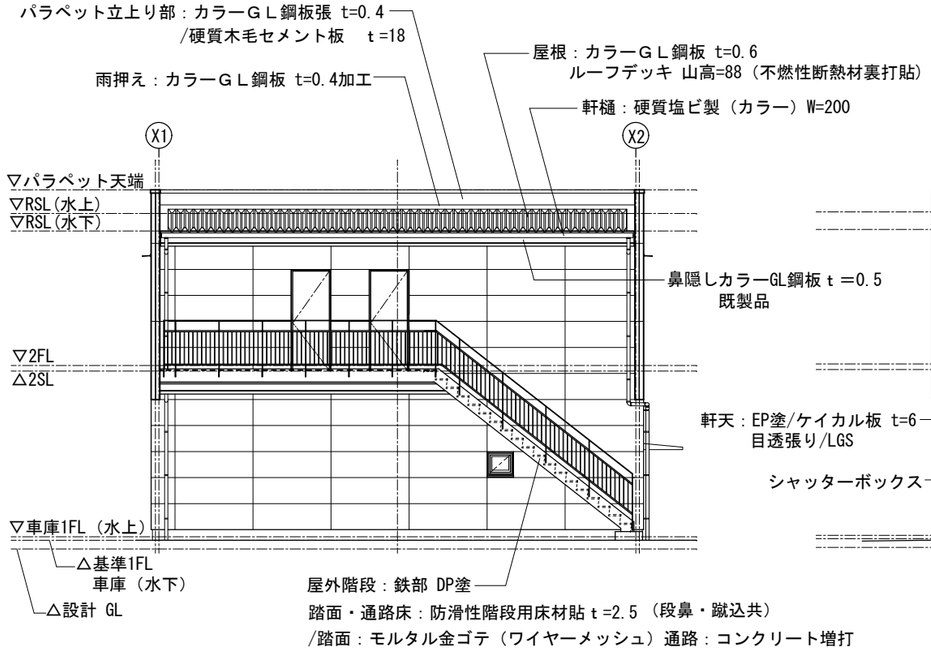
北立面図 S=1/100



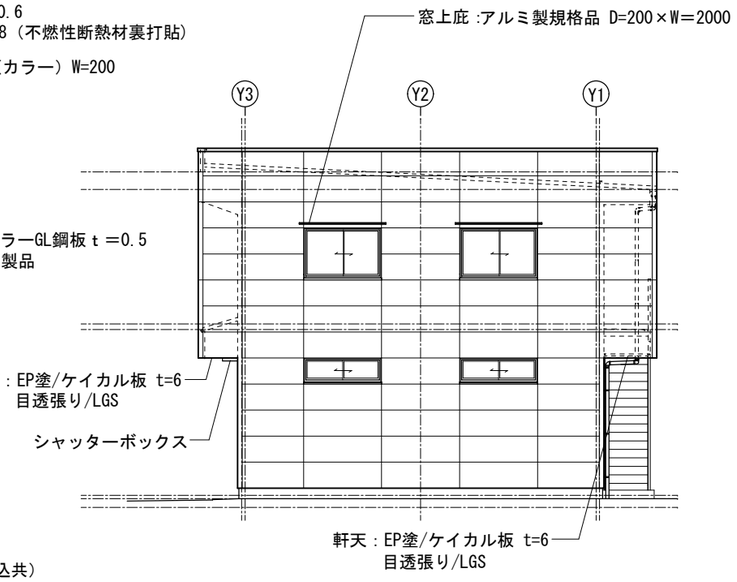
東立面図 S=1/100



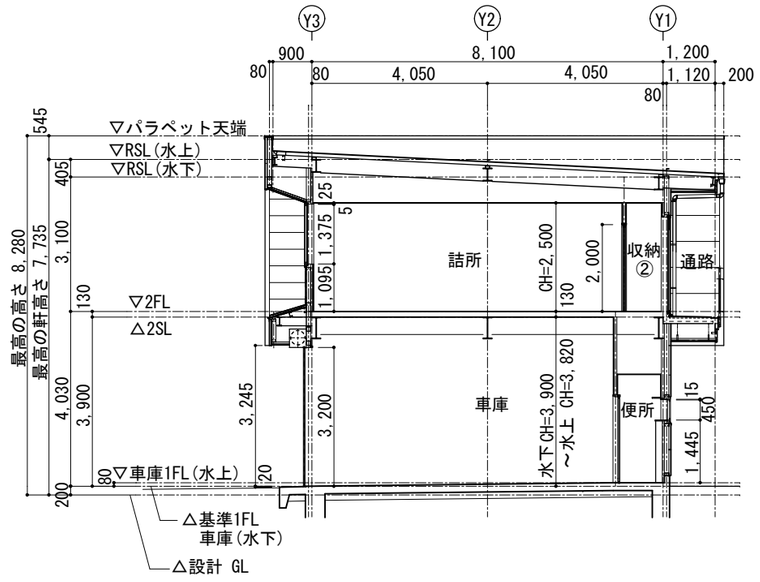
X1-X2 断面図 S=1/100



南立面図 S=1/100



西立面図 S=1/100



Y1-Y3 断面図 S=1/100

摘要	月 日			

ESSE INC.
甲府市飯田4丁目7-14
株式会社 イ ズ
ＴＥＬ 055 (226) 8888(代)
ＦＡＸ 055 (226) 5727
一級建築士 長田 孝三 第123273号
一級建築士事務所 第1- 031039号
E-mail : esse@coral.plala.or.jp

管理建築士	検図者	設計者	担当者

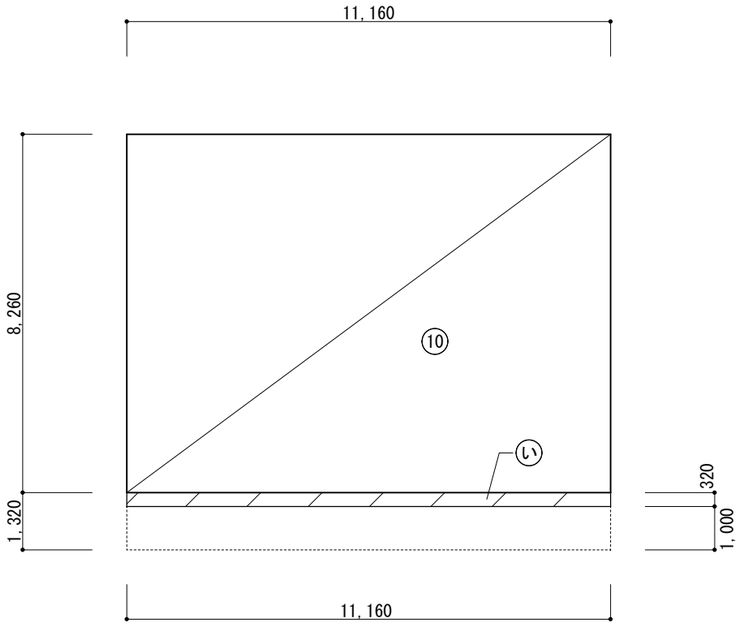
作 製 令和 6 年 12 月 20 日

工事名称：千塚分団本部拠点施設建設（建築主体）工事

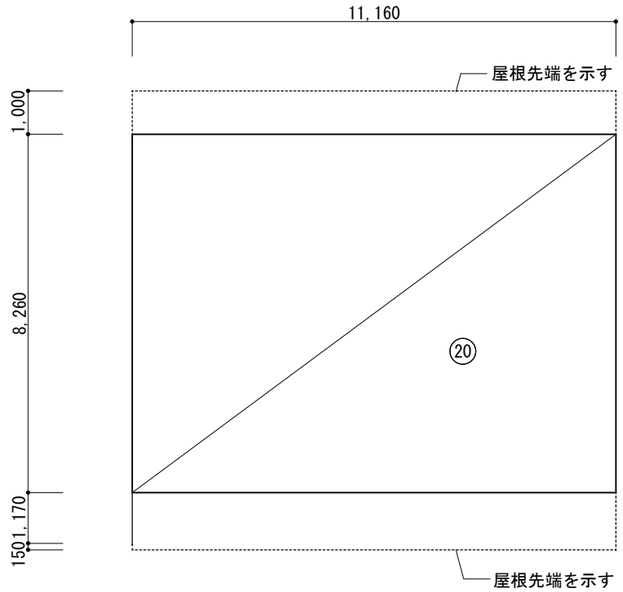
図面名称：立面図・断面図

縮 尺：A-2 S=1:100 / A-3(35.35%に縮小)

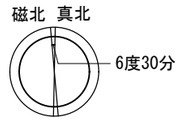
図面番号：A － 10



1階求積図　S=1/100

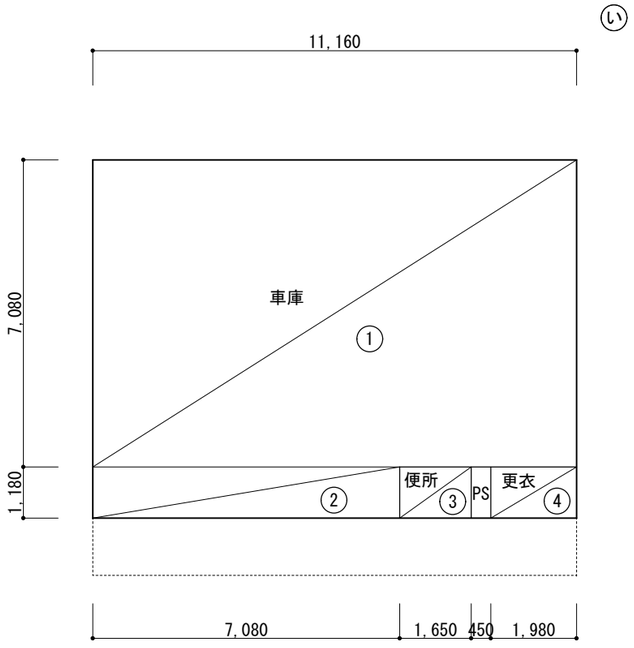


2階求積図　S=1/100

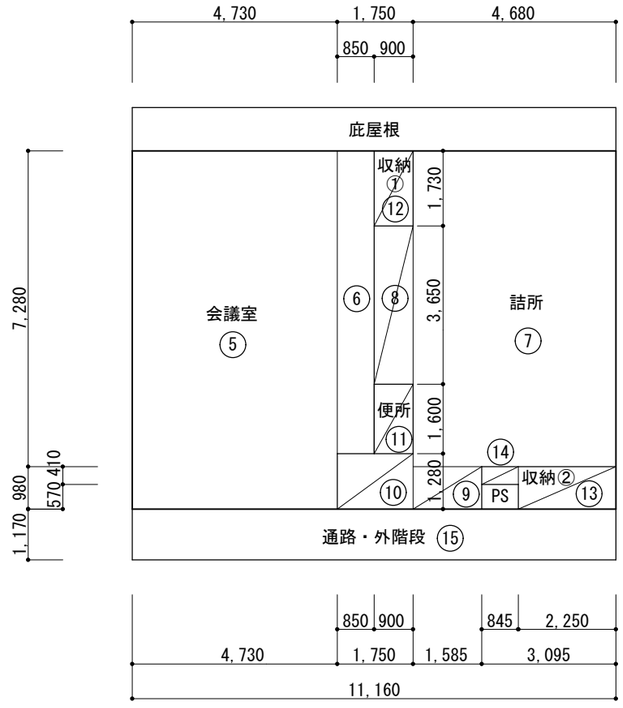


真北方向は
国土地理院ホームページ
磁気偏角一覧図による

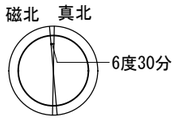
全体面積表					
1階床面積表					
⑩	11.160	×	8.260	＝	92.18160
			小　計		92.18160
			1階床面積		92.18㎡
2階床面積表					
⑳	11.160	×	8.260	＝	92.1816
			小　計		92.18160
			2階床面積		92.18㎡
			1階床面積		92.18㎡
			2階床面積		92.18㎡
			延べ床面積		184.36㎡
建築面積表					
建築面積算入部分					
い	11.160	×	0.32	＝	3.5712
			小　計		3.57
					3.57㎡
			1階床面積		92.18㎡
			合　計		95.75㎡



1階求積図　S=1/100



2階求積図　S=1/100



真北方向は
国土地理院ホームページ
磁気偏角一覧図による

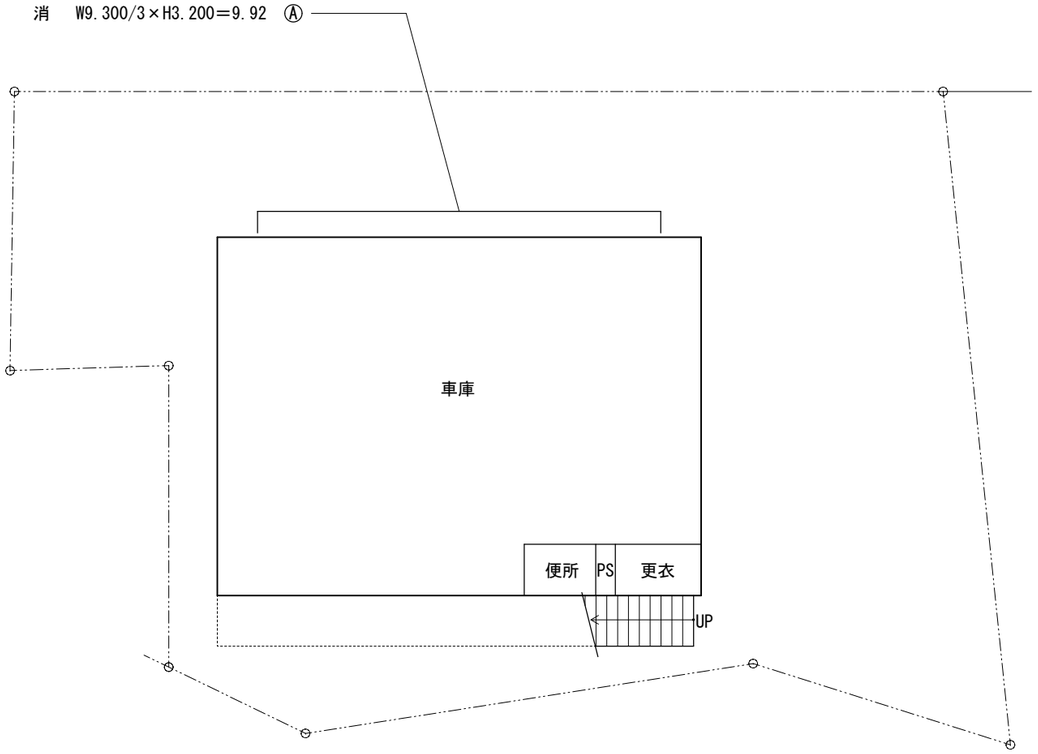
階	室名	番号	計　算					床面積(㎡)
1	車庫	①	11.160	×	7.080	＝	79.01280	87.36
		②	7.080	×	1.180	＝	8.35440	
	便所	③	1.650	×	1.180	＝	1.94700	1.94
	更衣	④	1.980	×	1.180	＝	2.33640	2.33
2	会議室	⑤	4.730	×	8.260	＝	39.06980	45.00
		⑥	0.850	×	6.980	＝	5.93300	
	詰所	⑦	4.680	×	7.280	＝	34.07040	41.14
		⑧	0.900	×	3.650	＝	3.28500	
		⑨	1.585	×	0.980	＝	1.55330	
		⑩	1.750	×	1.280	＝	2.24000	
	便所	⑪	0.900	×	1.600	＝	1.44000	1.44
	収納 ①	⑫	0.900	×	1.730	＝	1.55700	1.55
	収納 ②	⑬	2.250	×	0.980	＝	2.20500	2.55
		⑭	0.845	×	0.410	＝	0.34645	
	通路･外階段	⑮	11.160	×	1.170	＝	13.0572	13.05

摘　要	月　日			

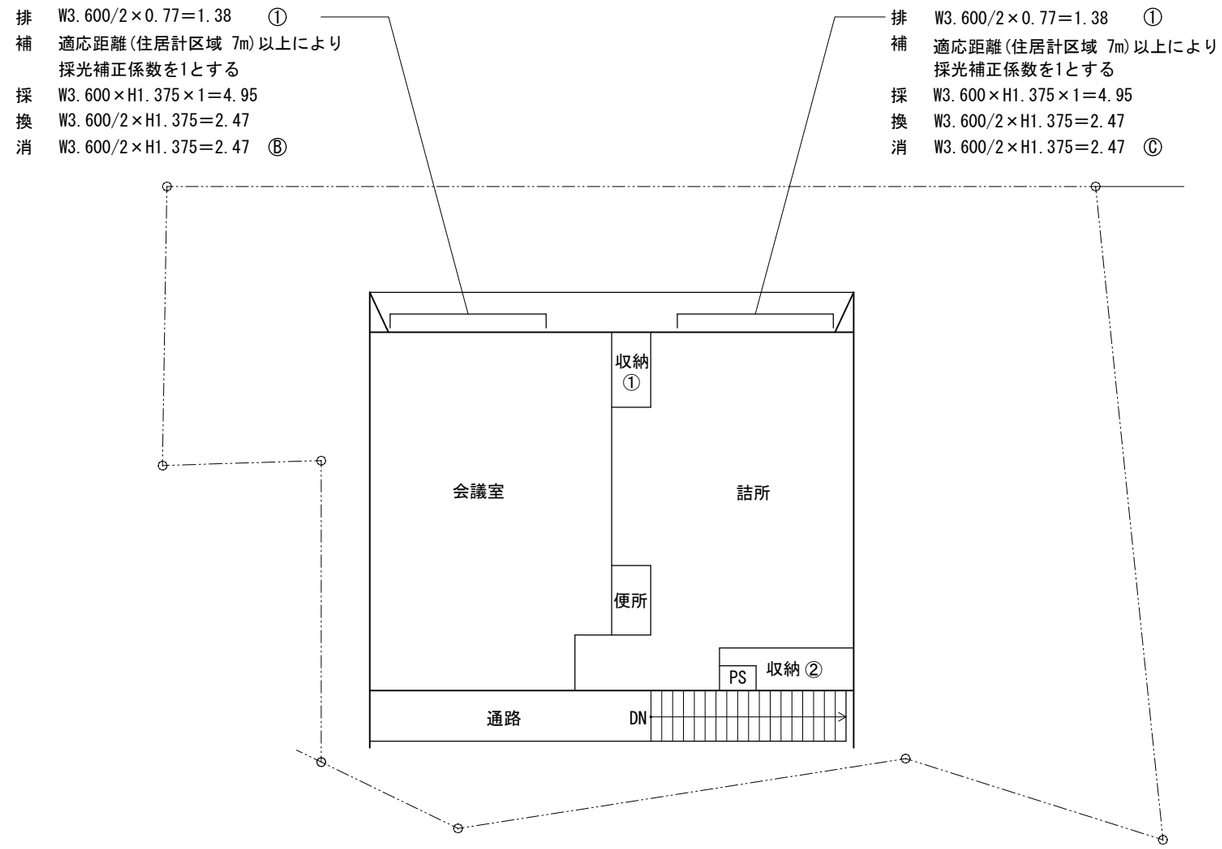
ESSE INC.
甲府市飯田4丁目7-14
株式会社　イ　ズ
ＴＥＬ　055 (226) 8888(代)
ＦＡＸ　055 (226) 5727
一級建築士　長田 孝三　第123273号
一級建築士事務所　第1- 031039号
E-mail : esse@coral.plala.or.jp

管理建築士	検図者	設計者	担当者	工事名称	千塚分団本部拠点施設建設（建築主体）工事	図面番号
作　製　令和 6 年 12 月 20 日				図面名称	全体面積表・室面積表	A － 11

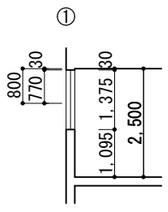
縮　尺
A-2 S=1:100
A-3(35.35%に縮小)



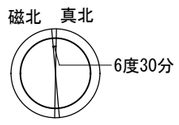
1階平面図 S=1/100



2階平面図 S=1/100



排煙計算 S=1/100



真北方向は
国土地理院ホームページ
磁気偏角一覧図による

１：　有効開口全て、床面より腰壁１．２ｍ以下である

２：　有効開口全て、ガラスｔ６以下である

３：　有効開口全て、境界線より１．０ｍ以上離れている

排煙・採光・換気計算表

階	室　名	床面積 (㎡)	排煙計算 (1/50)			採光計算 (1/20)			換気計算 (1/20)		
			必要開口	有効開口	判定	必要開口	有効開口	判定	必要開口	有効開口	判定
2	詰　所	41.14	0.82	1.38	ＯＫ	2.05	4.95	ＯＫ	2.05	2.47	ＯＫ
	会議室	45.00	0.90	1.38	ＯＫ	2.25	4.95	ＯＫ	2.25	2.47	ＯＫ

消防無窓計算表

1 階 床 面 積	92.18 ㎡					
必要開口	92.18 ㎡	/	30	＝	3.07 ㎡	
有効開口	A			＝	9.92 ㎡	
判定	必要開口	3.07 ㎡	＜	有効開口	9.92 ㎡	： OK
2 階 床 面 積	92.18 ㎡					
必要開口	92.18㎡	/	30	＝	3.07 ㎡	
有効開口	B ＋ C			＝	4.94 ㎡	
判定	必要開口	3.07 ㎡	＜	有効開口	4.94 ㎡	： OK

摘　要	月　日			

ESSE INC.
甲府市飯田4丁目7-14
株式会社　イ　ズ
ＴＥＬ　055 (226) 8888(代)
ＦＡＸ　055 (226) 5727
一級建築士　長田 孝三　第123273号
一級建築士事務所　第1- 031039号
E-mail ： esse@coral.plala.or.jp

管理建築士	検図者	設計者	担当者

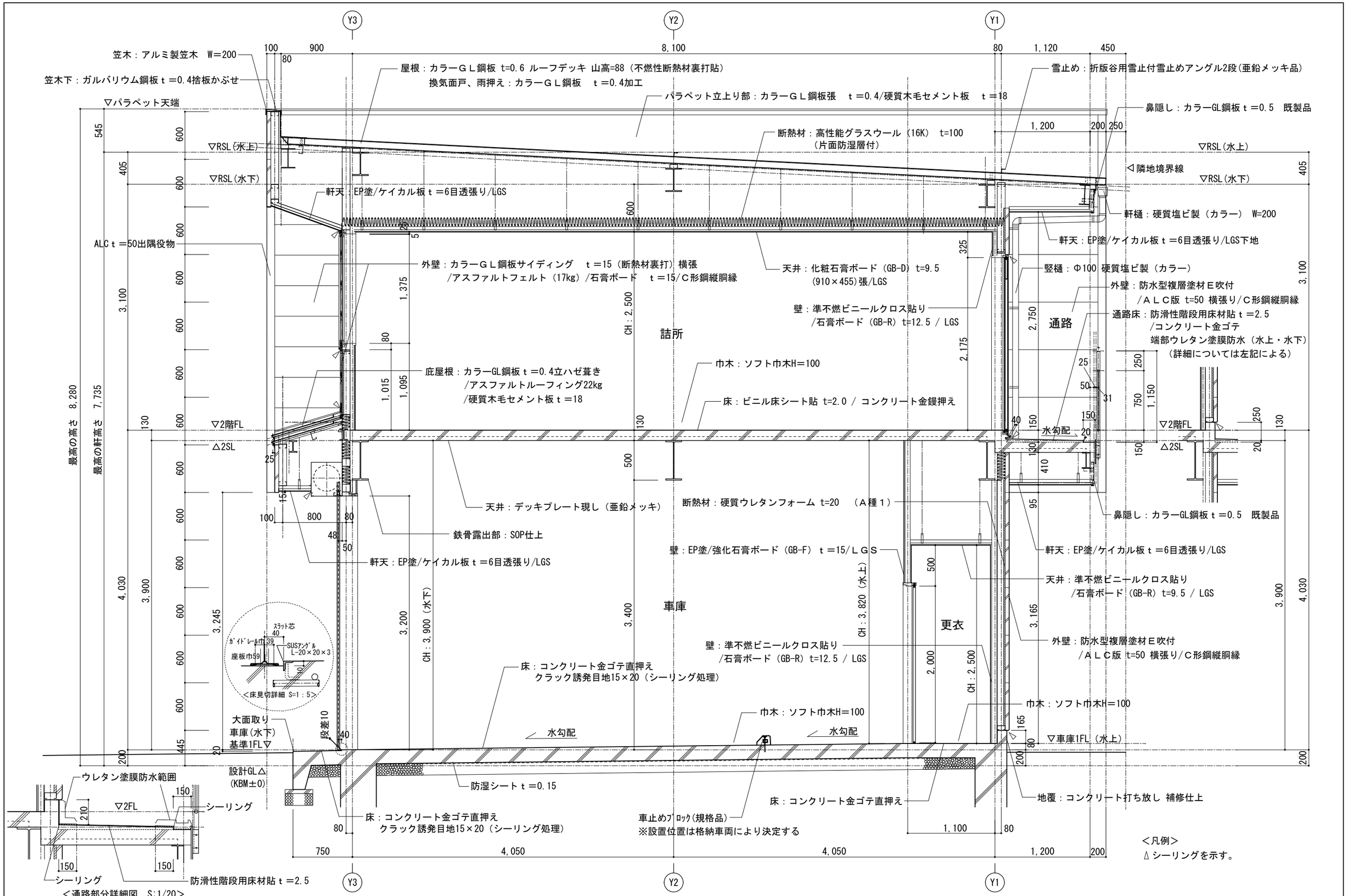
作 製　令和 6 年 12 月 20 日

工事名称　千塚分団本部拠点施設建設（建築主体）工事

図面名称　排煙･採光･換気計算表・消防無窓計算表

縮 尺　A-2 S=1:100　A-3(35.35%に縮小)

図面番号　A － 12



摘要	月日			

ESSE INC.
甲府市飯田4丁目7-14
株式会社　イズ
ＴＥＬ　055 (226) 8888(代)
ＦＡＸ　055 (226) 5727
一級建築士　長田 孝三　第123273号
一級建築士事務所　第1- 031039号
E-mail ： esse@coral.plala.or.jp

管理建築士	検図者	設計者	担当者

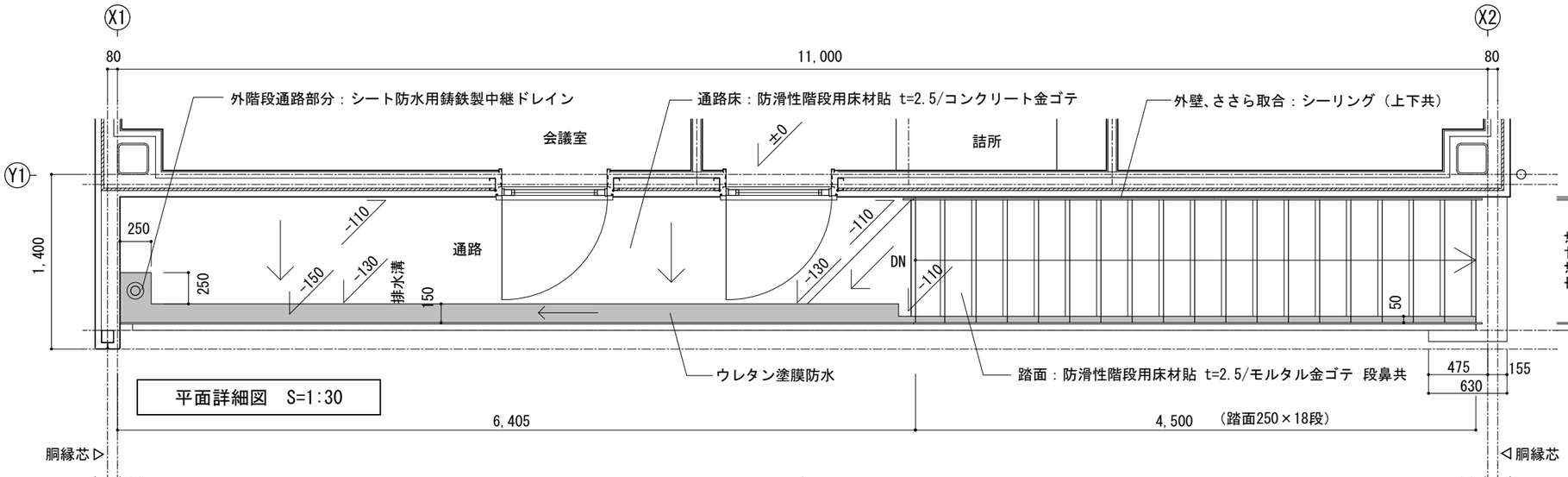
作製　令和 6 年 12 月 20 日

工事名称：千塚分団本部拠点施設建設（建築主体）工事

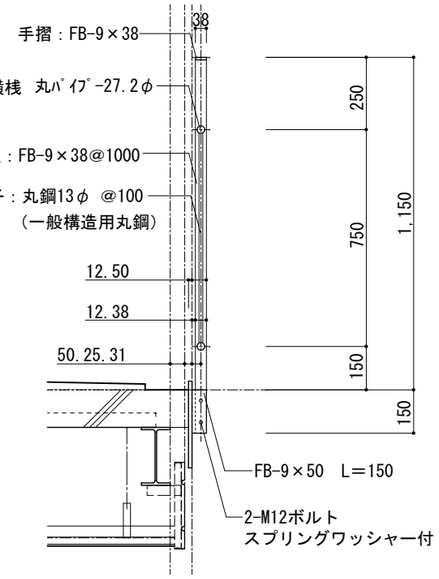
図面名称：矩計図

縮尺：A-2 S=1：5・1：20・1：30　A-3(35.35%に縮小)

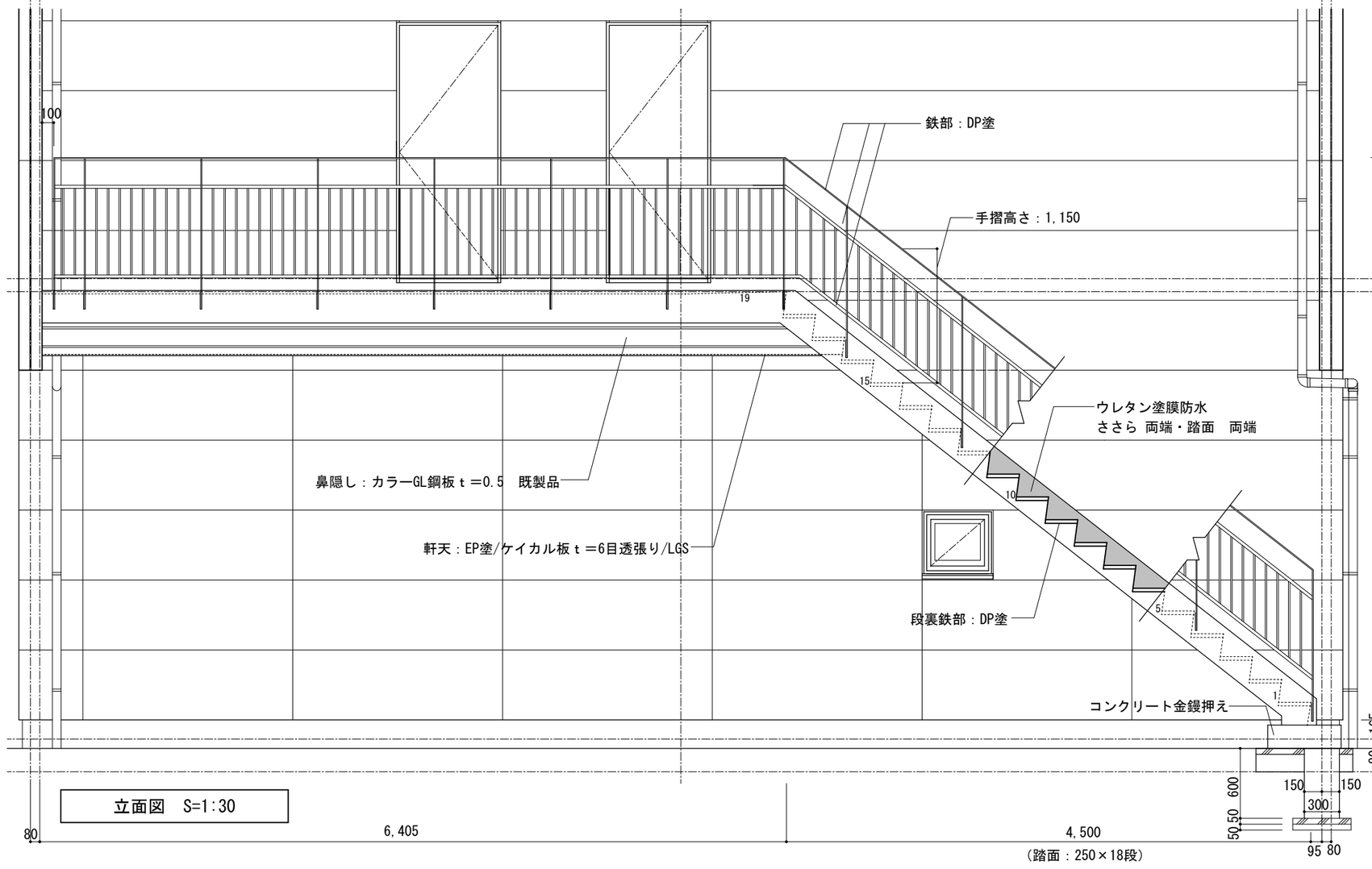
図面番号：D － 01



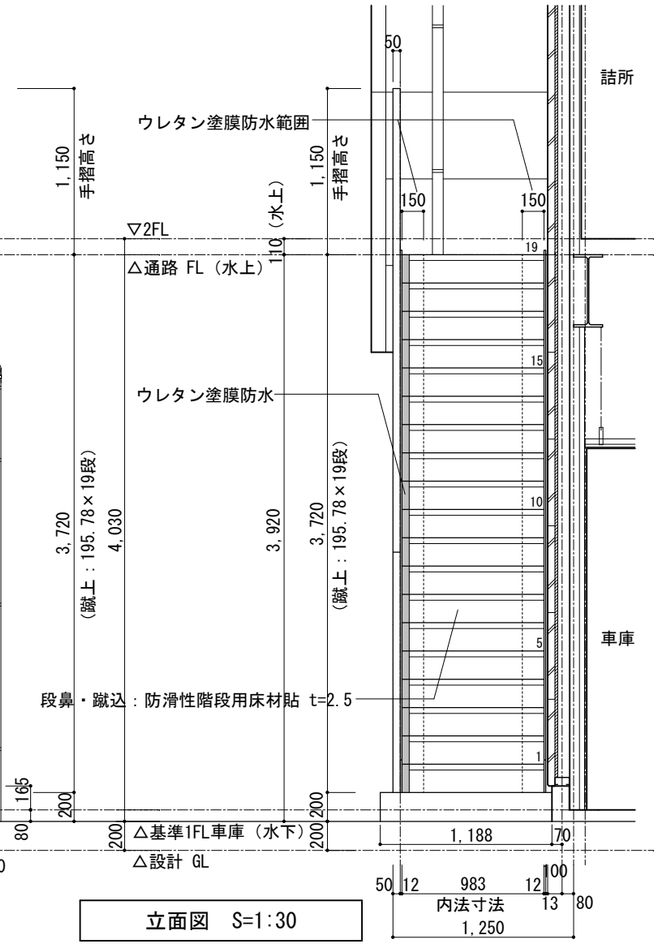
平面詳細図　S=1:30



手摺詳細図　S=1:15



立面図　S=1:30



立面図　S=1:30

摘　要	月　日			

ESSE INC.
甲府市飯田4丁目7-14
株式会社　イ　ズ
ＴＥＬ　055（226）8888(代)
ＦＡＸ　055（226）5727
一級建築士　長田 孝三　第123273号
一級建築士事務所　第1- 031039号
E-mail ： esse@coral.plala.or.jp

管理建築士	検図者	設計者	担当者

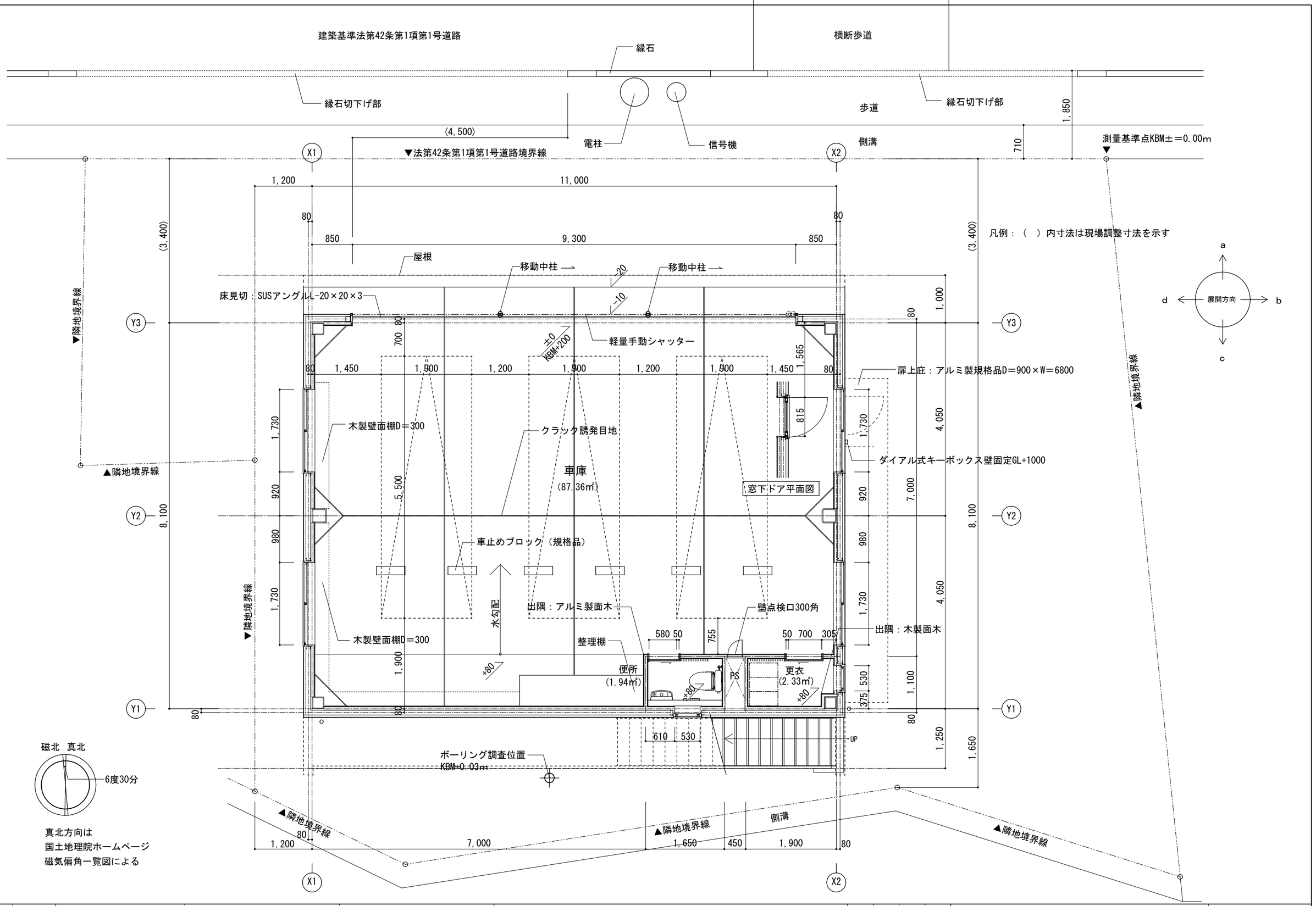
作　製　令和 6 年 12 月 20 日

工事名称　千塚分団本部拠点施設建設（建築主体）工事

図面名称　階段詳細図

縮　尺　A-2 S=1:15・1：30　A-3(35.35%に縮小)

図面番号　D － 02



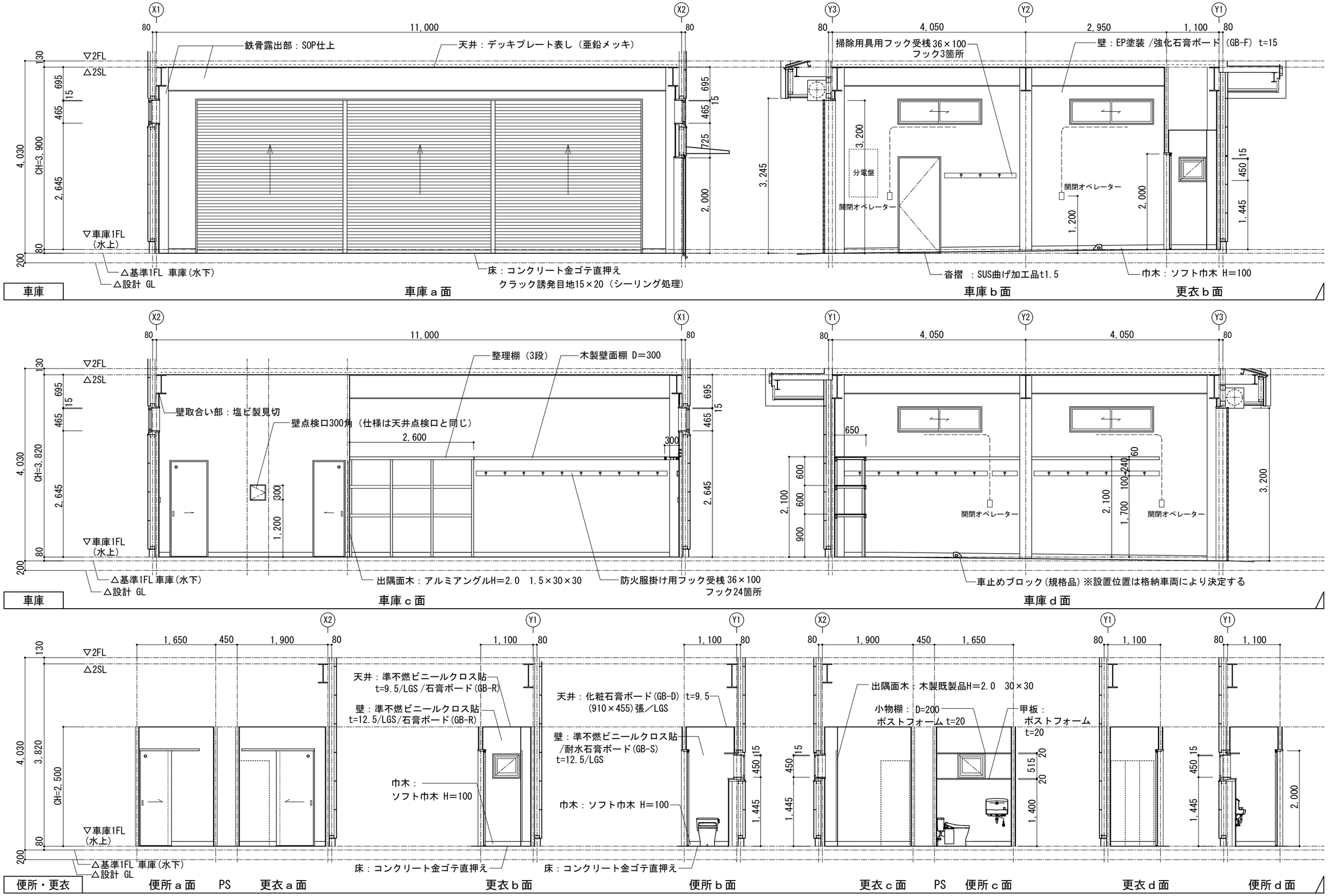
摘　要	月　日			

ESSE INC.
甲府市飯田4丁目7-14

株式会社　イ　ズ
ＴＥＬ　055（226）8888(代)
ＦＡＸ　055（226）5727

一級建築士　長田 孝三　第123273号
一級建築士事務所　第1- 031039号
E-mail ： esse@coral.plala.or.jp

管理建築士	検図者	設計者	担当者	工事名称	千塚分団本部拠点施設建設（建築主体）工事	図面番号
作　製　令和 6 年 12 月 20 日				図面名称	1階平面詳細図	D － 03
				縮　尺	A-2 S=1:50 A-3(35.35%に縮小)	



摘要	月 日			

ESSE INC.
甲府市飯田4丁目7-14

株式会社 イズ
TEL 055 (226) 8888(代)
FAX 055 (226) 5727

一級建築士 長田 孝三 第123273号
一級建築士事務所 第1- 031039号
E-mail : esse@coral.plala.or.jp

管理建築士	検図者	設計者	担当者

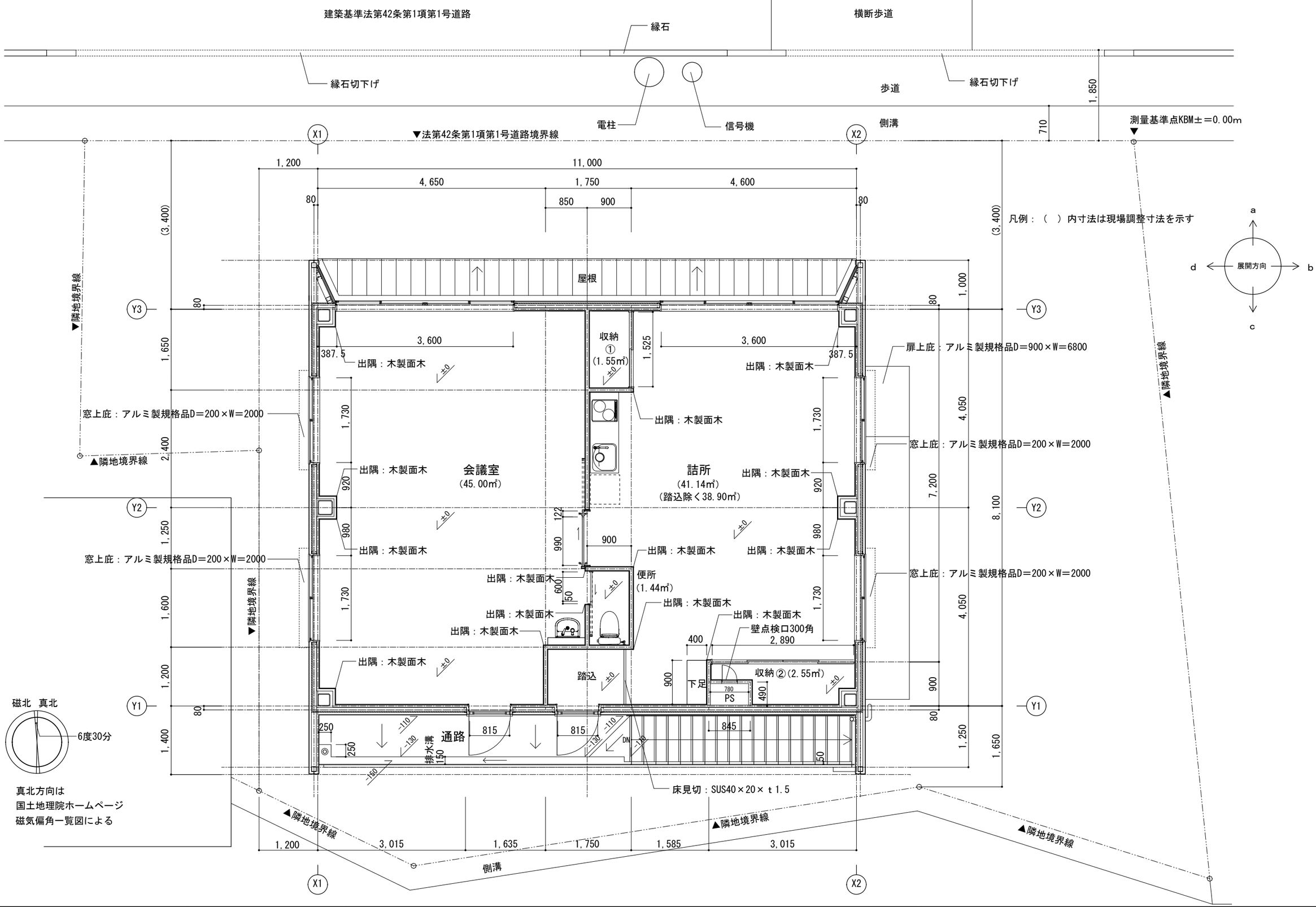
作製 令和 6 年 12 月 20 日

工事名称：千塚分団本部拠点施設建設（建築主体）工事

図面名称：1階展開図 車庫・更衣・便所

縮尺：A-2 S=1:50 / A-3(35.35%に縮小)

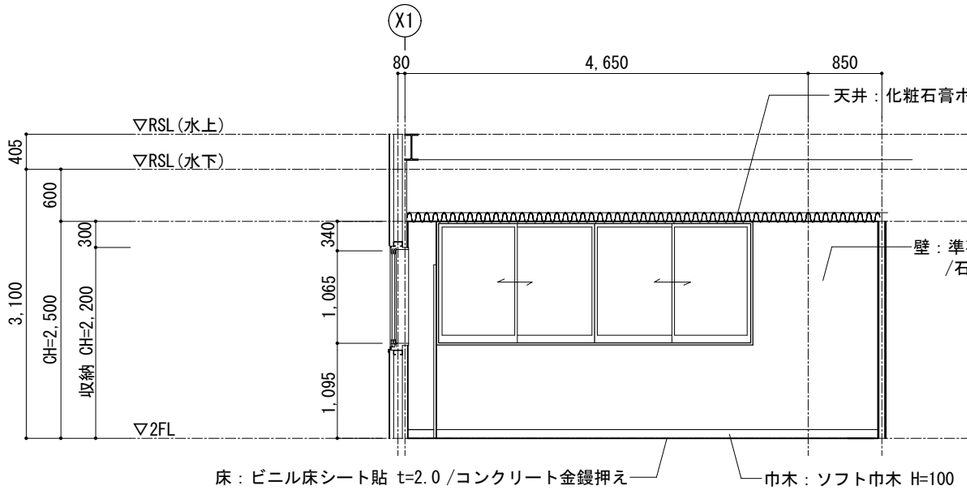
図面番号：D - 04



摘　要	月　日			

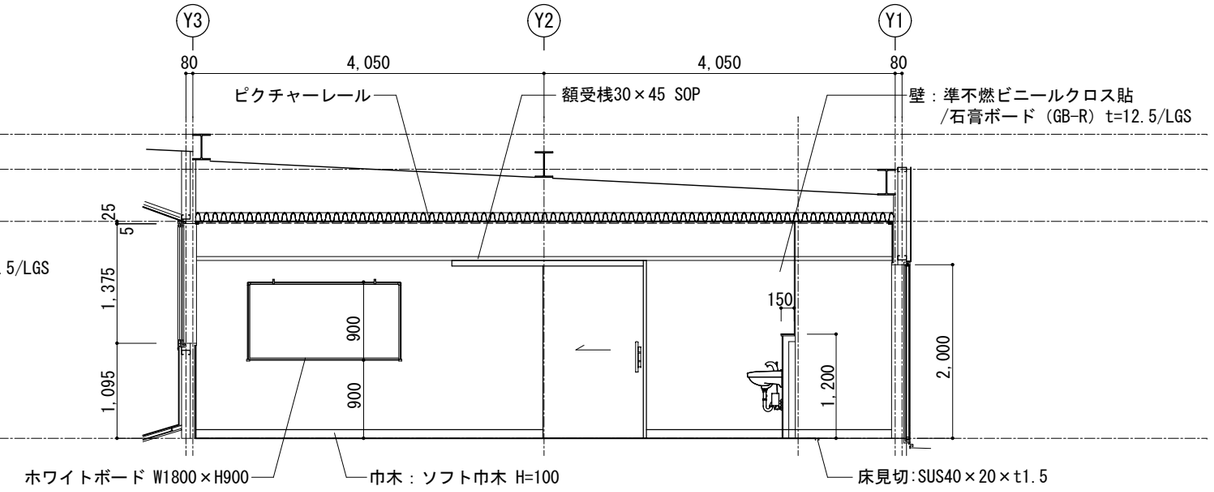
ESSE INC.
甲府市飯田4丁目7-14
株式会社　イ　ズ
ＴＥＬ　055（226）8888(代)
ＦＡＸ　055（226）5727
一級建築士　長田 孝三　第123273号
一級建築士事務所　第1- 031039号
E-mail ： esse@coral.plala.or.jp

管理建築士	検図者	設計者	担当者	工事名称	千塚分団本部拠点施設建設（建築主体）工事	図面番号
作　製　令和 6 年 12 月 20 日				図面名称	2階平面詳細図	D － 05
				縮　尺	A-2 S=1:50 A-3(35.35%に縮小)	

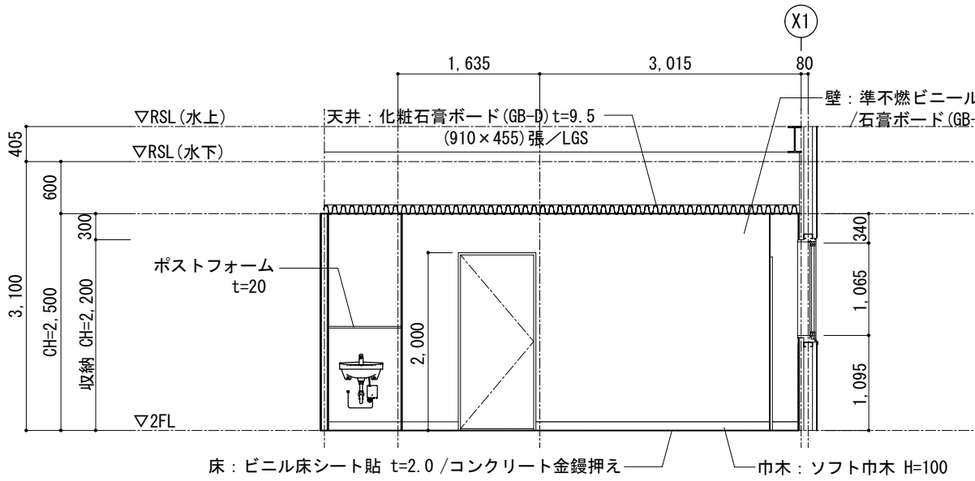


会議室

会議室ａ面

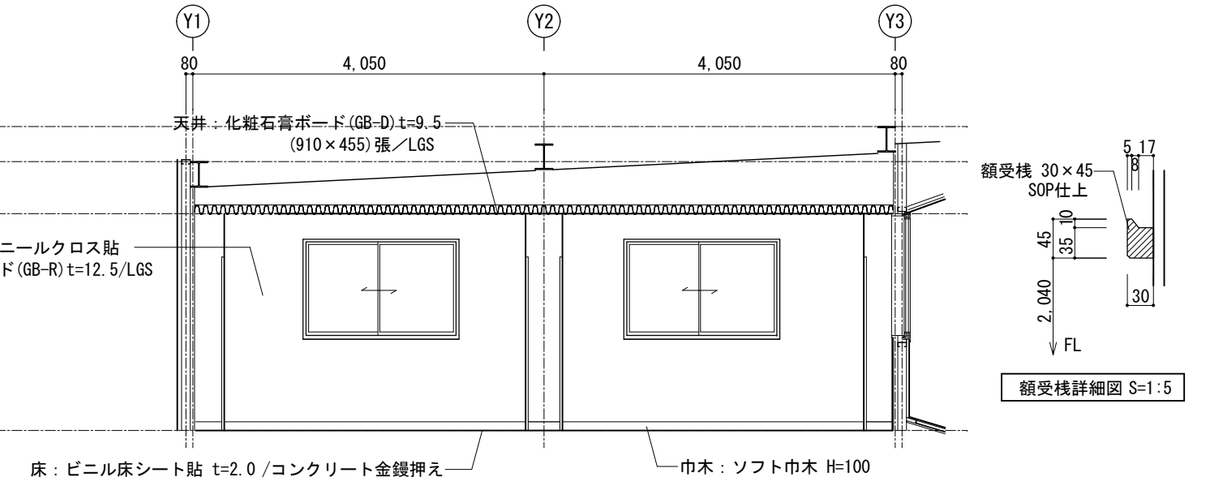


会議室ｂ面

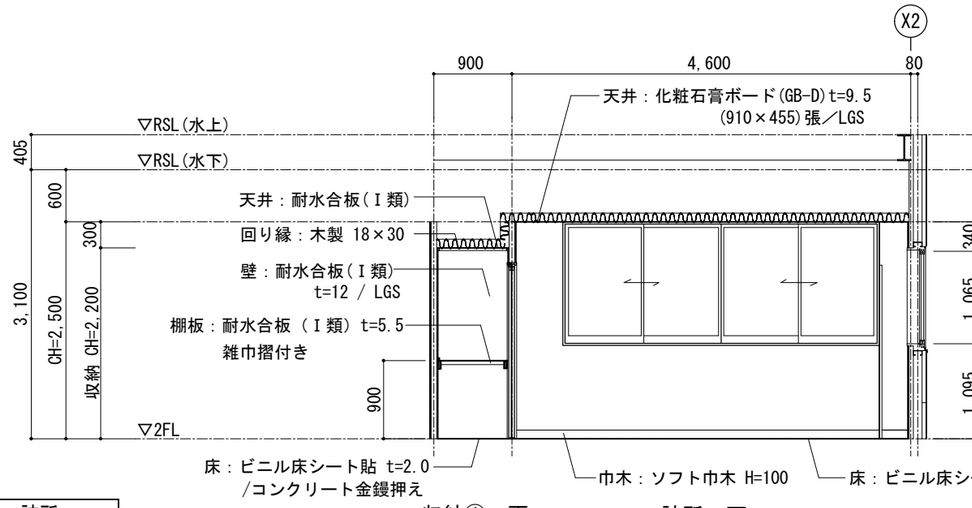


会議室

会議室ｃ面

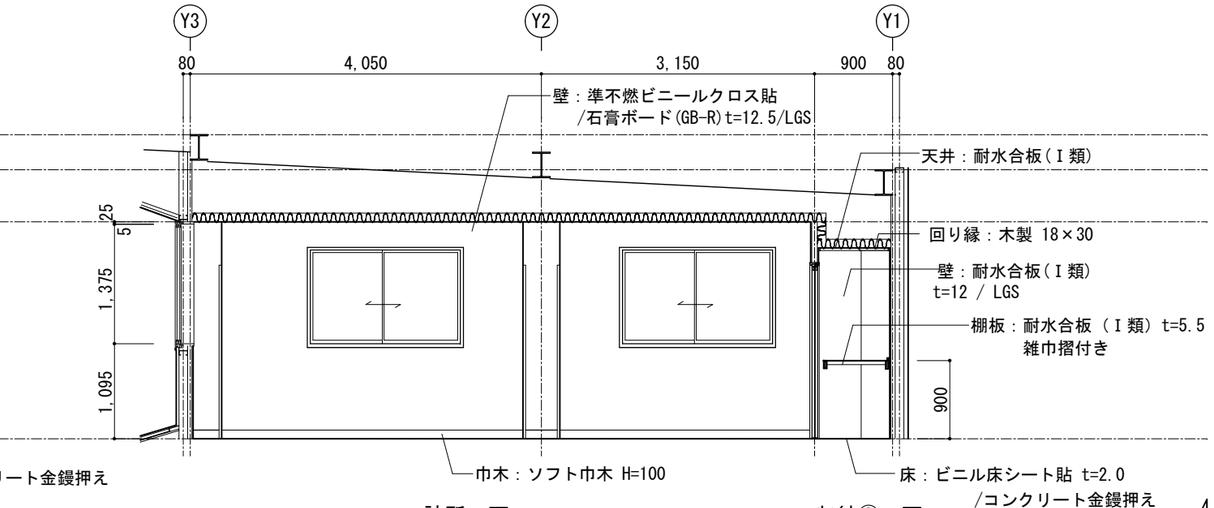


会議室ｄ面



詰所

収納①ａ面　詰所ａ面

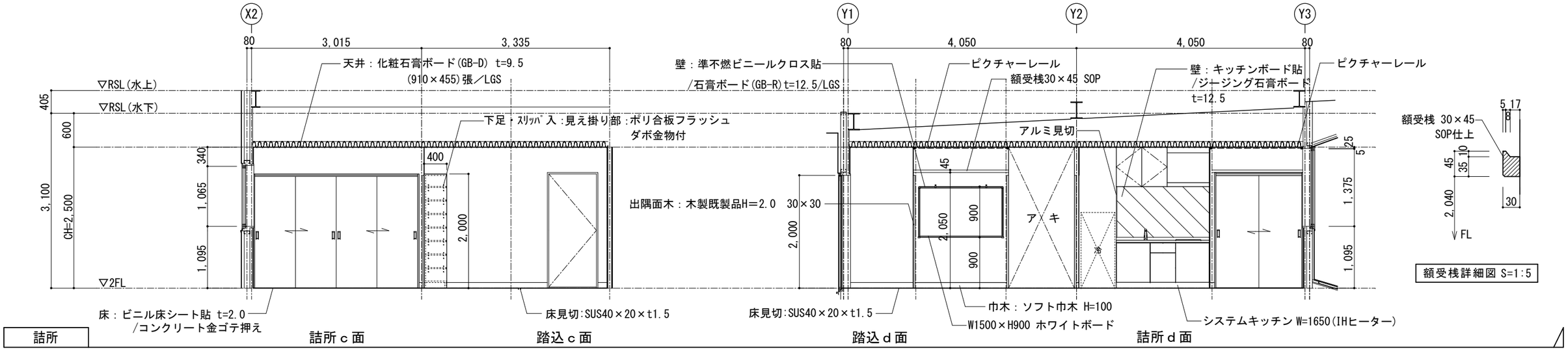


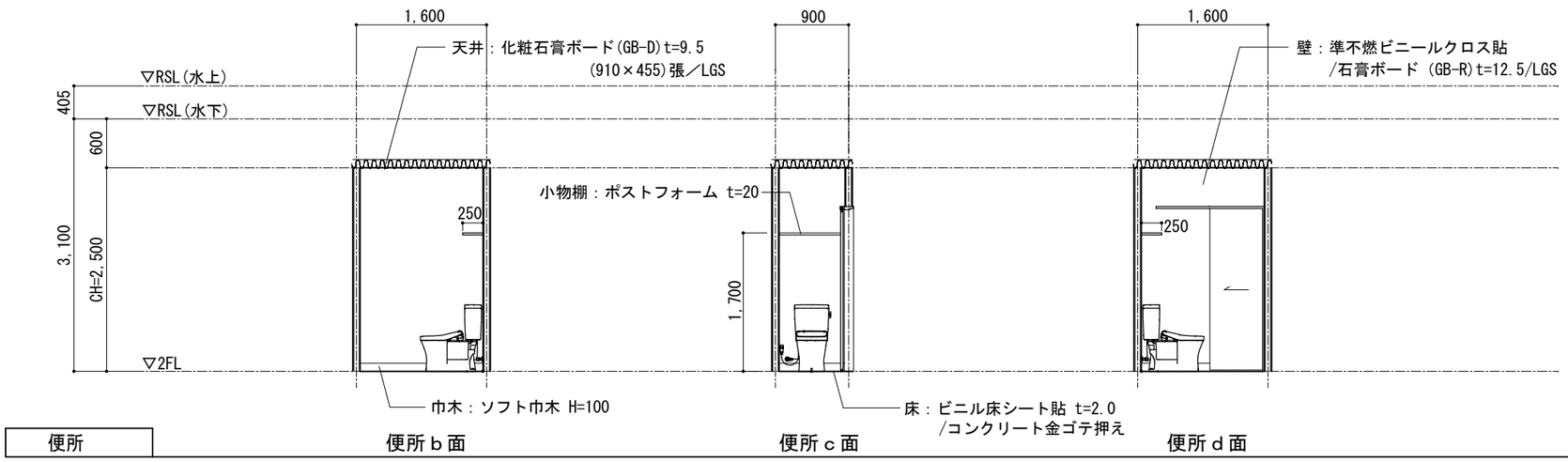
詰所ｂ面　収納②ｂ面

摘　要	月　日			

ESSE INC.
甲府市飯田4丁目7-14
株式会社　イ　ズ
ＴＥＬ　055 (226) 8888(代)
ＦＡＸ　055 (226) 5727
一級建築士　長田 孝三　第123273号
一級建築士事務所　第1- 031039号
E-mail ： esse@coral.plala.or.jp

管理建築士	検図者	設計者	担当者	工事名称	千塚分団本部拠点施設建設（建築主体）工事	図面番号
作　製　令和 6 年 12 月 20 日				図面名称	2階展開図(1)　詰所・会議室	D － 06
				縮　尺	A-2 S=1:50 A-3(35.35%に縮小)	





摘　要	月　日			

ESSE INC.
甲府市飯田4丁目7-14
株式会社　イ　ズ
ＴＥＬ　055 (226) 8888(代)
ＦＡＸ　055 (226) 5727
一級建築士　長田 孝三　第123273号
一級建築士事務所　第1- 031039号
E-mail ： esse@coral.plala.or.jp

管理建築士	検図者	設計者	担当者

作　製　令和 6 年 12 月 20 日

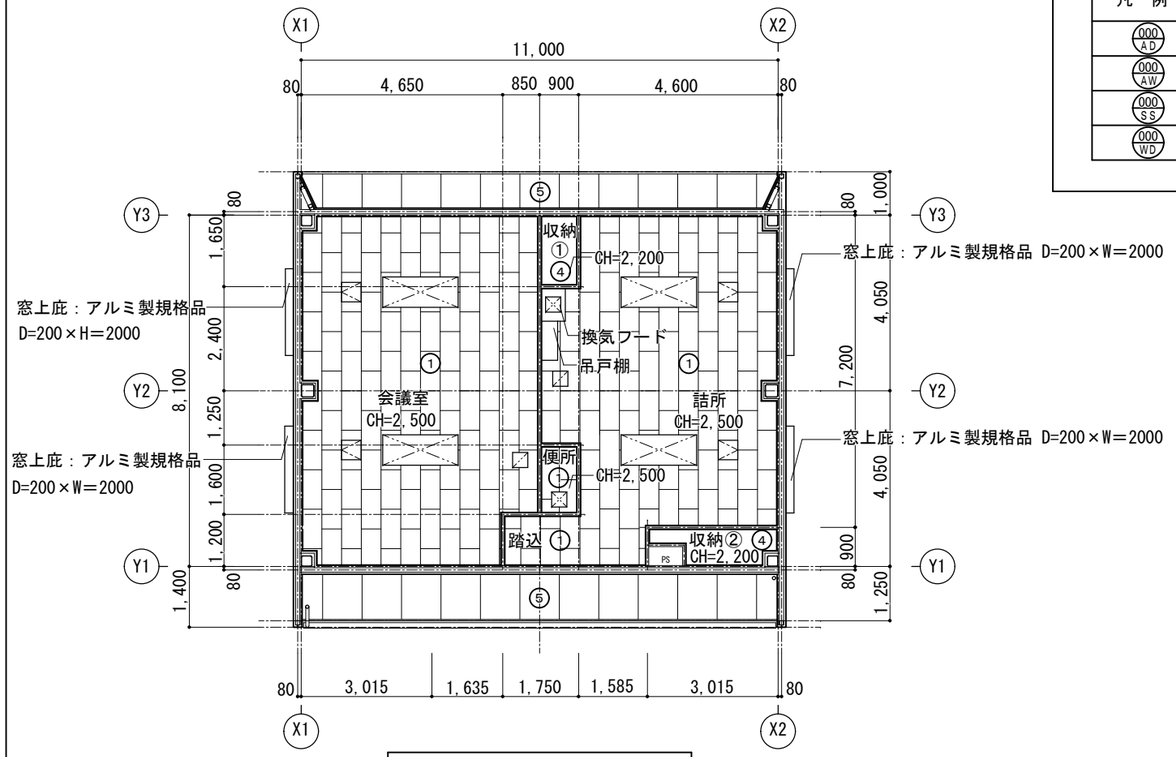
工事名称　千塚分団本部拠点施設建設（建築主体）工事

図面名称　2階展開図(2) 詰所・便所

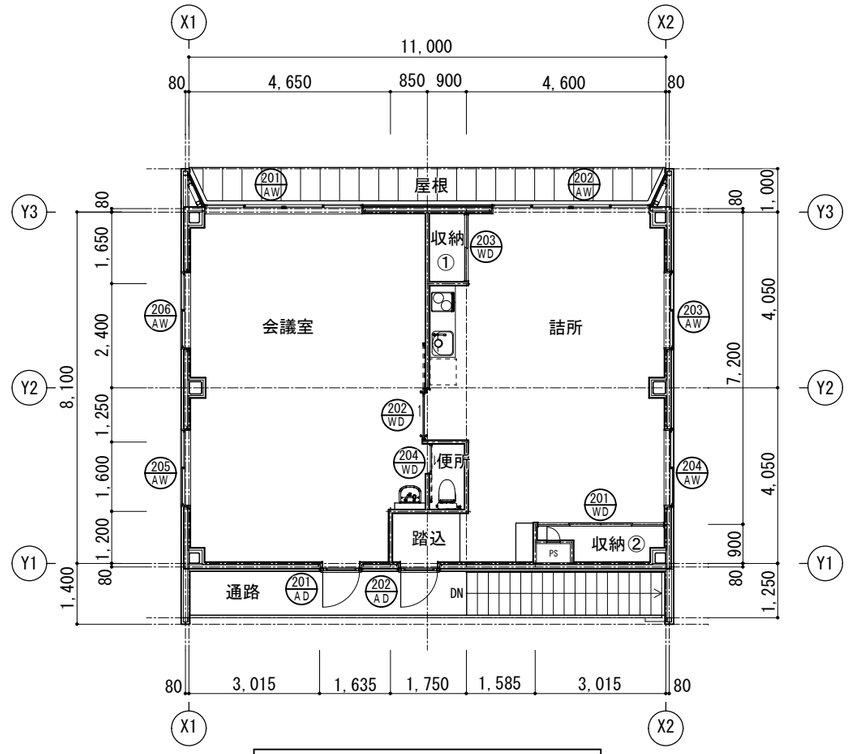
縮　尺　A-2 S=1:50　A-3(35.35%に縮小)

図面番号　D － 07

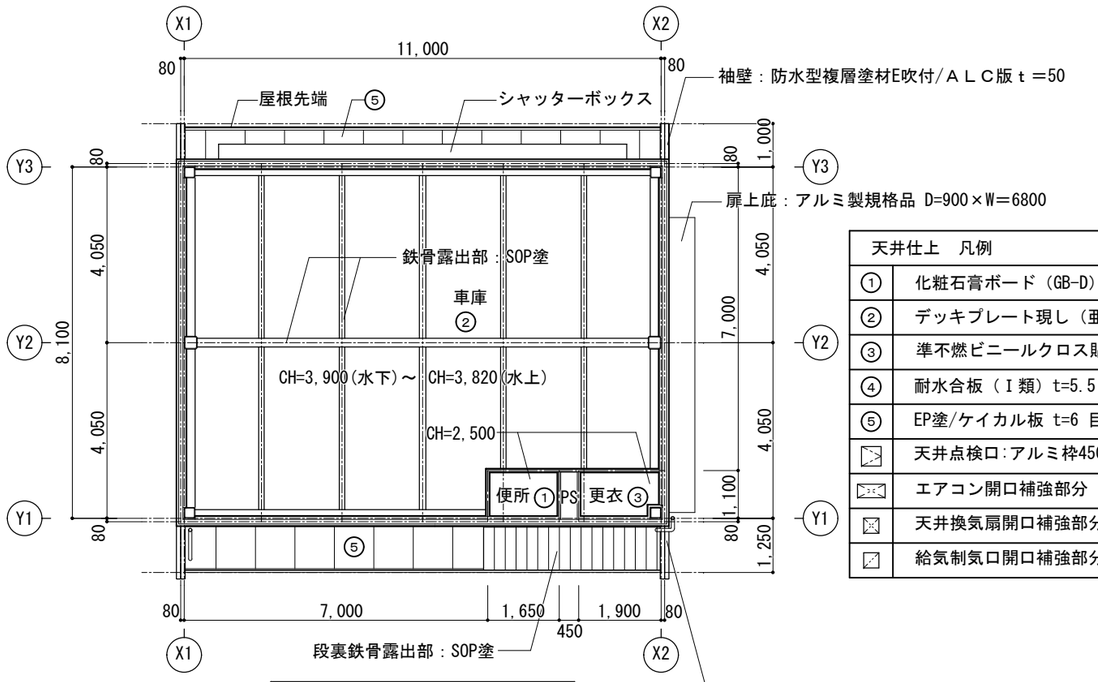
凡　例	
000 AD	アルミ製ドア
000 AW	アルミ製窓
000 SS	軽量スチールシャッター
000 WD	木製ドア



2階天井伏図 S=1:100

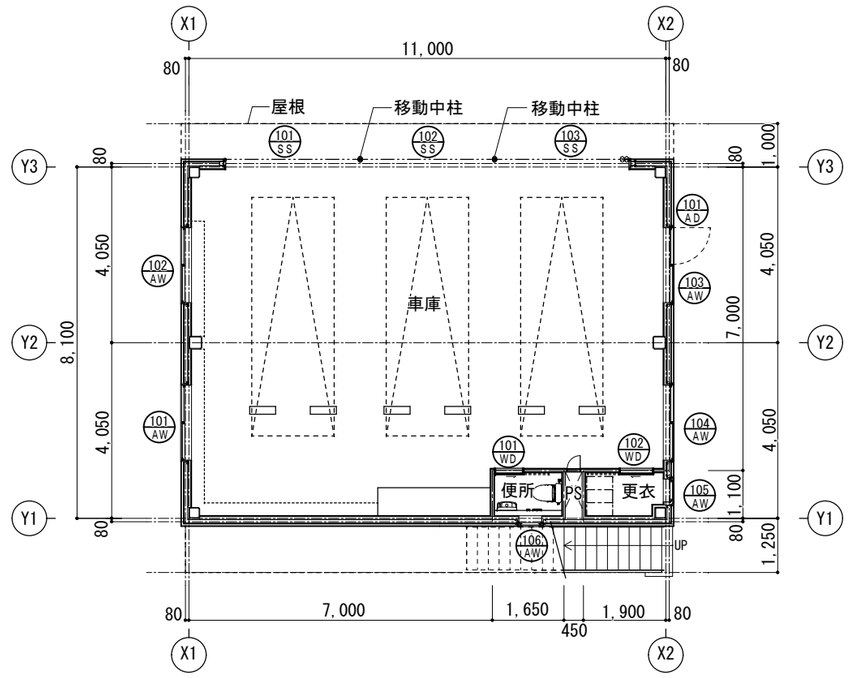


2階建具キープラン S=1:100



1階天井伏図 S=1:100

天井仕上　凡例	
①	化粧石膏ボード（GB-D）　t=9.5　(910×455)張/LGS
②	デッキプレート現し（亜鉛メッキ)鉄骨露出部：SOP塗
③	準不燃ビニールクロス貼/石膏ボード(GB-R) t=12.5/LGS
④	耐水合板（Ｉ類）t=5.5 / LGS
⑤	EP塗/ケイカル板 t=6 目透張り/LGS
	天井点検口:アルミ枠450角　4ケ所
	エアコン開口補強部分　天井開口　1740×700　4ケ所
	天井換気扇開口補強部分　天井開口　350×350　2ケ所
	給気制気口開口補強部分　天井開口　350×350　2ケ所

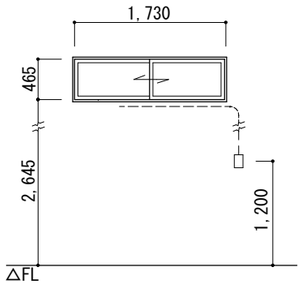
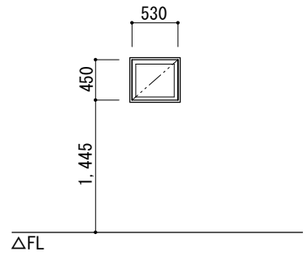
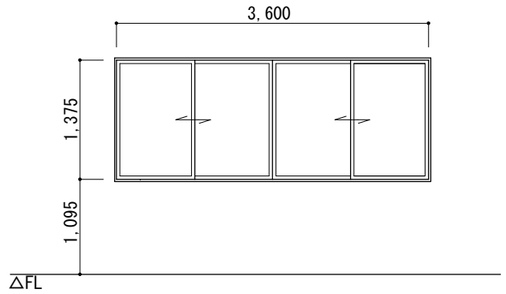
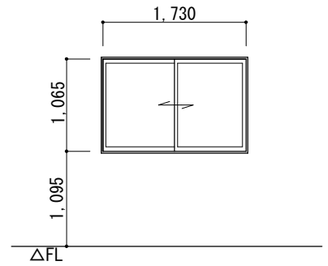


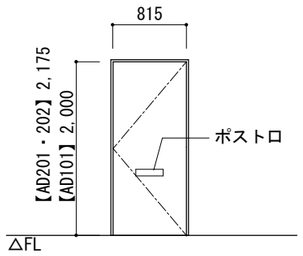
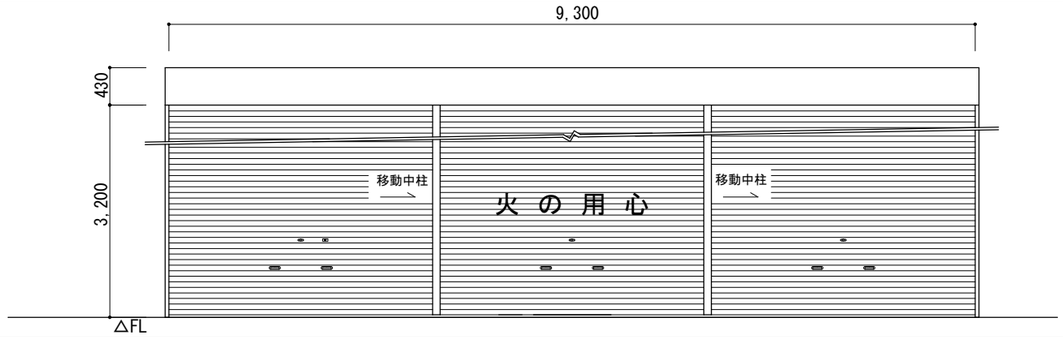
1階建具キープラン S=1:100

摘　要	月　日			

ESSE INC.
甲府市飯田4丁目7-14
株式会社　イ　ズ
ＴＥＬ　055 (226) 8888(代)
ＦＡＸ　055 (226) 5727
一級建築士　長田 孝三　第123273号
一級建築士事務所　第1- 031039号
E-mail : esse@coral.plala.or.jp

管理建築士	検図者	設計者	担当者	工事名称	千塚分団本部拠点施設建設（建築主体）工事	図面番号
作　製　令和 6 年 12 月 20 日				図面名称	1階･2階天井伏図・建具キープラン	D - 08
				縮　尺	A-2 S=1:100 A-3(35.35%に縮小)	

建具符号・室名	101 AW / 102 AW / 103 AW / 104 AW　1階 車庫	105 AW / 106 AW　1階 便所・更衣	201 AW / 202 AW　2階　詰所・会議室	203 AW / 204 AW / 205 AW / 206 AW　2階　詰所・会議室
姿　図 （内 観 図） 寸法は内法寸法を示す				
型　式	引違い窓	横辷り出し窓	4枚建引違窓	引違い窓
見　込	70（ALC枠）	70（ALC枠）	70（鉄骨枠半外付型）	70（ALC枠）
材質・仕上	アルミシルバー	アルミシルバー	アルミシルバー	アルミシルバー
ガ ラ ス	型板ガラス F4	型板ガラス F4	フロートガラスFL 5	フロートガラスFL 5
網戸（可動）	可動網戸（グラスファイバー）	可動網戸（グラスファイバー）	可動網戸（グラスファイバー）	可動網戸（グラスファイバー）
金物　錠	クレセント　開閉オペレーター	カムラッチ錠	クレセント	クレセント
金物　取手・握玉	引手	カムラッチハンドル	引手	引手
金物　支持金物	戸車	辷り出しアーム	戸車	戸車
金物　皿板・沓摺	水切	水切	水切	水切
金物　額縁アングル	四方付	四方付	四方付	四方付
カーテン・ブラインド	—	—	横型ブラインド スラット巾 25	横型ブラインド スラット巾 25
備　考	四方アルミ額縁付	四方アルミ額縁付	四方アルミ額縁付	四方アルミ額縁付
	付属金物一式	付属金物一式	付属金物一式	付属金物一式

建具符号・室名	101 AD / 201 AD / 202 AD　1階 車庫　2階 詰所・会議室	101 SS / 102 SS / 103 SS　1階 車庫	
姿　図 （内 観 図） 寸法は内法寸法を示す			
型　式	片開きアルミパネルフラッシュ戸（ALC枠）	軽量バランスシャッター　（101のみ水圧解除装置付）	
見　込	70（ALC枠）	ー	
材質・仕上	アルミシルバー	スラット：カラー鋼板　t=0.8　　ガイドレール：カラー鋼板・シャッターケース（角型）	
ガ ラ ス	—	ー	
網戸（可動）	—	ー	
金物　錠	シリンダー本締錠（外：ｼﾘﾝﾀﾞｰ、内：ｻﾑﾀｰﾝ）	内外錠	
金物　取手・握玉	SUSレバーハンドル	手掛	
金物　支持金物	SUS丁番3枚吊り、ドアクローザー（ストップ付）	ー	
金物　皿板・沓摺	下枠SUS t 1.5	アルミ強化座板	
金物　額縁アングル	三方付	三方枠 ボンデ鋼板t1.6 焼付塗装	
カーテン・ブラインド	—	ー	
備　考	三方アルミ額縁付　ポストロ付	専用フック棒　　火の用心文字　カッティングシート貼（300角）	
	付属金物一式	付属金物一式	

凡　例

ＴＰ	強化ガラス	Ｆ	型板ガラス	ＦＷ	網入り型ガラス	ＦＬ	フロートガラス	ＰＷ	網入り磨きガラス	Low-E	高断熱 又は 高遮熱断熱ガラス

摘　要	月 日			

ESSE INC.
甲府市飯田4丁目7-14
株式会社　イ ズ
ＴＥＬ　055（226）8888(代)
ＦＡＸ　055（226）5727
一級建築士　長田 孝三　第123273号
一級建築士事務所　第1- 031039号
E-mail ： esse@coral.plala.or.jp

管理建築士	検図者	設計者	担当者

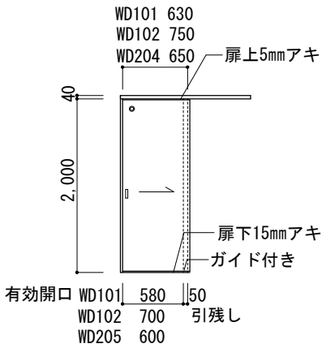
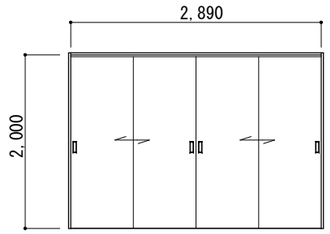
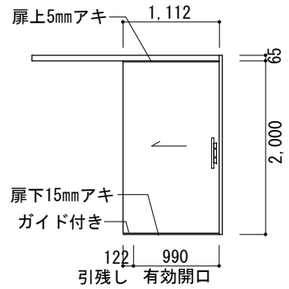
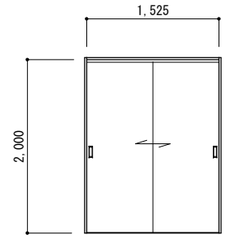
作 製　令和 6 年 12 月 20 日

工事名称　千塚分団本部拠点施設建設（建築主体）工事

図面名称　建具表（1）　AW・AD・SS

縮 尺　A-2 S=1:50　A-3(35.35%に縮小)

図 面 番 号　D － 09

建具符号・室名	101 WD / 102 WD / 204 WD　1階 便所・更衣　2階 便所	201 WD　2階 収納②	202 WD　2階 会議室	203 WD　2階 収納①
姿　図 （内 観 図） 寸法は内法寸法を示す				
型　式	片引きフラッシュ戸（上吊りタイプ）	引違フラッシュ戸（4枚建て）	片引きフラッシュ戸（上吊りタイプ）	引違フラッシュ戸
見　込	枠：110　扉：30	枠：110　扉：30	枠：110　扉：30	枠：110　扉：30
材質・仕上	ポリ合板フラッシュ	ポリ合板フラッシュ	ポリ合板フラッシュ	ポリ合板フラッシュ
ガ ラ ス	樹脂製小窓	—	—	—
網戸（可動）	—	—	—	—
金物　錠	内締り表示錠（非常時開放錠）	—	引戸用シリンダー本締鎌錠(外：シリンダー　内：サムターン)	—
金物　取手・握玉	掘り込み引手	掘り込み引手	バーハンドル	掘り込み引手
金物　支持金物	上吊り金物	戸車	上吊り金物	戸車
金物　皿板・沓摺	—	ステンレスレール	—	ステンレスレール
金物　額縁アングル	—	—	—	—
カーテン・ブラインド	—	—	—	—
備　考	戸当りゴム付 他付属品一式	戸当りゴム付 他付属品一式	戸当りゴム付 他付属品一式	戸当りゴム付 他付属品一式
建具符号・室名				
姿　図 （内 観 図） 寸法は内法寸法を示す				
型　式				
見　込				
材質・仕上				
ガ ラ ス				
網戸（可動）				
金物　錠				
金物　取手・握玉				
金物　支持金物				
金物　皿板・沓摺				
金物　額縁アングル				
カーテン・ブラインド				
備　考				

凡　例

ＴＰ	強化ガラス	Ｆ	型板ガラス	ＦＷ	網入り型ガラス	ＦＬ	フロートガラス	ＰＷ	網入り磨きガラス	Low-E	高断熱 又は 高遮熱断熱ガラス

摘　要	月　日			

ESSE INC.
甲府市飯田4丁目7-14
株式会社　イ ズ
ＴＥＬ　055 (226) 8888(代)
ＦＡＸ　055 (226) 5727
一級建築士　長田 孝三　第123273号
一級建築士事務所　第1- 031039号
E-mail ： esse@coral.plala.or.jp

管理建築士	検図者	設計者	担当者

作　製　令和 6 年 12 月 20 日

工事名称　千塚分団本部拠点施設建設（建築主体）工事

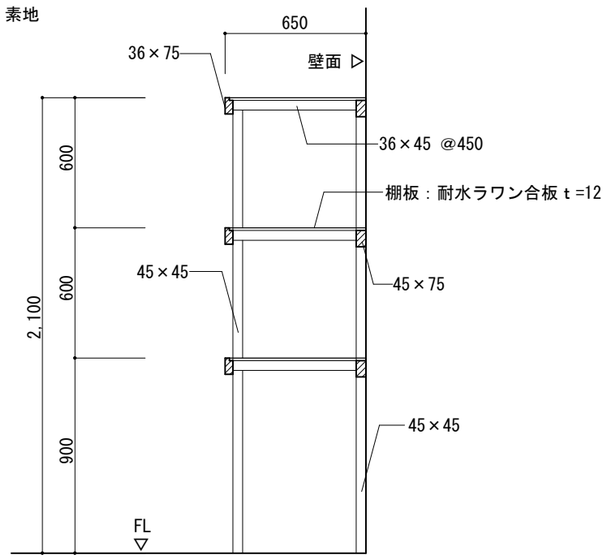
図面名称　建具表（２）　WD

縮　尺　A-2 S=1:50　A-3(35.35%に縮小)

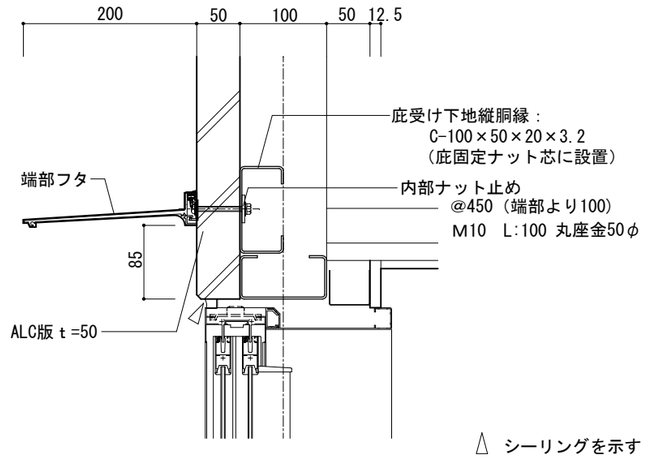
図 面 番 号　D － 10

整理棚　詳細図　S=1:20

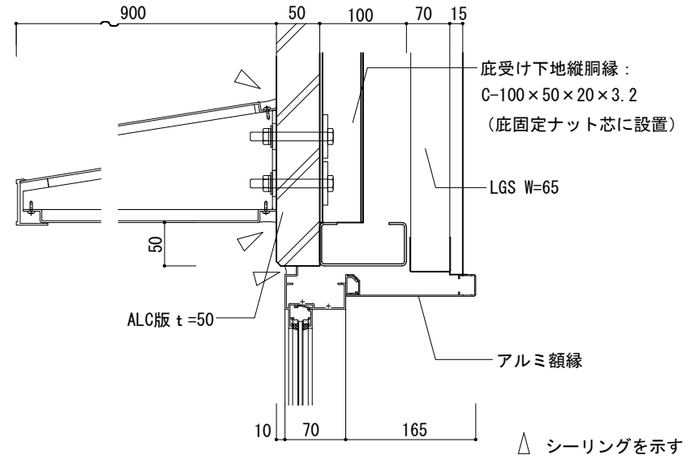
※ 樹種：米栂　　仕上：素地



窓上アルミ庇 詳細図　S=1:5

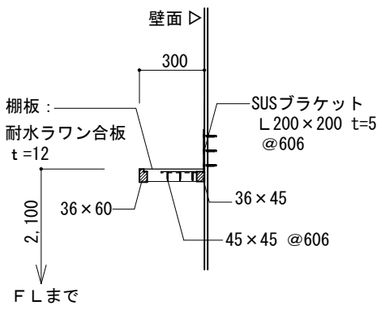


扉上アルミ庇 詳細図　S=1:5

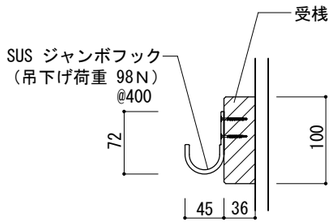


車庫　壁面棚 詳細図　S=1:20

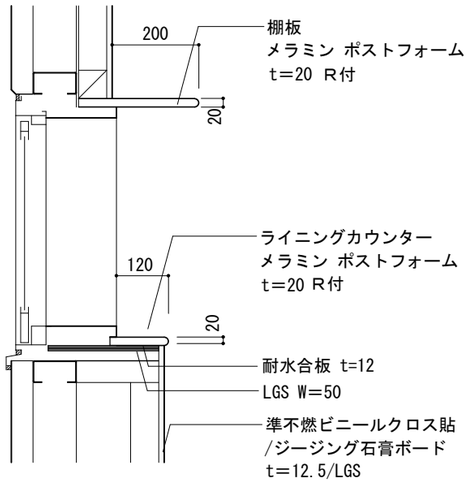
※ 樹種：米栂　　仕上：素地



防火服掛け用吊下げフック 詳細図　S=1:5

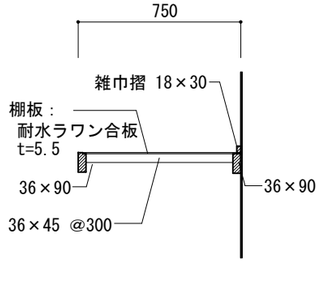


トイレライニング・棚 詳細図　S=1:10



収納棚詳細図　S=1:20

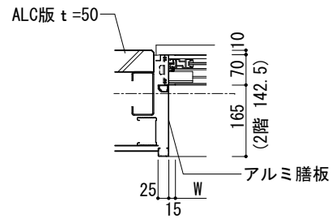
※ 樹種：米栂　　仕上：素地



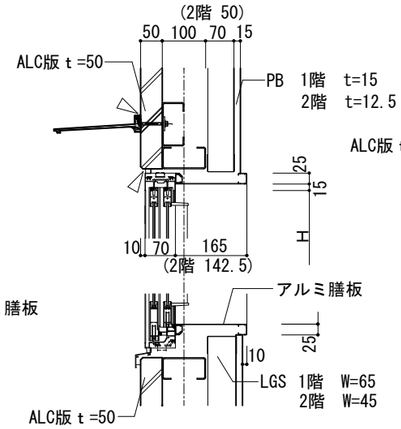
建具廻り詳細図　S=1:10

外部建具廻り

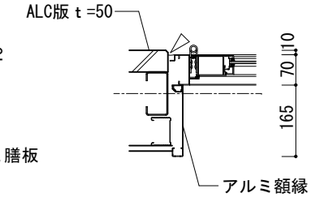
シーリングを示す。



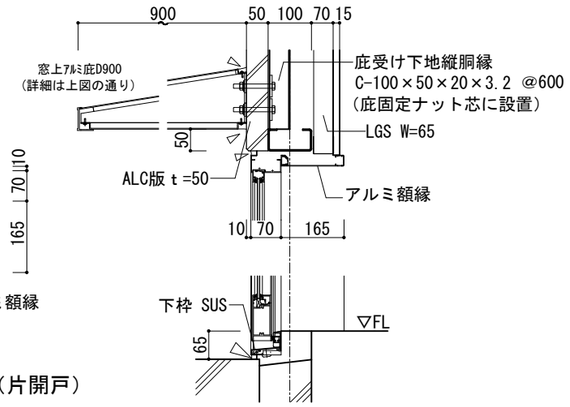
（引違い窓）



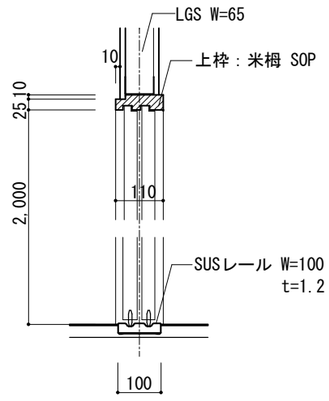
ALC版廻り



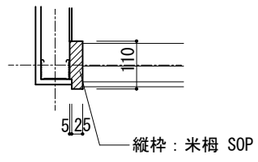
（片開戸）

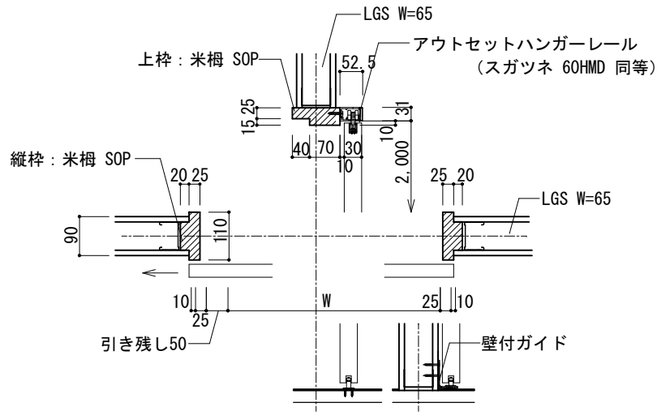


内部建具廻り



引違い戸



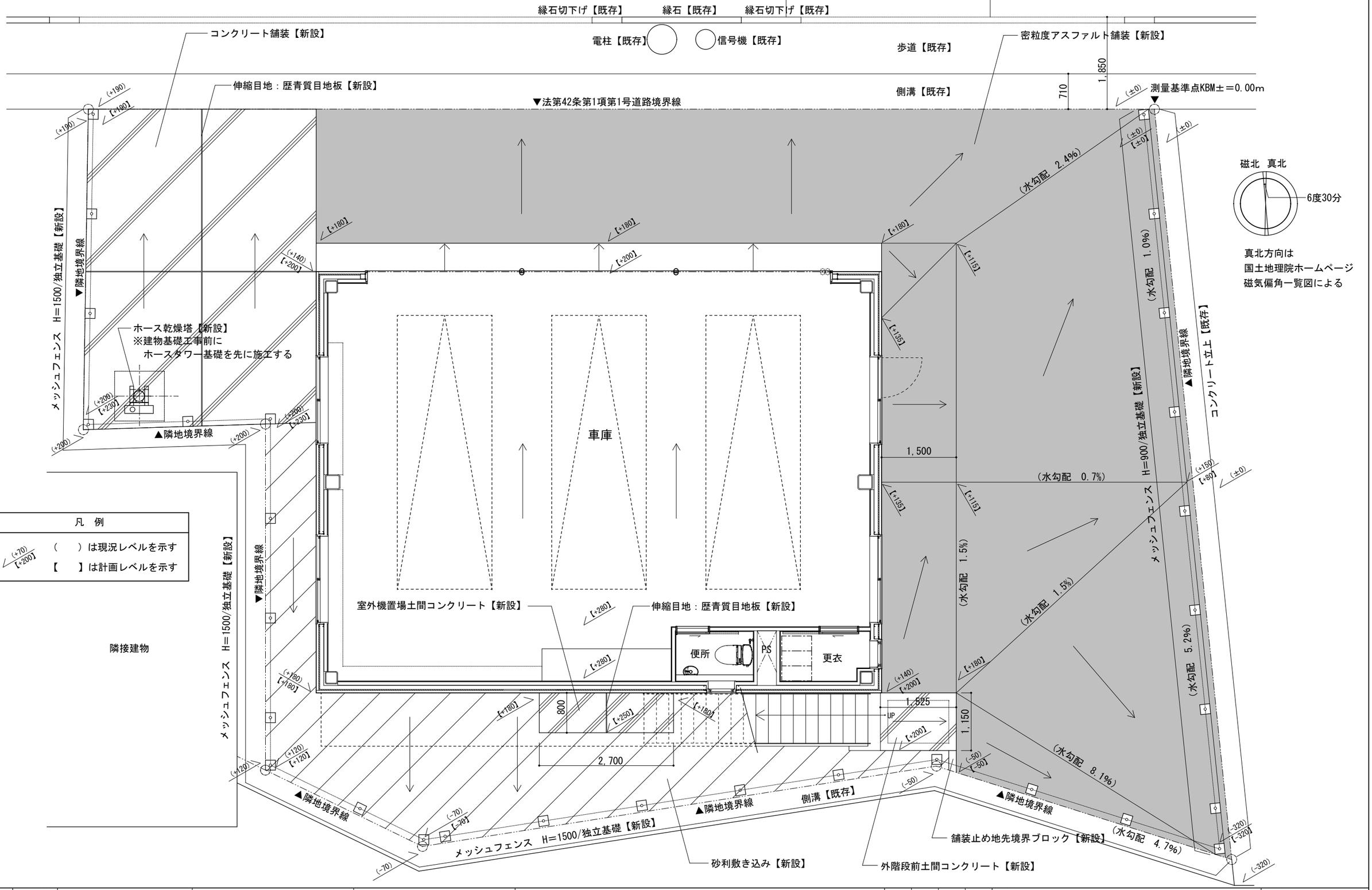


引戸

摘　要	月　日			

ESSE INC.
甲府市飯田4丁目7-14
株式会社　イ　ズ
ＴＥＬ　055（226）8888(代)
ＦＡＸ　055（226）5727
一級建築士　長田 孝三　第123273号
一級建築士事務所　第1- 031039号
E-mail ： esse@coral.plala.or.jp

管理建築士	検図者	設計者	担当者	工事名称	千塚分団本部拠点施設建設（建築主体）工事	図面番号
作　製　令和　6 年 12 月 20 日				図面名称	部分詳細図	D － 11
				縮　尺	A-2 S=1:5・1:10・1:20 A-3(35.35%に縮小)	

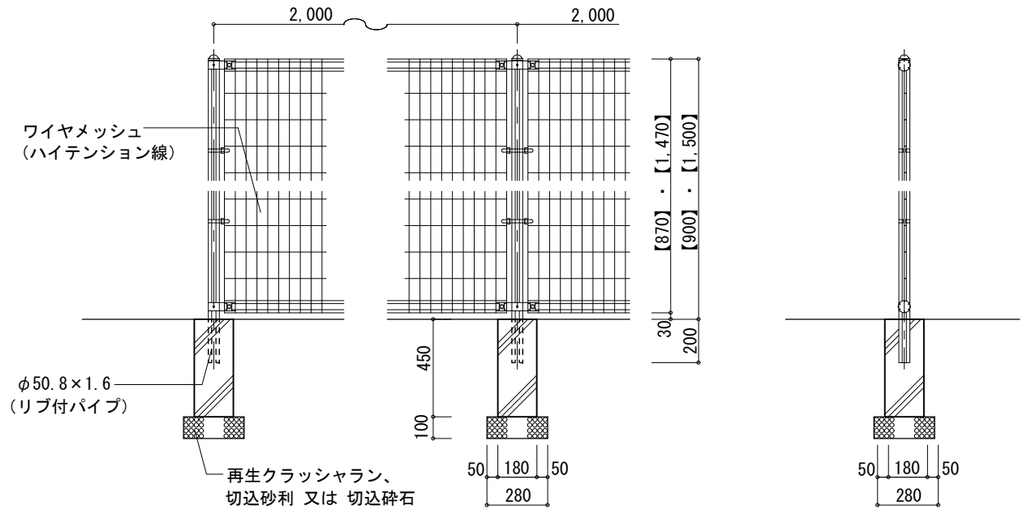


摘 要	月 日			

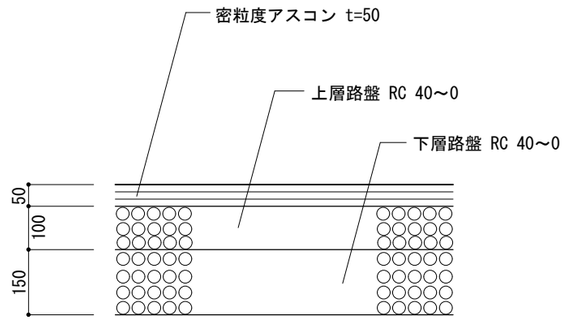
ESSE INC.
甲府市飯田4丁目7-14
株式会社 イ ズ
TEL 055 (226) 8888(代)
FAX 055 (226) 5727
一級建築士 長田 孝三 第123273号
一級建築士事務所 第1- 031039号
E-mail : esse@coral.plala.or.jp

管理建築士	検図者	設計者	担当者	工事名称	千塚分団本部拠点施設建設（建築主体）工事	図面番号
作 製 令和 6 年 12 月 20 日				図面名称	外構図	D － 12
				縮 尺	A-2 S=1:50 A-3(35.35%に縮小)	

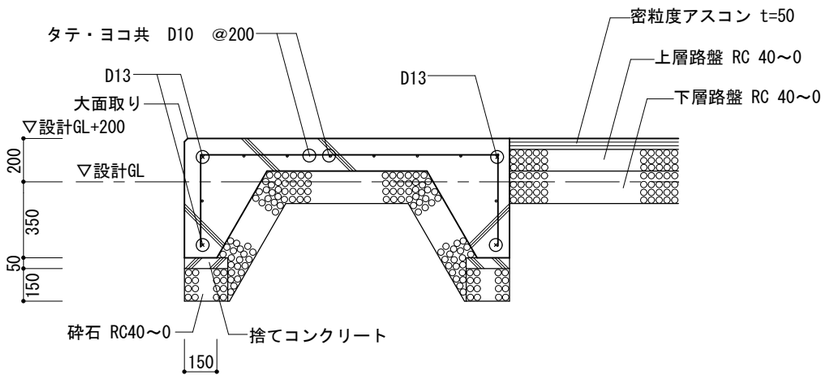
メッシュフェンス詳細図　S=1/20



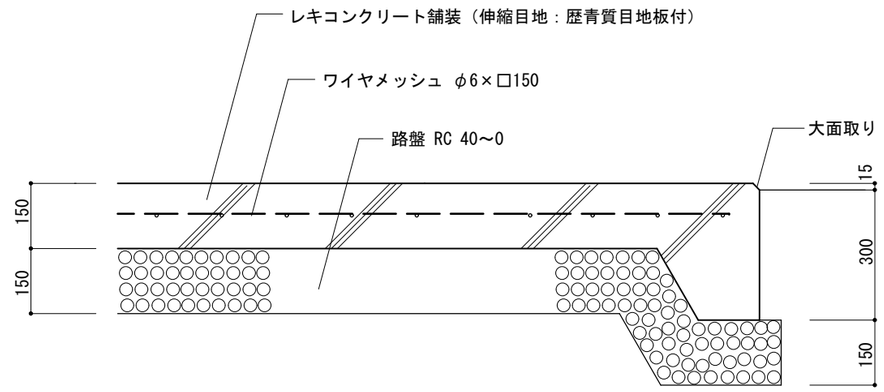
密粒度アスファルト舗装詳細図　S=1/10



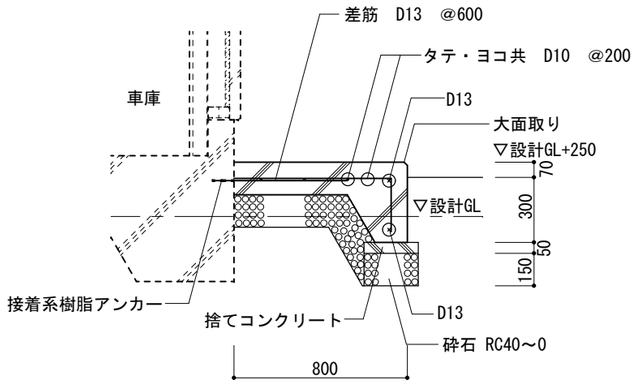
外階段前土間コンクリート詳細図　S=1/20



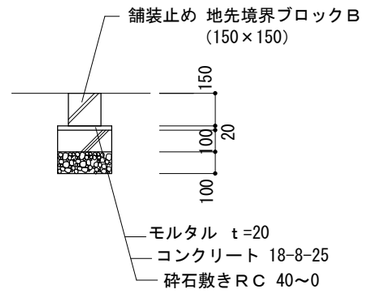
コンクリート舗装詳細図　S=1/10



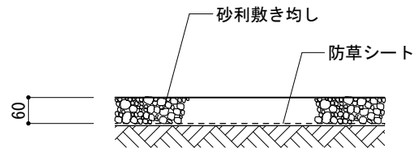
室外機置場土間コンクリート詳細図　S=1/20



舗装止め地先境界ブロック詳細図　S=1/20



砂利敷き込み　S=1/10



摘　要	月　日			

ESSE INC.
甲府市飯田4丁目7-14
株式会社　イ　ズ
ＴＥＬ　055 (226) 8888(代)
ＦＡＸ　055 (226) 5727
一級建築士　長田 孝三　第123273号
一級建築士事務所　第1- 031039号
E-mail : esse@coral.plala.or.jp

管理建築士	検図者	設計者	担当者

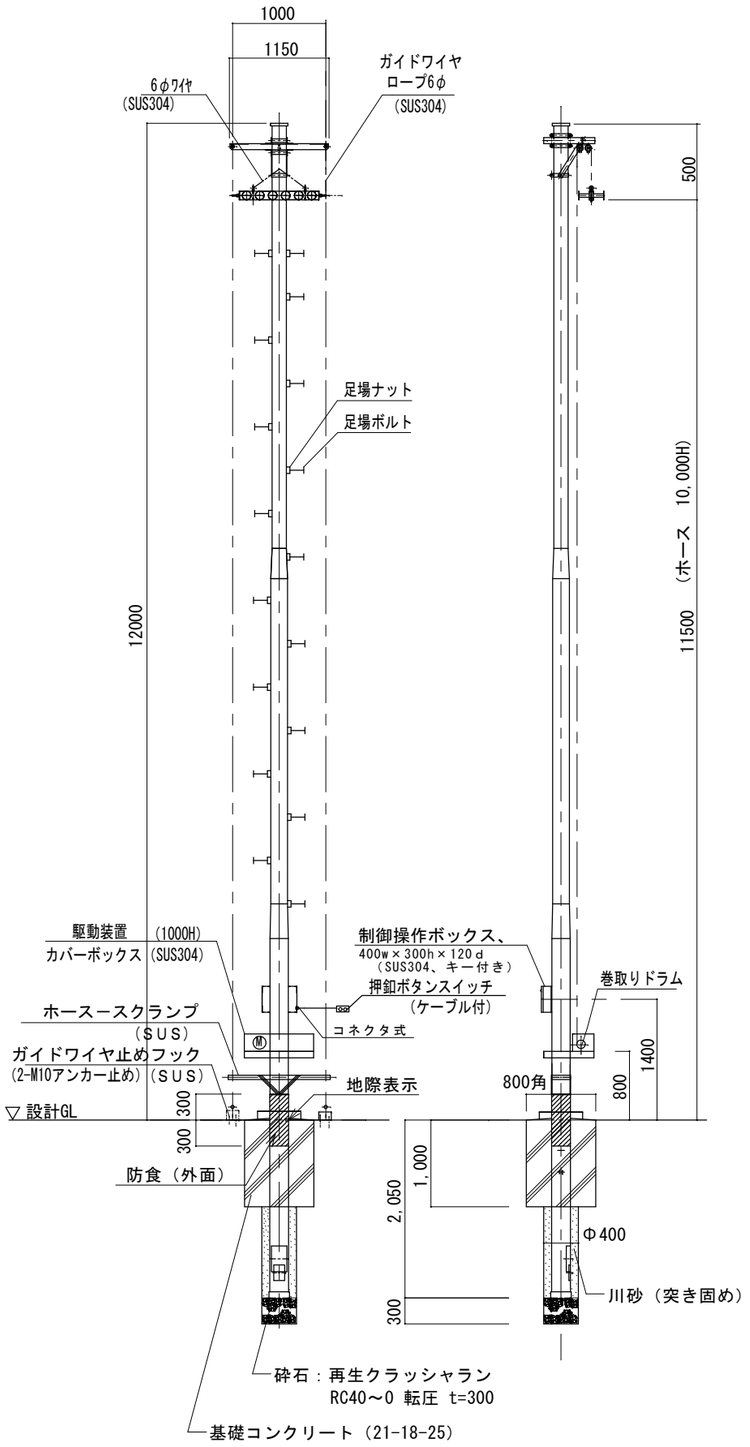
作　製　令和 6 年 12 月 20 日

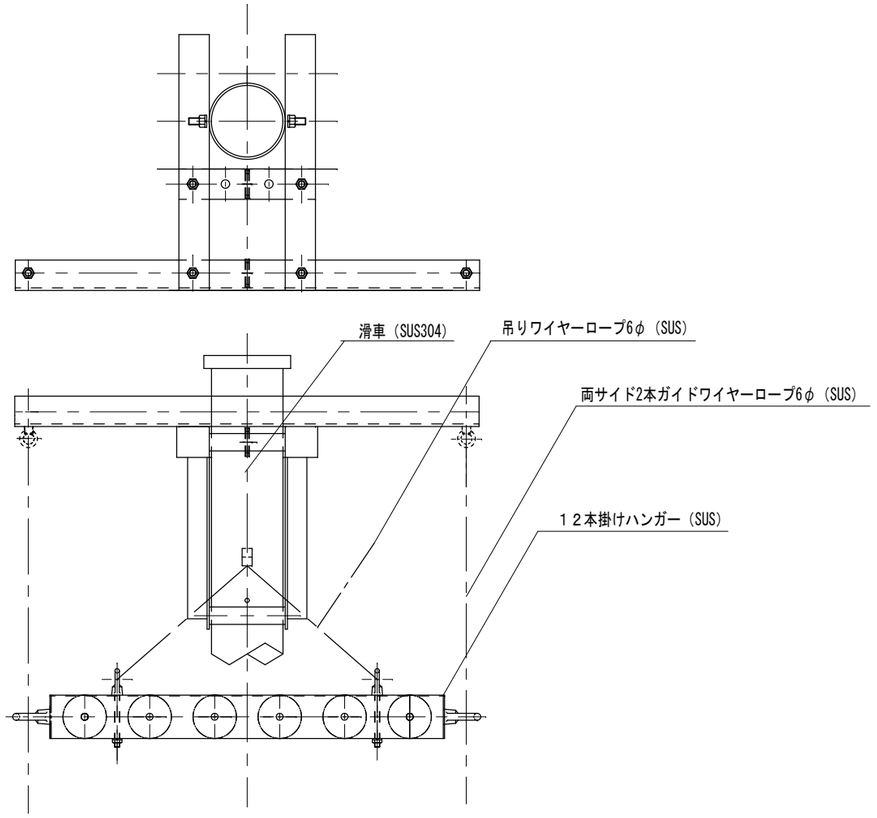
工事名称　千塚分団本部拠点施設建設（建築主体）工事

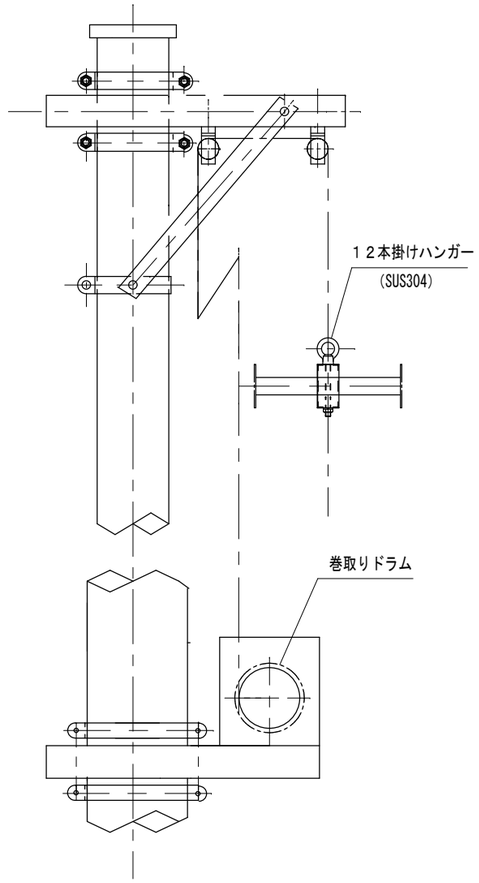
図面名称　外構詳細図

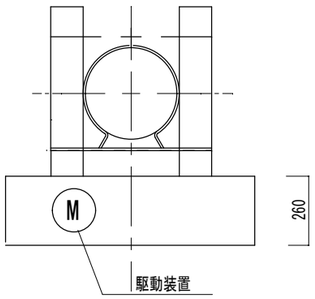
縮　尺　A-2 S=1:10・1:20　A-3(35.35%に縮小)

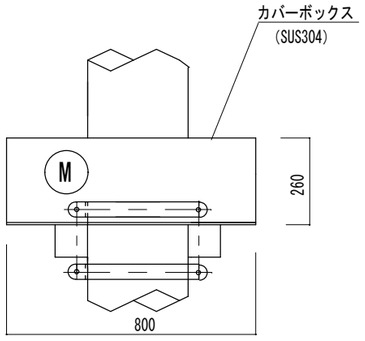
図面番号　D － 13











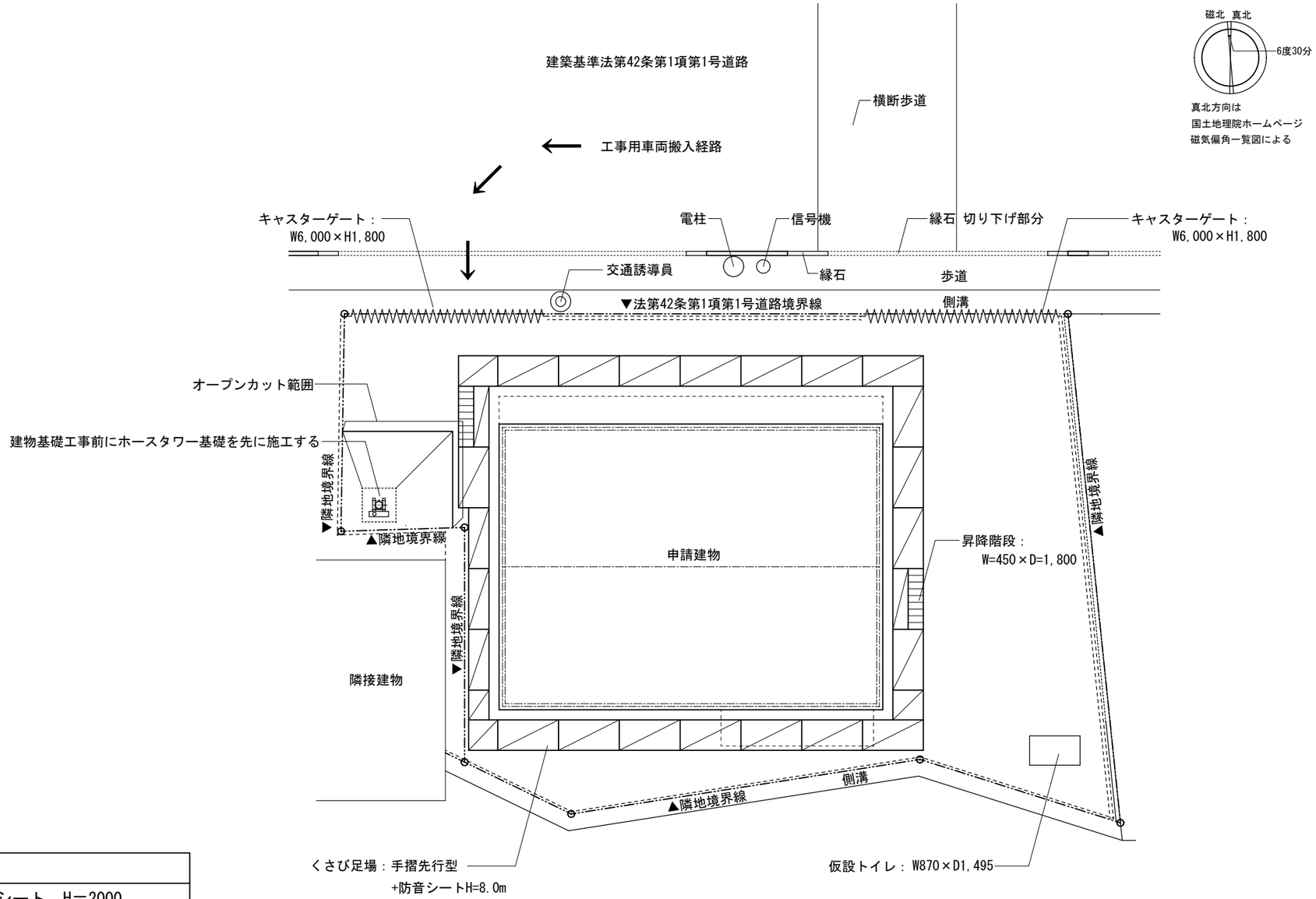
仕様		
型式	DP－AU型 (電動式)	
台数	1 基	
積載本数	20Mホース 12本吊	
巻上方式	電動式 (200V-単相－50Hz－0.2kw)	
番号	名称	材質
1	吊ハンガー	(SUS304)
2	吊ワイヤロープ、ガイドワイヤーロープ Φ6	(SUS304)
3	共梁金物	(SS材 溶融亜鉛メッキ)
4	吊ビーム	(SS材 溶融亜鉛メッキ)
5	支柱 1. ポールΦ193x3.2～Φ216.3x6.0	(SS材 溶融亜鉛メッキ)
	2. 頂上キャップ	(SS材 溶融亜鉛メッキ)
	3. 底キャップ	(SS材 溶融亜鉛メッキ)
	4. 足場ボルト	(SS材 溶融亜鉛メッキ)
6	ホース振止め金具	(SUS304)
7	滑車	(SUS304)
8	バンド及びバンドボルト	(SS材 溶融亜鉛メッキ)
9	ウィンチ取付ブラケット	(SS材 溶融亜鉛メッキ)

摘要	月日	

ESSE INC.
甲府市飯田4丁目7-14
株式会社 イズ
TEL 055 (226) 8888(代)
FAX 055 (226) 5727
一級建築士 長田 孝三 第123273号
一級建築士事務所 第1- 031039号
E-mail : esse@coral.plala.or.jp

管理建築士 | 検図者 | 設計者 | 担当者
作製 令和 6 年 12 月 20 日

工事名称: 千塚分団本部拠点施設建設(建築主体)工事
図面名称: ホース乾燥塔詳細図
縮尺: A-2 NOSCALE / A-3(35.35%に縮小)
図面番号: D - 14



凡　例	仮設計画
-------	南側・西側 仮囲い：単管パイプ+防音シート　H＝2000
=======	北側・東側 仮囲い：成形鋼板　H＝2000
∿∿∿∿	キャスターゲート：W=6,000×H=1,800
	足場：くさび足場 手摺先行型+防音シートH=8.0m
	昇降階段：W=450×D=1,800
◎	交通誘導員
※　現場事務所は借地に設置する	

※　事前に仮設計画図を作成し
担当監督員の承諾を得ること

仮設計画図（参考図）

摘　要	月　日			

ESSE INC.
甲府市飯田4丁目7-14
株式会社　イ　ズ
ＴＥＬ　055（226）8888(代)
ＦＡＸ　055（226）5727
一級建築士　長田 孝三　第123273号
一級建築士事務所　第1- 031039号
E-mail ： esse@coral.plala.or.jp

管理建築士	検図者	設計者	担当者	工事名称	千塚分団本部拠点施設建設（建築主体）工事	図面番号
作　製　令和 6 年 12 月 20 日				図面名称	仮設計画図（参考図）　縮尺 A-2 S=1:100 A-3(35.35%に縮小)	K － 01

構造設計特記仕様

※修正箇所は下線を引くこと
適用は ■ 印を記入する。

1．建築物の構造内容

（1）建築場所　山梨県甲府市千塚一丁目1842の一部
（2）工事種別　■ 新築　□ 増築　□ 増改築　□ 改築
（3）構造設計一級建築士の関与　□ 必要　■ 必要としない
□ 法第20条第一号（高さ 60 m超）
■ 法第20条第二号（ □ RC造高さ 20 m超　□ S造 4 階建以上　□ 木造高さ 13 m超　■ その他 ）
注(3)構造設計一級建築士の関与が義務づけられる建築物については解説書等を参照して確認する事。
（4）構造種別
□ 木造（W）　□ 補強コンクリートブロック造（CB）　■ 鉄骨造（S）
□ 鉄筋コンクリート造（RC）　□ 壁式鉄筋コンクリート造（WRC）
□ 鉄骨鉄筋コンクリート造（SRC）　□ 壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造（WPRC）
□ プレキャスト鉄筋コンクリート造（PRC）　□
（5）階　数
1　棟　地下　階　地上 2　階　塔屋　階
（6）主要用途　その他（消防団詰所）
（7）屋上付属物
□ 高架水槽　kN　□ キュービクル　kN　□ 広告塔　□ 煙突
（8）特別な荷重
□ エレベータ　人乗（□マシンルームレス□ロープ式□油圧式）□ オムニリフター　kN
□ 倉庫積載床用　N/m²　□ 受水槽　kN　□ ﾌｫｰｸﾘﾌﾄ　kN 用
（9）付帯工事
□ 門塀　□ 擁壁　□ 駐輪場　□ 機械式駐車場　□　□
（10）増築計画　□ 有（　　）■ 無
（11）構造計算ルート　X方向ルート 1－2　Y方向ルート 1－2

2．使用建築材料表・使用構造材料一覧表

（1）コンクリート　（レディーミクストコンクリート JIS Q 1001, JIS Q 1011, JIS A 5308）

適用箇所	種類	設計基準強度 Fc=N/mm²	品質基準強度 Fq=N/mm²	スランプ cm	備考
捨てコンクリート	■普通	18	18	18	
土間ｺﾝ・ﾗｯﾌﾟﾙｺﾝｸﾘｰﾄ	■普通	18	18	18	
基礎・基礎梁	■普通	21	24	18	
	□普通				比重 23
ﾃﾞｯｷ床ｺﾝｸﾘｰﾄ	■普通、□軽量	21	24	18	比重 23
	□普通、□軽量				比重
押えコンクリート	□普通、□軽量				比重

細骨材の種類	□ 砂　■ 山砂　□ 人工　□
粗骨材の種類	□ 砂利　■ 砕石　□ 人工　□
水の区分	■ 水道水　□ 地下水　□ 工業用水
混和材料の種類（JIS A 6204　）	■ AE減水剤　□ 高性能AE減水剤　□　□
呼び強度を保証する材齢、養生	■ 材齢（ ■28日　□56日　□　□　） ■ 養生（ □ 現場封かん　□ 現場水中　■ 標準　□　）

■ 単位水量は 185kg/m³ 以下、単位セメント量は 270kg/m³ 以上　■ コンクリートの空気量は 4.5%とする。

（2）コンクリートブロック　（□ JIS A 5406）
□ A種　□ B種　□ C種　厚 □ 100　□ 120　□ 150　□ 190　使用箇所（ □　□　）

（3）鉄　筋

	種類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋（JIS G 3112）	■ SD295 A	D10～D16	基礎・地中梁	■ 重ね継手　(D16以下)
	□ SD295 B			■ ガス圧接継手（D19以上）
	■ SD345	D19	地中梁	□ 溶接継手
	□ SD390			□ 機械式継手
	□			（　　）
高強度せん断補強筋	□ 材種			各継手の使用詳細については本仕様 5.(2)鉄筋の項の鉄筋継手等の■にて表示すること。
	□ 大臣認定番号			
丸　鋼（JIS G 3112）	□ SR235			
溶接金網（JIS G 3551）	□			

（4）鉄　骨

種類	使用箇所	現場溶接	JIS規格・認定番号等
■ SS400　□ SM400　■ SN400 A,B,C	梁	□有 ■無	JIS G 3101
■ STKR400　□ STKR490　□ STK400	鋼管	□有 ■無	JIS G 3466
■ BCR295　□ BCP235　□ BCP325	柱(ｺﾗﾑ)	□有 ■無	大臣認定品　認定番号　MSTL-0142
□ SM490 A　□ SM490 B　■ SN490 C	通ﾀﾞｲﾔﾌﾗﾑ等	□有 ■無	JIS G 3136
■ SSC400　□	補剛・胴縁	□有 ■無	JIS G 3350
溶接材料　□ JIS Z			

○使用箇所の詳細については別途図示とする。

（5）ボルト
■ 高力ボルト
■ F10T(JIS B1186) ■ S10T 認定番号（　）□ F8T 認定番号（　）（■ M16、■ M20、■ M22、□ M24）
■ ボルト(JIS B1180) M12　M　■ 4.8(4T)　□
□ アンカーボルト
■ SS400　M16　L＝ 250 mm　ナット（ □ シングル、■ ダブル ）
□ SS400　L＝　mm　ナット（ □ シングル、■ ダブル ）
□ 頭付スタッドボルト
φ＝　L＝　m　使用箇所（ □ 柱　□ 大梁　□ 小梁）
φ＝　L＝　m　使用箇所（ □ 柱　□ 大梁　□ 小梁）

（6）屋根、床、壁

材種	型式　厚　その他	使用箇所	仕様・構法
ＡＬＣ板　(JIS A 5416)	厚　mm	□ 壁　□ 床版	□ スライド　□ ボルト止め　□ ロッキング　□
折　版（カラーGL鋼板ﾙｰﾌﾞﾃﾞｯｷ）	H=88 mm　厚 0.6mm	■ 屋根　□	□
特殊デッキプレート（JIS G 3352）	厚	□ 床版　□	□
デッキプレート　(JIS G 3352)	型式 QL99-50-12 厚 1.2mm	■ 床版　□	□
	型式　厚	□ 床版　□ 庇	□

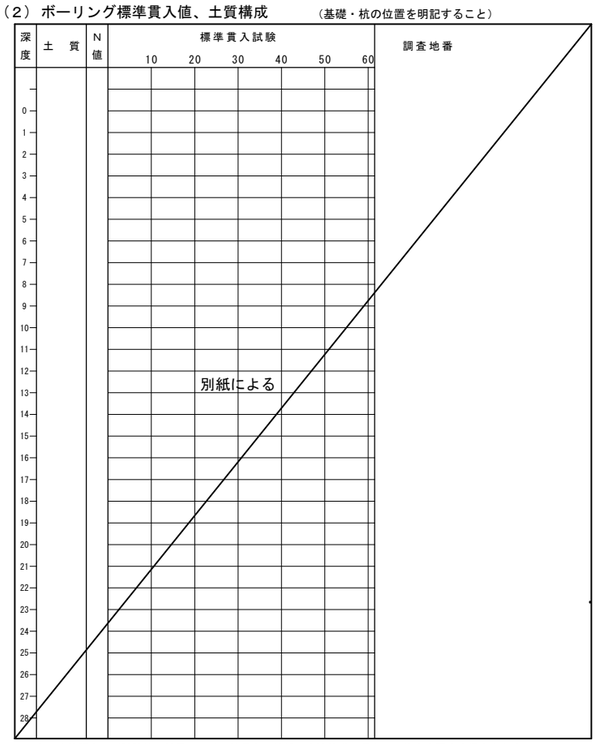
3．地　盤

（1）地盤調査資料と調査計画
■ 有　（ ■ 敷地内　□ 近隣 ）　□ 無　（ 調査計画　□ 有　□ 無 ）

調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画
ボーリング調査	●		静的貫入試験			標準貫入試験	●	
水平地盤反力係数の測定			土質試験			物理探査		
試験堀（支持層の確認）			平板載荷試験			液状化判定		
スエーデン式サウンディング			現場透水試験			ＰＳ検層		

注）上記表中の資料が有るもの、調査計画が有るものに ● を記入する。

（2）ボーリング標準貫入値、土質構成　（基礎・杭の位置を明記すること）



注）地盤調査及び試験杭の結果により、杭長さ、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある。

4．地業工事

（1）直接基礎　□ ベタ基礎　□ 布基礎　■ 独立基礎　試験堀　□ 有 ■ 無
深さ GL－1.20 m 、支持層 － 砂礫層　、長期許容支持力度 180 kN/㎡ 載荷試験　□ 有 ■ 無
（2）地盤改良　□ 浅層混合処理工法　□ 深層混合処理工法　■ ラップルコンクリート
深さ GL－　m 、長期許容支持力度 180 kN/㎡（ラップルコンクリート上端）載荷試験　□ 有 □ 無
注）「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針：日本建築センター2002」を参考とする
（2）杭基礎　支持層 －

杭種	材料	施工法	備考
□ RC　□ CPRC	□ CPRC（□ Ⅰ種 □ Ⅱ種 □ Ⅲ種）	□ 打ち込み	
□ PHCE　□ H鋼	□ PHC（□ Ａ種 □ Ｂ種 □ Ｃ種）	□ 埋込み　（セメントミルク工法）	
□ PHC　□ 摩擦杭	鋼材　□ SS400　□ SKK400	□	
□ SC　□ ST	□ JIS　□ STK490	□	
□ 場所打ち コンクリート杭	コンクリートＦｃ　N/mm² Ｆｑ　N/mm² スランプ　cm以下 セメント量　kg/m³ 単位水量　kg/m³ 鉄　筋　主筋 SD HOOP SD	□ オールケーシング　□ 拡底杭 □ リバースサーキュレーション □ アースドリル　□ ミニアース □ ＢＨ　□ 深礎　（□ 手堀　□ 機械堀）	認定 第　号 年　月　日

杭仕様　□ 施工計画書承認　□ 杭施工結果報告書
試験杭　（□ 有・□ 無）　（□ 打ち込み・□ 載荷・□ 孔壁測定）　本

杭呼び径（mm）	設計支持力（KN）	杭長（ｍ）	本数	特記事項

5．鉄筋コンクリート工事　（施工方法等計画書）

本構造設計特記仕様はコンクリートの設計基準強度（Ｆｃ）が 36 N/mm²以下に適用し、鉄筋の材種は SD390 以下に適用する。

（1）コンクリート
■ コンクリートは JIS A 5308 に適合するJIS認証工場の製品とし、施工に関しては標準図に記載されている事項を除き、JASS 5 による。（2009年版）
■ 耐久設計基準強度　Ｆｄ　□ 短期　■ 標準　□ 長期　□ 超長期
■ セメントは、JIS R 5210 の普通ポルトランドセメントを標準とする。
■ 調合計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
■ 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調合、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
■ フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で（財）国土開発技術研究センターの技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し承認を得る。
測定検査の回数は、通常の場合、１日１回以上とし、１回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて３回行い、その平均値を試験値とする。
■ 構造体コンクリートについて現場の圧縮強度試験方法はJASS 5T － 603によることとし、供試体は現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み工区ごと、打ち込み日ごととする。
また、打ち込み量が150m³ を超える場合は150m³ ごとまたは、その端数ごとに一回を標準とする。
一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた３台の運搬車からその必要本数を採取する。
尚、供試体の数量は、特別指示なき場合は、１回当り６本以上とし、そのうち４週用に３本を用いる。
■ ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づいて垂直に打ち、コンクリートの自由落下高さはコンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が 25 ℃未満の場合は 150 分以内、25 ℃以上の場合は 120 分以内とする。
■ コンクリート打込み中及び打込み後５日間は、コンクリートの温度が２度を下がらないようにする。
■ 乾燥、振動等によってコンクリートの凝結及び硬化が妨げられないように養生を行う。

（2）鉄　筋
■ 鉄筋は JIS G 3112 の規格品を標準とする。施工は、標準図に記載されている事項を除き、コンクリートと同時に、JASS 5 による。
□ 高強度せん断補強筋は、 JIS G 3137 に規定されるＤ種１号適合品とする。
■ 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）（２）」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）（２）」による。
■ 鉄筋継手等

鉄筋継手方法	継手の位置等の設計条件による仕様・等級 (1) 引張力最小部位	(2) (1)以外の部位(注) A 級	B 級	SA級	鉄筋の径
■ 重ね継手	■ 40d　□ 35d　□（　）d				■ D（16）以下
■ 圧接継手	■ 告示1463号第2項各号	□			■ D（19）以上
□ 溶接継手	□ 告示1463号第3項各号	□	□		□ D（　）以上
□ 機械式継手	□ 告示1463号第4項各号	□	□	□	□ D（　）以下

注）(1)以外の部位に設ける継手は、平成12年告示第1463号ただし書きに基づき、日本鉄筋継手協会、日本建築センター等の認定・評定等を取得した継手工法の等級で、構造計算にあたって『鉄筋継手使用基準（建築物の構造関係技術基準解説書 2007）』によって検討した部材の条件・仕様によること。
□ D19 未満は、すべて重ね継手とする。
■ 継手部分の施工要領は 社）日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書」（ガス圧接継手工事、溶接継手工事、機械式継手工事）による。
継手部の検査方法：・外観検査 ■ 有 □ 無　・引張試験 □ 有 □ 無　・超音波深傷試験 ■ 有 □ 無
ガス圧接部分の検査を超音波深傷試験によって行う場合、最初の数ロットについては引張試験も併用し、１回の試験は 3 本以上とする。
（ 1 ロットは同一作業班が同一日に作業した圧接箇所で 200 箇所程度とする）
■ 柱の帯筋(HOOP)の加工方法は、 ■ Ｈ型（タガ型）　□ Ｗ型（溶接型）　□ Ｓ型（スパイラル型）とする。

（3）型　枠
■ 材料　合板厚 12 mm を標準とする。　■ 施工　JASS 5 による。
■ 型枠存値期間

種類 / 部位	せき板 基礎、梁側、柱、壁		スラブ下、はり下		支柱 スラブ下		はり下
セメントの種類	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントＡ種 シリカセメントＡ種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントＡ種 シリカセメントＡ種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントＡ種 シリカセメントＡ種	早強ポルトランドセメント 普通ポルトランドセメント 高炉セメントＡ種 シリカセメントＡ種
コンクリートの材令日（日）／存置期間の平均気温 15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
5℃～15℃	3	5	6	10	12	25	28
5℃未満	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの圧縮強度	5.0 N/mm²		設計基準強度の５０%		設計基準強度の 85%		100%

注）1　片持ばり、庇、スパン９．０m以上のはり下は、工事監理者の指示による。
注）2　大ばりの支柱の盛りかえは行わない。またその他のはりの場合も原則として行わない。
注）3　支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
注）4　盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
注）5　支柱の盛りかえは、小ばりが終ってから、スラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。
注）7　直上階に著しく大きい積載荷重がある場合においては、支柱（大梁の支柱を除く）の盛りかえを行わないこと。
注）8　支柱の盛りかえは、養成中のコンクリートに有害な影響をもたらすおそれのある振動又は衝撃を与えないように行うこと。

6．鉄骨工事　（施工方法等計画書）

（1）鉄骨工事は指示のない限り下記による
■ 日本建築学会「ＪＡＳＳ６」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
■ 社）日本鋼構造協会「建築鉄骨工事施工指針」
■ 鉄骨製作管理技術者登録機構「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」
（2）工事監理者の承認を必要とするもの
■ 製作工場　■ 製作要領書　■ 工作図　■ 施工計画書
■ 認定または登録工場（ 大臣認定　Ｒ　グレード　以上 ）
■ 材料規格証明書 ※　または試験成績書
■ 鋼材　■ 高力ボルト　■ 特殊ボルト　□ 頭付きスタッド
※ 社）日本鋼構造協会「建築構造用鋼材の品質証明ガイドライン」の規格証明方法、またはミルシート。
■ 社内検査表　□　□
（3）工事監理者が行う検査項目
（ ■ 印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること）
■ 現寸検査　■ 組立・開先検査　■ 製品検査　■ 建方検査　□
（4）接合部の溶接は下記によること
■ 平成12年建設省告示第1464号第二号 イ、ロ
■ 日本建築学会「溶接工作基準、同解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ」
■ 日本建築学会「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」

（5）接合部の検査
■ 溶接部の検査(検査結果は後日工事監理者に報告すること)
■ 平均出検品質限界（AOQL）　□ 2.5 %　■ 4.0 %　(7.6.11)
■ 検査水準　■ 第６水準　□ 図示　(7.6.11)（表7.6.2）

試験の種別	試験箇所	試験方法
■ 超音波探傷試験	■ 完全溶込み溶接部	■ 標仕7.6.11 (b) による ■ 社内検査は、100% とする
□ 放射線試験		
□ マクロ試験		
■ 第三者検査機関名	■ ＣＩＷ認定事業者	
第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。		

注1）　現場溶接部については、原則として第三者検査機関による全数検査を行うこと。
■ 高力ボルトの検査（検査結果は後日工事監者に報告すること）
軸力導入試験　□ 要　■ 否　高力ボルトすべり係数試験　□ 要　■ 否
■ 一次締め後にマーキングを行い、二次締め後そのずれを見て、共回り等の異常が無いことを確認する。
■ トルシヤ形高力ボルトは二次締め後、ピンテールが破断していることを確認する。
（6）防錆塗装
■ 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。
錆止めのペイントは、□ JIS K 5621、□ JIS K 5625、■ JIS K 5674、□　を使用して、4 つ星 2 回塗りを標準とするが、実状に応じて決定すること。
■ 現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調査は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し、2 回塗りとする。
（7）耐火被覆の材料
□

7．設備関係

■ 建築設備の構造は、構造耐力上安全な構造方法を用いるものとする。
■ 建築設備の支持構造部および緊結金物には、錆止め等、防腐のための有効な措置を講じること。
■ 建築物に設ける屋上からの突出する水槽・煙突・その他これらに類するものは、風圧・地震力等に対して構造耐力上主要な部分に緊結され、安全であること。
■ 煙突は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり暑さを５ｃｍ以上とした鉄筋コンクリート造とすること。
■ 設備配管は、地震時等の建物変形に追従できること。また、地震力等に対して適切に支持されていること。
■ 設備機器の架台及び基礎については、風圧・地震力等に対して構造耐力上安全であること。
■ エレベーターの駆動装置等は、構造体に安全に緊結されていること。
■ 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。
■ 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さ１／３以下とし管の間隔を管径の３倍以上かつ５ｃｍ以上を原則とする。
■ 建築基準法施工令第129条の2の4 に該当する建築設備の強度については、構造設計一級建築士の法適合確認を行うこと。

8．その他

■ 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
■ 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
■ 必要に応じて記録写真を撮り保管すること。

摘要	月日		

ESSE INC.
甲府市飯田4丁目7-14
株式会社　イ　ズ
ＴＥＬ　055（226）8888(代)
ＦＡＸ　055（226）5727
一級建築士　長田 孝三　第123273号
一級建築士事務所　第1- 031039号
E-mail ： esse@coral.plala.or.jp

管理建築士	検図者	設計者	担当者	工事名称	千塚分団本部拠点施設建設（建築主体）工事	図面番号
作製	令和 6 年 12 月 20 日			図面名称	構造設計特記仕様書	縮尺 A-2 S=1:N A-3(35.35%に縮小)

S － 01

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（1）

※修正箇所は下線を引くこと

1．一般事項

（1）構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

（2）記号

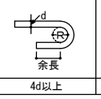
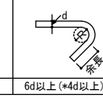
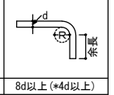
d･･･異形棒鋼の呼び名に用いた数値　丸鋼では径　　D･･･部材の成　　R･･･直径

@･･･間隔　　r･･･半径　　℄･･･中心線　　ℓ_o･･･部材間の内法距離　　h_o･･･部材間の内法高さ

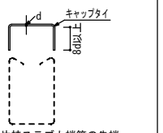
ＳＴ･･･あばら筋　　ＨＯＯＰ･･･帯筋　　Ｓ．ＨＯＯＰ･･･補強帯筋　　φ･･･直径又は丸鋼

2．鉄筋加工、かぶり

（1）鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°
図			
鉄筋の余長	4d以上	6d以上（*4d以上）	8d以上（*4d以上）

折まげ角度90°はスラブ筋・壁筋の末端部またはスラブと同時に打ち込むＴ形およびＬ型梁のキャップタイにのみ用いる。



*片持スラブ上端筋の先端

折まげ内法寸法Ｒは、ＳＲ235～ＳＤ345の径16およびＤ16以下は3d以上、ＳＤ295～ＳＤ345のＤ19～Ｄ38は4d以上、Ｄ41およびＳＤ390は5d以上。
スラブ筋、壁筋には丸鋼は使用しない。

（2）鉄筋中間部の折曲げ形状　鉄筋の折曲げ角度90°以下

図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内のりの寸法（R）
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	ＳＲ235、ＳＲ295 ＳＤ295Ａ・Ｂ ＳＤ345	16φ以下 Ｄ16以下	3d以上
			19φ	4d以上
			Ｄ19 以上	
	上記以外の鉄筋	ＳＤ295Ａ・Ｂ ＳＤ345 ＳＤ390	Ｄ16 以下	4d以上
			Ｄ19～Ｄ25	6d以上
			Ｄ29～Ｄ41	8d以上

（3）鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

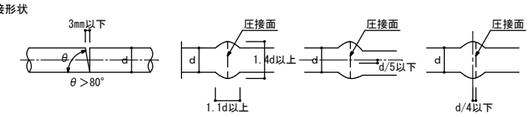
鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲（N/mm²）	定着の長さ 一般（L_2）	定着の長さ 下端筋（L_3） 小梁	定着の長さ 下端筋（L_3） スラブ	特別の定着及び重ね継手の長さ（L_1）
SD295A SD295B	24～30	30dまたは20dフック付き	20d または 10d フック付き	10d かつ 150mm以上	35dまたは25dフック付き
	21	35dまたは25dフック付き			40dまたは30dフック付き
	18以下	40dまたは30dフック付き			45dまたは35dフック付き
SD345	30～36	30dまたは20dフック付き			35dまたは25dフック付き
	24～27	35dまたは25dフック付き			40dまたは30dフック付き
	21	35dまたは25dフック付き			45dまたは30dフック付き
	18以下	40dまたは30dフック付き			50dまたは35dフック付き
SD390	30～36	35dまたは25dフック付き			40dまたは30dフック付き
	21～27	40dまたは30dフック付き			50dまたは35dフック付き

［注］許容応力度計算、許容応力度等計算、その他構造計算を要さない小規模建築物の場合は、梁主筋の柱への定着は 40d とする ⟶ ※本建物は採用

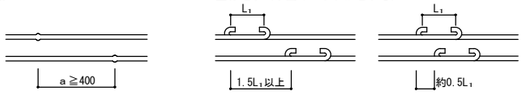
継　手

1．末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
2．継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。
3．直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
4．D 29 以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない
5．鉄筋径の差が 7 mmを超える場合は、圧接としてはならない

ガス圧接形状

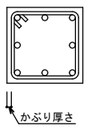


圧接溶接　　重ね継手（下図のいずれかとする）



（4）かぶり厚さ　（単位：mm）

ひびわれ誘発目地部など鉄筋のかぶり、厚さが部分的に減少する箇所についても最小かぶり厚さを確保する。



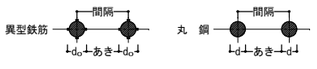
部位			設計かぶり厚さ（mm）	最小かぶり厚さ（mm）
土に接しない部分	屋根スラブ 床スラブ 非耐力壁	屋内	30	20
		屋外	40	30
	柱 はり 耐力壁	屋内	40	30
		屋外	50	40(30)
	擁壁		50	40
土に接する部分	柱・はり・床スラブ・耐力壁		50	40(1)
	基礎・擁壁		70	60(1)

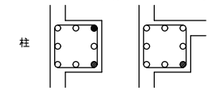
［注］(1)軽量コンクリートの場合は、10mm 増しの値とする。
(2)（ ）内は仕上げがある場合。
(3)土に接する部分のかぶりは増加する厚さを打ち増しとする。

（5）鉄筋のあき

丸鋼では径、異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上
粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25以上

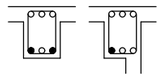
図の ● 印の鉄筋の重ね継手の末端にはフックが必要





（6）鉄筋のフック（a～fに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。）

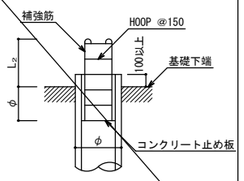
a. 丸鋼　b. あばら筋、帯筋　c. 煙突の鉄筋
d. 柱、梁（基礎梁は除く）の出すみ部分の鉄筋（右図参照）
e. 単純梁の下端筋
f. その他、本配筋標準に記載する箇所



3．杭　（地震力等の水平力を考慮して、別途検討すること。）

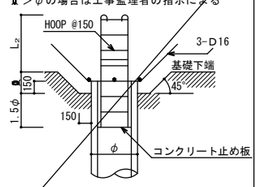
（1）ＰＲＣ杭、又はＰＨＣ杭の全てに補強を行う

所定の位置に止まった場合



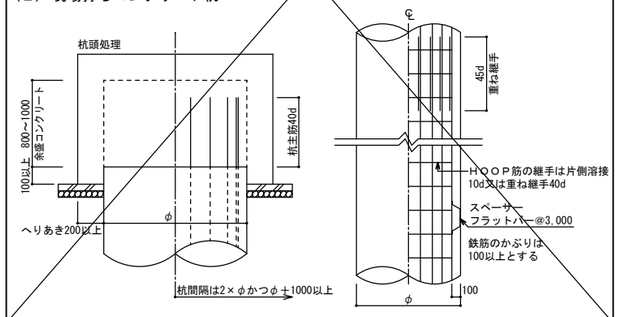
所定より低く止まった場合

但し $\ell_o \leq \phi$ の場合（下げ止まりの影響をあらかじめ設計上考慮されている場合に限る）
$\ell_o > \phi$ の場合は工事監理者の指示による



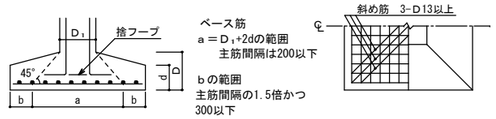
杭　径	300φ、350φ	400φ	450φ	500φ	600φ
補強筋	6-D13	8-D13	10-D13	8-D16	10-D16
HOOP	D10-@150				

（2）現場打ちコンクリート杭

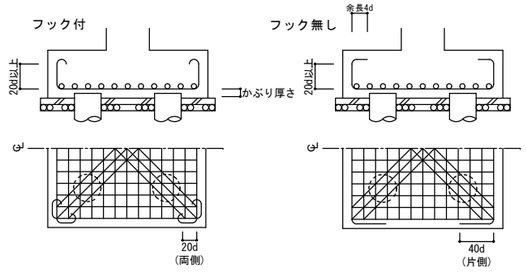


4．基　礎

（1）直接基礎

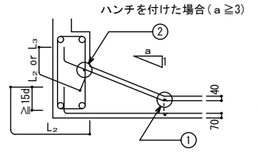


（2）杭基礎



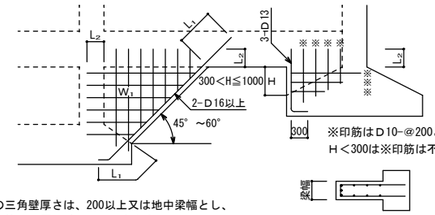
（3）べた基礎

ハンチを付けた場合（a≧3）



1. 耐圧版鉄筋の継手位置は床スラブにならう
但し上端と下筋を読みかえる
2. ①の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする
3. ②の鉄筋はD13以上
4. 埋戻し土のある場合は40を70とする

（4）基礎接合部の補強



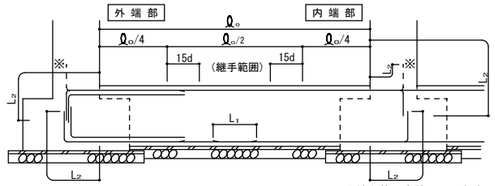
※印筋はＤ10-@200とする
Ｈ＜300は※印筋は不要とする

W_1の三角壁厚さは、200以上又は地中梁幅とし、配筋は同厚の壁リストにならう

5．地中梁

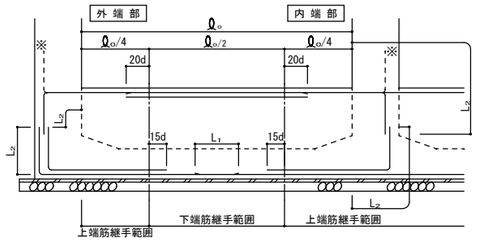
（1）独立基礎、杭基礎の場合（定着、継手）

（長期荷重が支配的な場合の継手は7.（2）大梁継手位置とする）



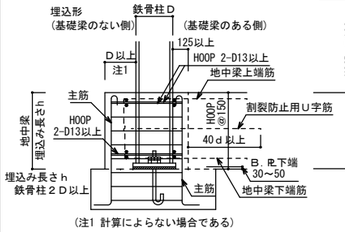
※上端主筋の定着は、やむをえない場合、上向きとすることができる

（2）布基礎、べた基礎の場合（定着、継手）

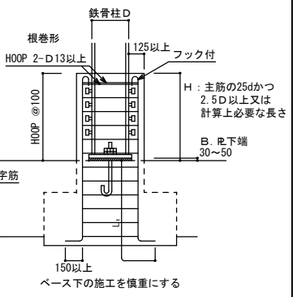


（3）小規模鉄骨造柱脚固定の配筋

地中梁の主筋と頭付スタッドによる、おさまりに注意する

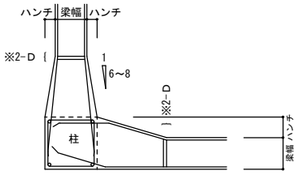


(注1 計算によらない場合である)

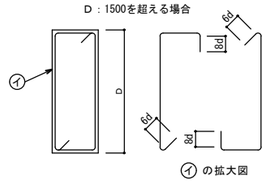


ベース下の施工を慎重にする

（4）水平ハンチの場合のあばら筋加工要領

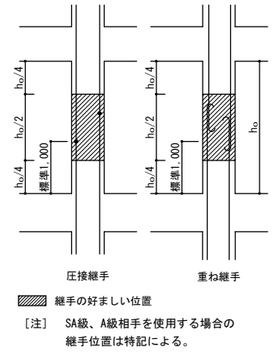


（5）せいの高い梁のあばら筋加工要領図



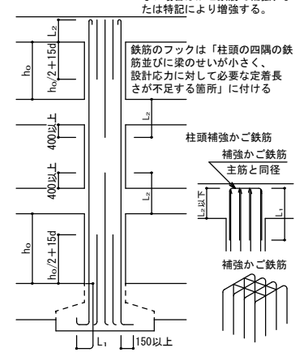
6．柱

（1）柱主筋の継手

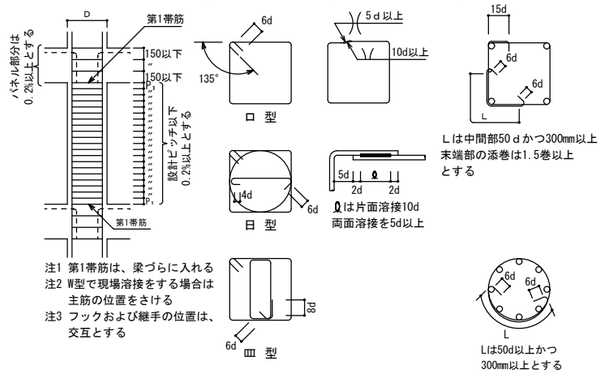


［注］　SA級、A級相手を使用する場合の継手位置は特記による。

（2）柱主筋の定着　柱、梁の定着L2以上が確保されない場合はかご鉄筋で補強、または特記により増強する。



（3）帯　筋

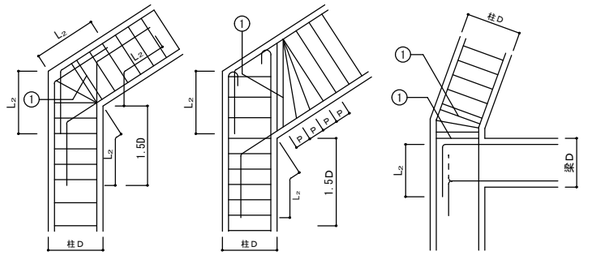


注1 第1帯筋は、梁づらに入れる
注2 W型で現場溶接をする場合は主筋の位置をさける
注3 フックおよび継手の位置は、交互とする

Lは中間部50ｄかつ300mm以上
末端部の添巻は1.5巻以上とする

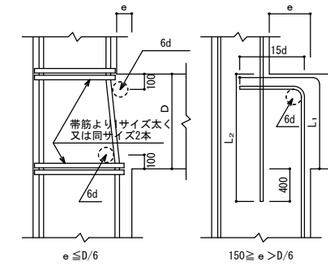
（4）斜め柱・斜め梁

○柱幅と斜材（柱又は梁）幅が同一　　○柱幅と斜材幅が異る　　○柱脚で斜材となる

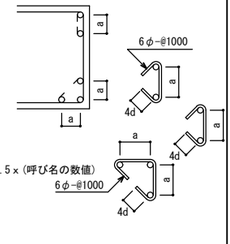


注 1. 1.5Ｄの範囲の柱の帯筋は一段太いものか、又はダブル巻きとし@100以下とする
注 2. ①の鉄筋は2-D13かつ、2本の一段太い鉄筋とする

（5）絞り



（6）二段筋の保持



摘要	月日		

ESSE INC.
甲府市飯田4丁目7-14
株式会社　イズ
ＴＥＬ　055（226）8888(代)
ＦＡＸ　055（226）5727
一級建築士　長田 孝三　第123273号
一級建築士事務所　第1- 031039号
E-mail ： esse@coral.plala.or.jp

管理建築士	検図者	設計者	担当者	工事名称	千塚分団本部拠点施設建設（建築主体）工事	図面番号
作製　令和 6 年 12 月 20 日				図面名称	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（1）	S － 02

縮尺　A-2 S=1:N　A-3(35.35%に縮小)

一級建築士 第130479号/構造一級建築士 第1971号　渡辺吉彦

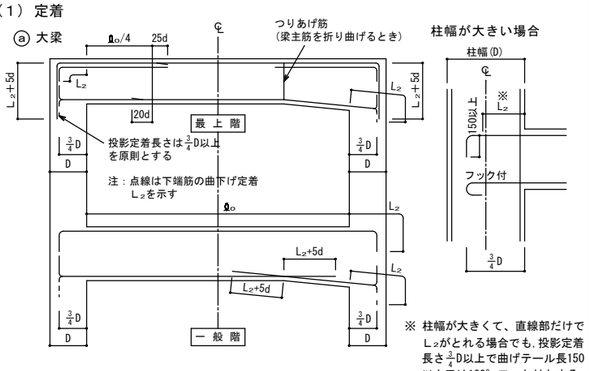
鉄筋コンクリート構造配筋標準図（2）

※修正箇所は下線を引くこと
L＝本構造配筋標準図(1)の2-(3)による。

7．大梁、小梁、片持梁

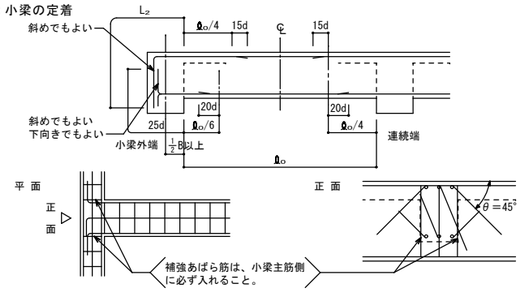
（1）定着

ⓐ 大梁

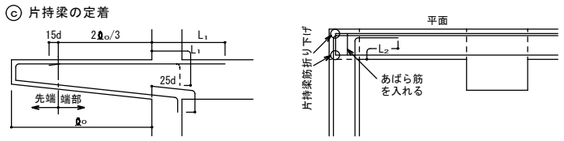


※ 柱幅が大きくて、直線部だけでL₂がとれる場合でも，投影定着長さ3/4D以上で曲げテール長150以上又は180°フック付とする

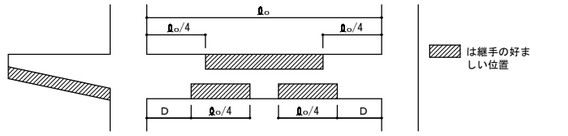
ⓑ 小梁の定着



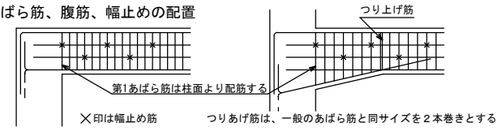
ⓒ 片持梁の定着



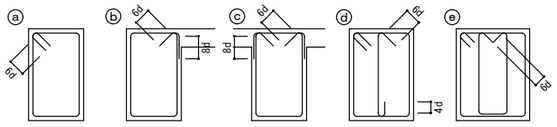
（2）大梁主筋の継手　（SA級、A級継手を使用する場合の継手位置は特記による）



（3）あばら筋、腹筋、幅止めの配置



（4）あばら筋の型　（注、床版がない場合は135°以上のフックとする）

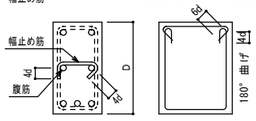


（イ）原則として ⓐ のフック先曲げとする。片側床版付(L型)梁で ⓑ、両側床版付(T型)梁で ⓒ 又は ⓑ とすることができる
（ロ）フックの位置は ⓐ にあっては交互、ⓑ にあってはスラブ側とする。

ⓕ 梁成の大きい場合やSRC造のあばら筋の納まりに使用することができる。

（5）幅止め筋の本数、加工

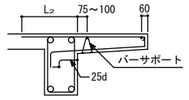
腹筋	D＜600 不要	
	600≦D＜ 900	2-D10(9φ) 1段
	900≦D＜1200	4-D10(9φ) 2段
	1200≦D	D10(9φ)@300以内
幅止め筋	D10(9φ)@1000以内で割り付ける	



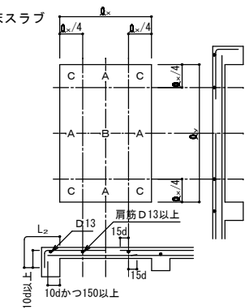
8．床　板

（1）定着および継手

ⓐ 片持床スラブ



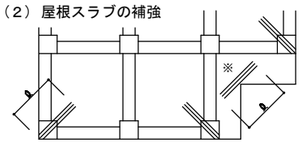
ⓑ 一般床スラブ



継手位置は原則として下表による。

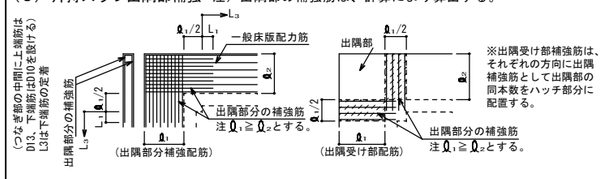
		標準継手位置
上端筋	短辺方向	B
	長辺方向	B
下端筋	短辺・長辺方向	A・C

（2）屋根スラブの補強



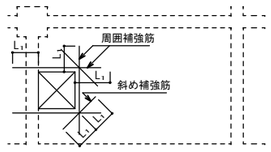
ⓐ 補強筋は各3－D13又はスラブ主筋の同一径で ℓ₀＝1,500とし、上端筋の下に配筋する
ⓑ ※の箇所(入隅)は各階補強する

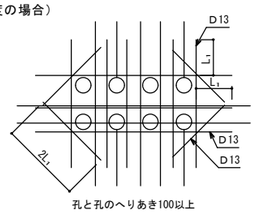
（3）片持スラブ出隅部補強　注）出隅部の補強筋は、計算により算出する。



※出隅受け部補強筋は、それぞれの方向に出隅補強筋として出隅部の同本数をハッチ部分に配置する。

（4）床板開口部の補強　（開口の径５００程度の場合）

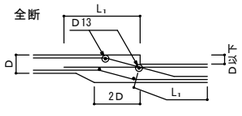


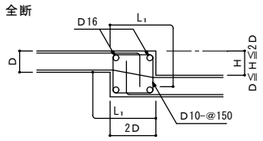


床板厚さD	周囲	斜め
D≦150	各2－D13	各1－D13
150＜D≦200	各2－D13	各2－D13
200＜D≦300	各2－D19	各2－D16

注）設備の小開口が連続してあく場合は縦、横、斜補強筋とは別に開口によって切断される鉄筋と同じ鉄筋を開口をさけて補強する。

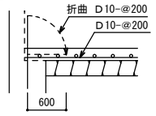
（5）床板段差



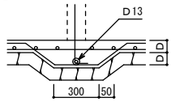


（6）土間コンクリート

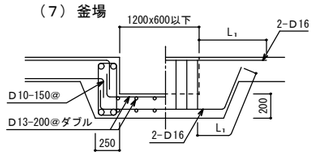
ⓐ 軽作業の土間



ⓑ 間仕切壁との交差部



（7）釜場



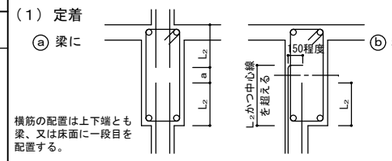
（8）打継ぎ補強　（ダメ穴打継面について）

- 設計配筋間隔の1/2ピッチ　長さ2×L₁以上
- 無筋部分D10-@200　長さ800以上

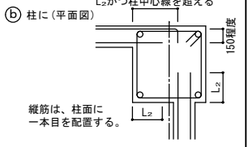
9．壁

（1）定着

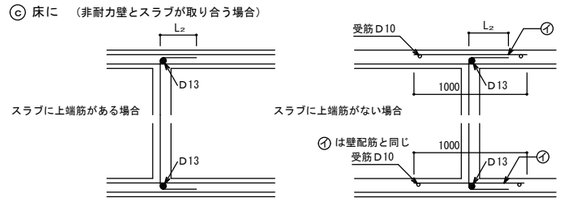
ⓐ 梁に



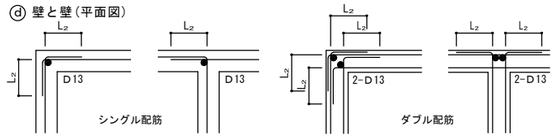
ⓑ 柱に（平面図）



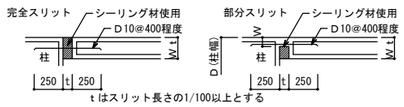
ⓒ 床に　（非耐力壁とスラブが取り合う場合）



ⓓ 壁と壁（平面図）



（2）スリット部　（設計図に記入のあるとき）

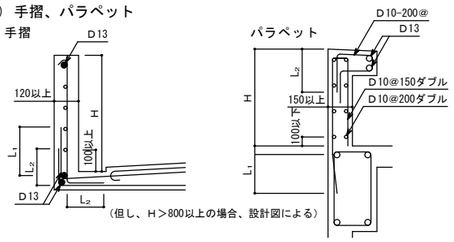


t はスリット長さの1/100以上とする

W≦D/6、Wt/2かつ7cm

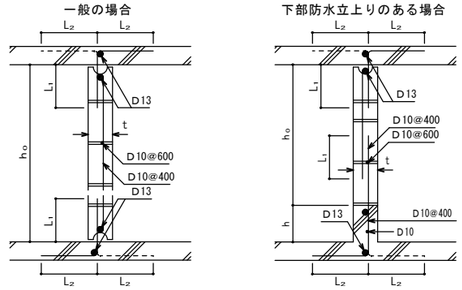
スリット部分の鉄筋のかぶり厚さは、2-(4)かぶり厚さの表、最小かぶり厚さ以上とする。

（3）手摺、パラペット



（但し、H＞800以上の場合、設計図による）

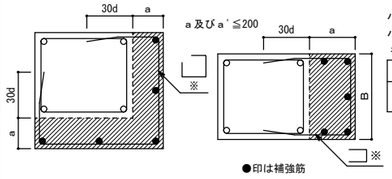
（4）コンクリートブロック帳壁



注）h_o≦25ｔかつ3500以下とする。但し直交方向25t以内に壁、又は柱がある場合は除く
注）hはコンクリートブロック段数調節寸法とする。但し、200≦h≦400
注）継手部は必ずモルタルを充填すること

10．柱、梁増打コンクリート補強　（増打するときは事前に設計者、及び工事監理者と打合せのこと）

（1）柱

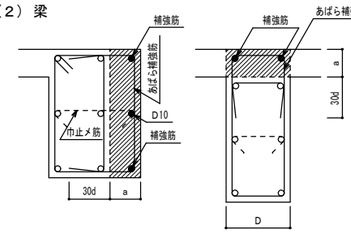


※ 柱と同径、同ピッチとする。

ハッチ部分は増打コンクリートを示す。
ハッチ部の面積Acm²
補強タテ筋

A＜500	500≦A＜1000	1000≦A＜1500
3-D16	4-D16	6-D16

（2）梁

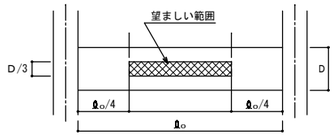


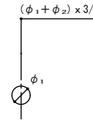
- 補強筋は、梁主筋の1段落し径（D16以上）とする。
- あばら補強筋は、梁と同径、同ピッチとする。
- 腹筋D10ピッチは、梁の腹筋と合わせる。
- D≧400の場合は補強筋を3本とする。
- aは100～200程度。
- 梁下端増打コンクリートの場合も上端増打コンクリート補強と同様とする。
- ハッチ部分は増打コンクリートを示す。

11．梁貫通孔補強　（開口補強筋については計算により確認すること）

（1）設置可能範囲

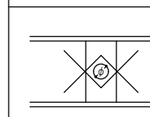
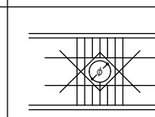
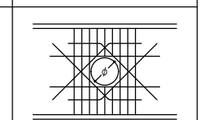
梁端部(スパンℓ₀/10以内かつ2D以内）は原則として避ける



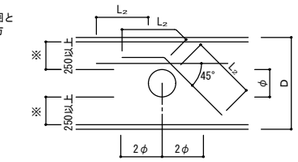


貫通孔が連続して間隔等が取れない場合は設計者又は工事監理者と打合せのこと。

（2）鉄筋標準配筋　　但し φ≦D/3とする

80≦φ≦100 折筋 2-(2-D13) 縦筋 ST 2-D13	100＜φ≦150 折筋 2-(2-D13) 縦筋 ST 2-D13 @50 横筋 2-(2-D13) 上下縦筋 ST 2-D13 @50	150＜φ≦250 斜筋 4-(2-D13) 縦筋 ST 2-D13 @50 横筋 2-(2-D13) 上下縦筋 ST 2-D13 @50
		

孔補強の有効範囲と定着長さのとり方



2φ：スターラップ補強範囲

※部分について計算で確認された場合は左記の位置、法によらなくていい

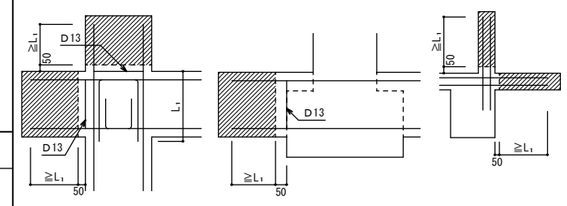
（3）既製品　（使用する際には、設計者又は工事監理者と打合せのこと）

ウェブレン、ダイヤレン　等　日本建築センター評価取得品とする。
施工前に計算書を提出し、承認を得ること。
設計時に使用する評価取得品については計算書を提出する事。

□ リング型　□ パイプ型　□ 金網型　□ プレート型

12．増築予定　（将来増築予定のコンクリート増打ち部分は、増築時の鉄筋継手工法を考慮して措置する）

（1）柱、梁　（2）地中梁　（3）床版、壁



摘要	月日			

ESSE INC.
甲府市飯田4丁目7-14
株式会社　イズ
TEL 055 (226) 8888(代)
FAX 055 (226) 5727
一級建築士 長田 孝三 第123273号
一級建築士事務所 第1- 031039号
E-mail : esse@coral.plala.or.jp

管理建築士 | 検図者 | 設計者 | 担当者
作製　令和 6 年 12 月 20 日

工事名称　千塚分団本部拠点施設建設（建築主体）工事
図面名称　鉄筋コンクリート構造配筋標準図（2）
縮尺　A-2 S=1:N　A-3(35.35%に縮小)
図面番号　S － 03

一級建築士 第130479号/構造一級建築士 第1971号　渡辺吉彦

鉄 骨 構 造 標 準 図 （1）

※修正箇所は下線を引くこと

1．一般事項

（1）材料及び検査

(a) 構造設計特記仕様による

(b) 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが40mm以下のものとする
但し、ベースプレートの厚さは除く

(c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法・精度及びその他の結果を添付する

（2）工作一般

(a) 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る

(b) 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による

(c) 高張力鋼の歪み矯正は、冷間矯正とする

（3）高力ボルト接合

(a) 本締めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない

(b) 高力ボルトの摩擦面の処理は黒皮などを座金外径２倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した赤さび状態であること。但し、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面荒さが、50μmRz以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。

(c) 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分に密着するよう注意して行う。

（4）溶接接合

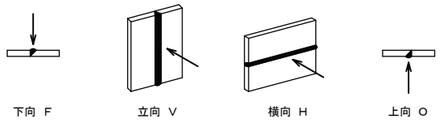
(a) 平成12年建設省告示第1464号第二号イ、ロによる、溶接部の性能、溶着金属の性能を満足すること。

(b) 溶接技能者
溶接技能者は施工する溶接に適応するJISZ3801(手溶接)又はJISZ3841(半自動溶接)
の溶接術検定試験に合格し引続き、半年以上溶接に従事している者とする

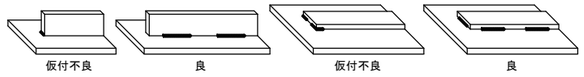
(c) 溶接機器
（イ）交流アーク溶接機 300A～500A
（ロ）アークエアーガウジング機(直流)
（ハ）サブマージアーク溶接機一式
（ニ）炭酸ガスアーク半自動溶接機
（ホ）溶接電流を測定する電流計
（ヘ）溶接棒乾燥器

(d) 溶接方法
アーク手溶接(ＭＣ)
セルフ(ノンガス)シールドアーク半自動溶接(ＮＧＣ)
ガスシールドアーク半自動溶接(ＧＣ)
アークエアーガウジング(ＡＡＧ)

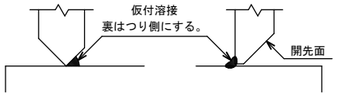
(e) 溶接姿勢



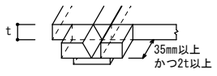
(f) 組立溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う
（イ）仮付位置
組立溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける



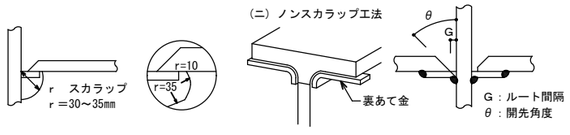
（ロ）完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する



(g) 溶接施工
（イ）エンドタブ
Ⅰ）完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける
Ⅱ）エンドタブの材質は、母材と同質とする
Ⅲ）エンドタブの長さは、ＭＣ：35mm以上
ＮＧＣ、ＧＣ:40mm以上とし特記のない場合は、
溶接終了後、母材より10mm程度残し切断して、
グラインダー仕上げとする



Ⅳ）プレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出し設計者、又は工事監理者の承認を得る
（ロ）裏当て金
材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上、巾は25mm以上を原則とする
但し、溶接性能が確認できれば監理者の承認を得て変更することができる
（ハ）スカラップ半径は30～35mmと10mmのダブルアールとする
但し梁成が D=150mm未満の場合のスカラップはr=20mmとする



（ホ）裏はつり
規準図の溶接においてＡＡＧと記載のある部分は全て、溶接監理者の確認を励行し、部材に
確認マークを付ける
（ヘ）現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部を傷めない様に、養生を行う

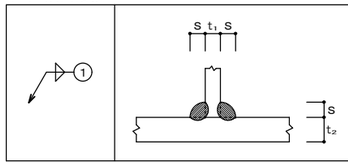
（5）塗装

コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない

2．溶接規準図

（注）f:余盛 G:ルート間隔 R:フェース S:脚長 （単位mm）

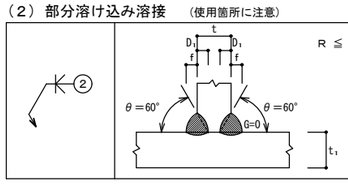
（1）隅肉溶接



t≦16mm				
t	7以下	8～10	11～13	14～16
S	6	7	10	12

・但し片面溶接の場合はS=tとする
・tはt_1、t_2の小なる方とする
余盛は(1+0.1S)mm以下とする
・軸力が加わる場合のSは母材と同厚とすることが望ましい

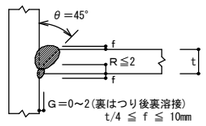
（2）部分溶け込み溶接 （使用箇所に注意）



R ≦ 2
t/4 ≦ f ≦ 10mm
t ≦ t_1

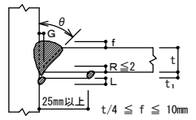
t	t>16mm
溶接姿勢	F．V

（3）完全溶込み溶接 （平継手、Ｔ継手）



t/4 ≦ f ≦ 10mm

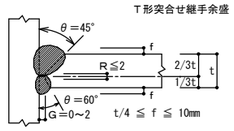
t	6<t<19mm
溶接姿勢	F．V



t/4 ≦ f ≦ 10mm

	MC NGC				GC			
t mm	θ	G	t_1	L	θ	G	t_1	L
6≦t<12	45°	6	6	5	45°	6	6	5
12≦t<16	35°	9	9	8	45°	6	9	8
16≦t	35°	9	9	8	35°	9	9	8
溶接姿勢	F．V							

T形突合せ継手余盛

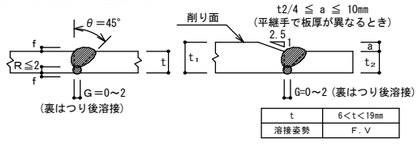


t/4 ≦ f ≦ 10mm

のど厚 t mm	余盛の高さ mm
t≦4	1
4<t≦12	2
12<t≦19	3
19<t	4

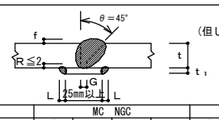
t	t≧19mm
溶接姿勢	F．V

0< f ≦3.0mm
(但し、t≧15mmの時4.0mmとする)



t2/4 ≦ a ≦ 10mm
(平継手で板厚が異なるとき)

t	6<t<19mm
溶接姿勢	F．V

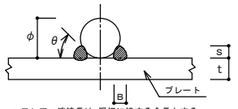


0< f ≦3.0mm
(但し、t≧15mmの時4.0mmとする)

	MC NGC				GC			
t mm	θ	G	t_1	L	θ	G	t_1	L
6<t<12	45°	6	6	5	45°	6	6	5
12≦t≦19	35°	9	9	5	45°	6	9	5
19> t	35°	9	9	8	35°	9	9	8
溶接姿勢	F．V							

（4）フレアー溶接

K形の場合

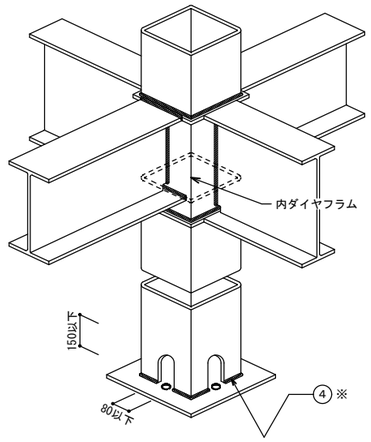


寸法 (mm)		
φ	B	S
9	7	4
13	8	4.5
16	9	5
19	10	6
22	11	7
25	12	8

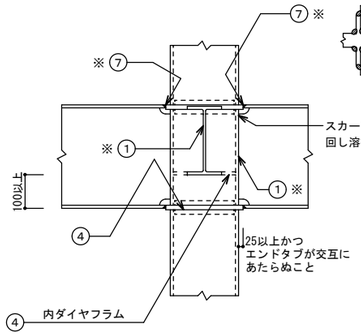
・フレアー溶接長は、鋼板に接する全長とする
・9mm～16mmは1パス以上、19mm以上は2パス以上とする
溶接稀角度θは30°～40°とする

※溶接記号番号を○中に記入のこと

●ＢＯＸ型 （通しダイヤフラムの場合）

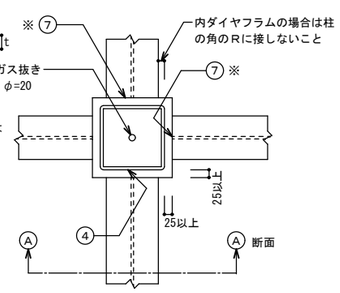


Ⓐ-Ⓐ 断面図



⑦※ はりフランジは、通しダイアフラムの厚み(t)の内部で溶接する事。

平面詳細図



①※ t>16mmの溶接は、②･又は③～⑤とする。

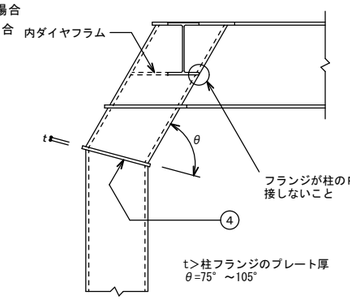
ダイヤフラム厚は、接合する梁の最大厚の２サイズアップ以上とする。
< 柱材料：BCR295、BCP325を使用する場合 >
ダイヤフラムは、柱フランジ厚 16 mm未満の場合 SN490C SN490B
柱フランジ厚 16 mm以上の場合 SN490C を使用する。

●鋼材種別による溶接条件

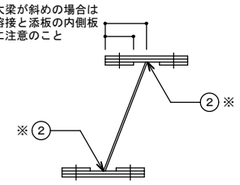
鋼材の種類	溶接材料		入熱(KJ/cm)	パス温度差(℃)
400Ｎ級鋼	JIS Z 3211、3212、3214		40以下	350以下
	JIS Z 3312	YGW-11、15		
		YGW-18、19		
	JIS Z 3315	YGA-50W、50P		
490Ｎ級鋼	JIS Z 3212、3214		40以下	350以下
	JIS Z 3312	YGW-11、15	30以下	250以下
		YGW-18、19	40以下	350以下
	JIS Z 3315	YGA-50W、50P		

注）STKR、BCR、BCP材はJIS Z 3312、のみ使用可
「構造設計特記仕様 6. 鉄骨工事(2)ロ認定または登録工場」のグレード別に
定められた適用範囲と溶接条件制限事項による

●柱が途中で折れる場合
及 梁成が異なる場合

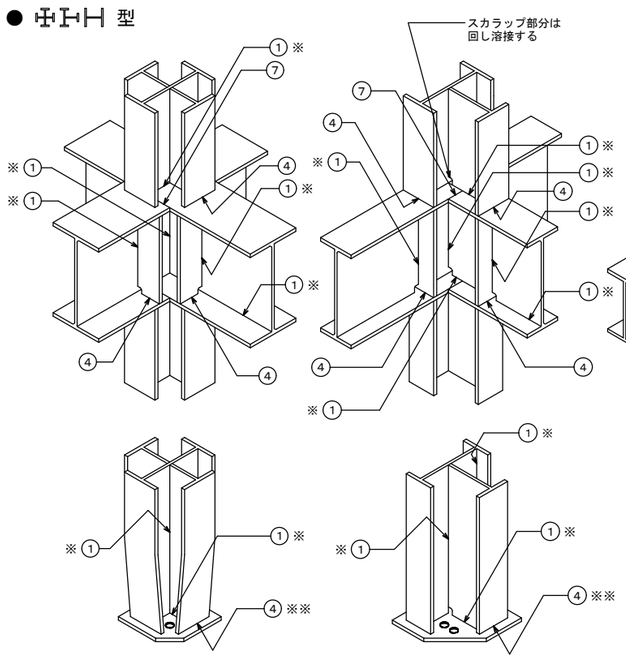


大梁が斜めの場合は
溶接と添板の内側板
に注意のこと



②※ t>16mmの場合は、③～⑤とする。

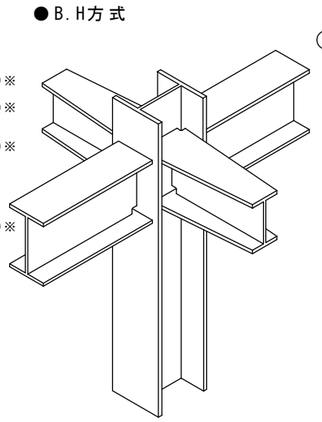
● ⌶ 型



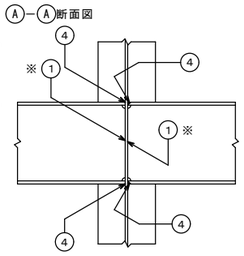
①※ t>16mmの場合の溶接は、③～⑤とする。

◯※※ 印は設計者が記入すること。

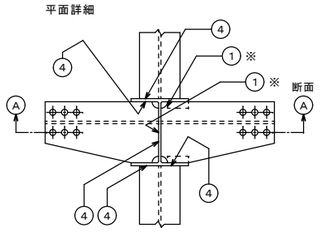
●B.H方式



Ⓐ-Ⓐ断面図



平面詳細



①※ t>16mmの場合の溶接は、③～⑤とする。

摘 要	月 日			

ESSE INC.
甲府市飯田4丁目7-14
株式会社 イ ズ
ＴＥＬ 055 (226) 8888(代)
ＦＡＸ 055 (226) 5727
一級建築士 長田 孝三 第123273号
一級建築士事務所 第1- 031039号
E-mail : esse@coral.plala.or.jp

管理建築士	検図者	設計者	担当者	工事名称	千塚分団本部拠点施設建設（建築主体）工事	図面番号
作 製	令和 6 年 12 月 20 日			図面名称	鉄 骨 構 造 標 準 図（1）	S － 04
				縮 尺	A-2 S=1:N A-3(35.35%に縮小)	

一級建築士 第130479号/構造一級建築士 第1971号 渡辺吉彦

鉄 骨 構 造 標 準 図 （2）

※修正箇所は下線を引くこと

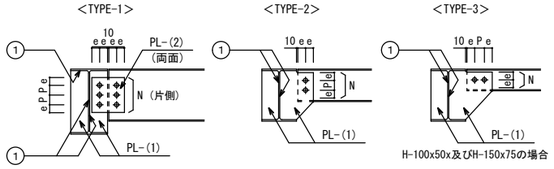
3．継手規準図、その他

（1）高力ボルト、ボルト、アンカーボルトのピッチ（P） ボルト穴径・最小縁端距離 (mm)

呼び径 d		ボルト	最小縁端距離 (e) (1)	(2)	(3)	(2)(3)の標準	ピッチ (P) 最小	標準
	M16	18	40	28	22	40	40	60
	M20	22	50	34	26	40	50	60
	M22	24	50	38	28	40	55	60
	M24	26	60	44	32	45	60	70
アンカーボルト・ボルト（）内はボルトを示す	M16	21 (16.5)		28	22	(40)	(40)	(60)
	M20	25 (20.5)		34	26	(40)	(50)	(60)
	M22	27 (22.5)		38	28	(40)	(55)	(60)
	M24	29 (24.5)		44	32	(45)	(60)	(70)
	M27	32		49	36			
	M30	35		54	40			
	M34 以上	呼び径＋5		9d/5	4d/3			

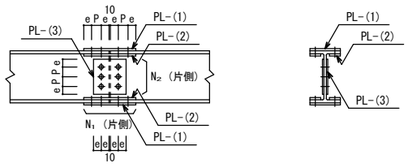
［注］(1) 引張材の接合部で応力方向にボルトが3本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離
(2) せん断縁・手動ガス切断縁の場合の縁端距離
(3) 圧延縁・自動ガス切断縁・のこ引き縁・機械仕上縁の場合の縁端距離

（2）ピン接合梁継手リスト



符号	タイプ	部　材	PL-(1)	PL-(2)	N－径
		設計図による。			

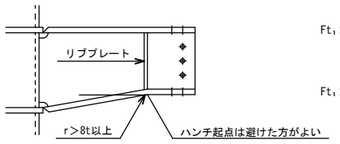
（3）剛接合梁継手リスト (SCSS-H97による)



〔注〕 端部をＢＨとする場合の部材は設計図による

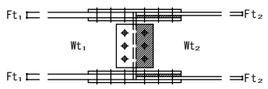
符　号	部　材	フランジ PL-(1)	PL-(2)	N₁－径	ウェブ PL-(3)	N₂－径
	設計図による。					

（4）ハンチ部の継手



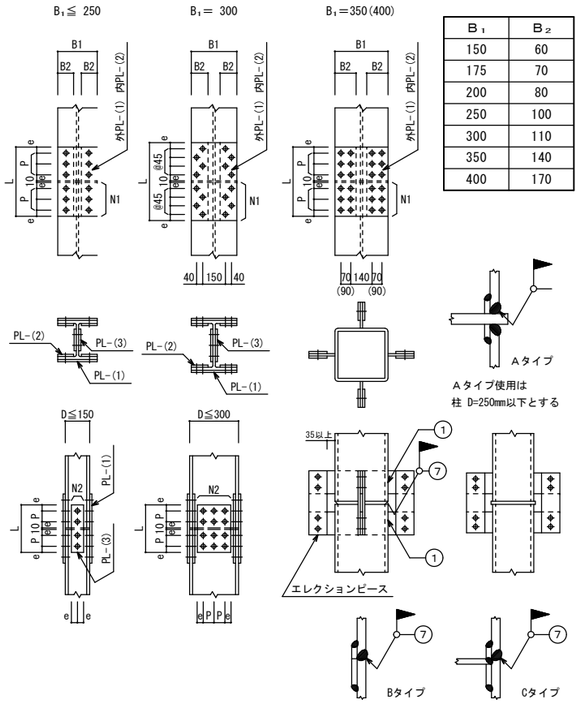
ハンチ勾配は普通1：4程度であるが構造図による
ｒ：半径　ｔ：板厚

フランジ及ウエブ厚の差のある場合



$Ft_1 - Ft_2$, $Wt_1 - Wt_2$ ≧ 1mm フィラプレート併用の事

（5）柱継手リスト



B₁	B₂
150	60
175	70
200	80
250	100
300	110
350	140
400	170

注）現場溶接は原則として超音波深傷試験を100%行う

符　号	部　材	フランジ PL-(1)	PL-(2)	N1－径	ウェブ PL-(3)	N2－径

（6）鉄筋ブレース （JIS規格品とする・・・JIS A 5540･･･1982/5541・5542･･･2003）

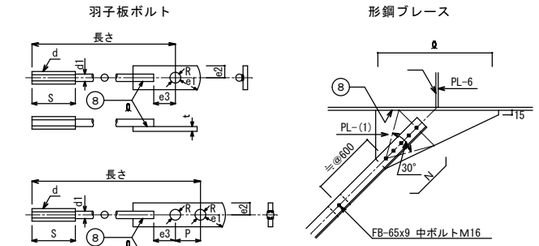
（a）羽子板ボルト

ねじの呼び(d)			M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
軸径 d_1	最大		10.81	12.65	14.65	16.33	18.33	20.33	21.99
	最小		10.64	12.46	14.46	16.11	18.11	20.11	21.77
調整ねじ長さ		S	100	115	125	140	150	165	175
取付ボルト穴径 許容差＋0. -0.5mm		R	13.0	17.0	17.0	21.5	21.5	23.5	21.5
はしあき(最小)	(2)	e1	35	40	45	50	50	55	50
切板製	へりあき(最小) (1)	e2	22	28	28	34	34	38	38
	板　厚	t	4.5	6	6	9	9	9	9
平鋼製	へりあき(最小) (1)	e2	19.0	25.0	25.0	32.5	32.5	37.5	37.5
	板　厚	t	4.5	6	6	9	9	9	9
ボルト端から取付ボルト穴心のあき(最小)		e3	47	52	59	66	66	73	70
溶接長さ(最小)		ℓ	40	50	55	60	75	85	85
取付ボルト (2)	種　類		JIS B 1186 2種高力ボルト(F10T)						
	ねじの呼び		M12	M16	M16	M20	M20	M22	M24
	本　数		1	1	1	1	1	1	2

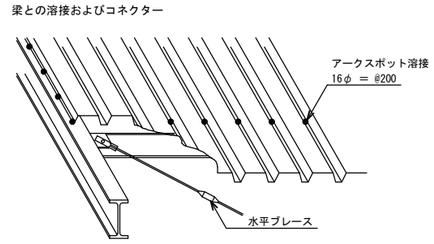
〔注〕 (1) e1,e2が確保されてれば形状は自由でよい
(2) 羽子板とガセットプレートの場合は表に示す取り付けボルトを使用し、一面せん断(支圧)接合とする

（b）形鋼ブレース

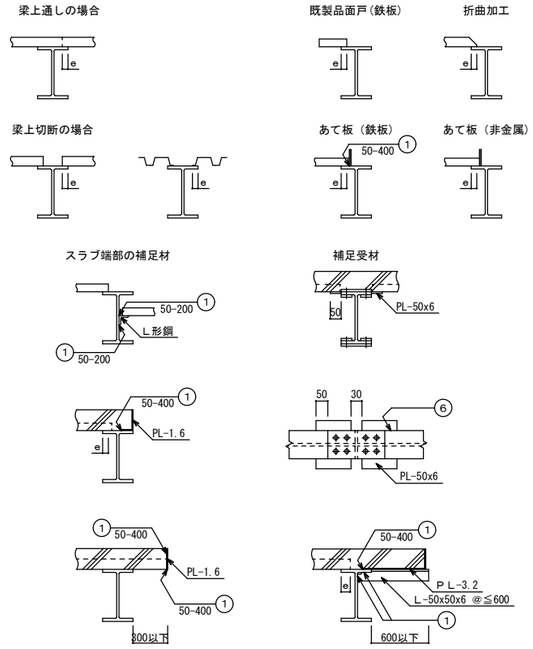
符　号	部　材	PL-(1)	N－径	ℓ
	設計図による。			



（6）デッキプレート （床剛性を考慮する合成床,合成梁のときは構造図参照）

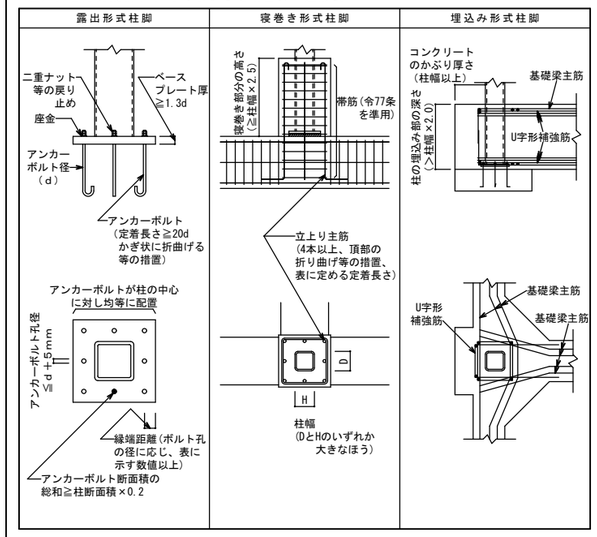


受梁へのかかり寸法及端部処理　e≧35mm



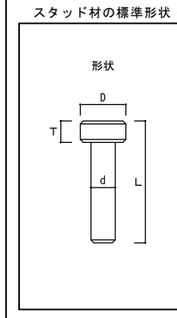
（8）柱脚

注）許容応力度計算を行わなかった場合の構造形式



（9）頭付きスタッド(JIS B 1198)

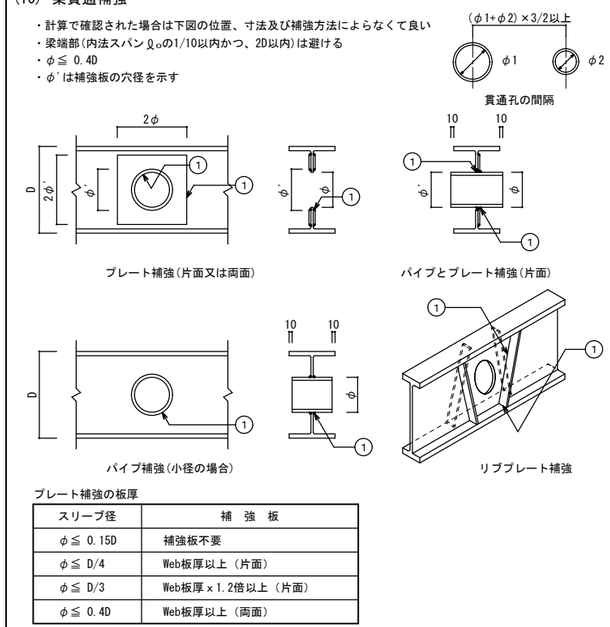
スタッド材の標準形状・寸法



スタッド材 呼び名	軸径 d mm	頭径 D mm	頭高さ T mm	溶接後の長さ L mm
φ13mm	13.0 12.7	22.0 25.4	10.0 7.9	50 , 80, 100, 130
φ16mm	16.0 15.8	29.0 31.7	10.0 7.9	80 , 100, 130
φ19mm	19.0 19.0	32.0 31.7	10.0 9.5	80 , 100, 130, 150
φ22mm	22.0 22.2	35.0 34.9	10.0 9.5	100, 130, 150

（10）梁貫通補強

・計算で確認された場合は下図の位置、寸法及び補強方法によらなくて良い
・梁端部(内法スパン ℓ_oの1/10以内かつ、2D以内)は避ける
・φ≦ 0.4D
・φ'は補強板の穴径を示す



プレート補強の板厚

スリーブ径	補　強　板
φ≦ 0.15D	補強板不要
φ≦ D/4	Web板厚以上（片面）
φ≦ D/3	Web板厚×1.2倍以上（片面）
φ≦ 0.4D	Web板厚以上（両面）

摘　要	月　日			

ESSE INC.
甲府市飯田4丁目7-14
株式会社　イ　ズ
ＴＥＬ　055（226）8888(代)
ＦＡＸ　055（226）5727
一級建築士　長田 孝三　第123273号
一級建築士事務所　第1- 031039号
E-mail ： esse@coral.plala.or.jp

管理建築士	検図者	設計者	担当者	工事名称	千塚分団本部拠点施設建設（建築主体）工事	図面番号
作製 令和 6 年 12 月 20 日				図面名称	鉄 骨 構 造 標 準 図（2） 縮尺 A-2 S=1:N A-3(35.35%に縮小)	S － 05

ベースパック Ⅰ 型

角形鋼管

F値 295 N/mm²以下

□－150×150 ～ □－300×300 用

（財）日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0093-17」（平成30年9月21日付）

ベースパック柱脚工法 設計 施工 標準図

●ベースパック柱脚工法の設計は「ベースパック柱脚工法設計ハンドブック」による。

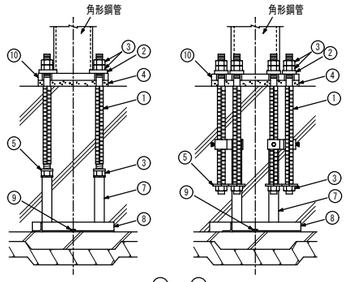
岡部株式会社 TEL.03(3624)5336

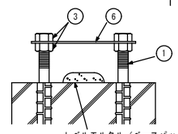
旭化成建材株式会社 TEL.03(3296)3515

2019年1月作成

1．工法概要

1.1 構成部材



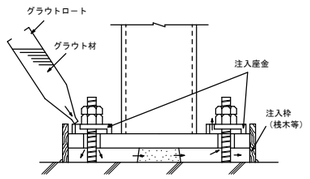


① アンカーボルト
② 注入座金
③ Mナット
④ ベースパックグラウト（グラウト材）
⑤ 定着座金
⑥ テンプレート
⑦ フレームポスト
⑧ フレームベース
⑨ ステコンアンカー（コンクリートアンカー）
⑩ ベースプレート

(注)上記①～⑩の構成部材はベースパック構成部品として供給される。

(注)上記⑥～⑨は現場状況により仕様が異なる場合がある。

1.2 柱脚の定着方法概要



2．柱

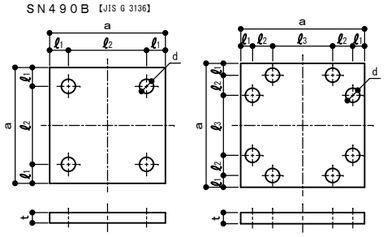
F値(N/mm²)	鋼 種	採 用
235	BCP235	
	STKR400	
295	BCR295	●
	TSC295	

3．構成部材・寸法

3.1 ベースプレート

● 材質

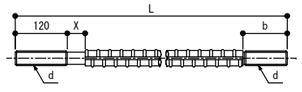
SN490B【JIS G 3136】



形状（イ） 形状（ハ）

3.2 アンカーボルト（Mアンカーボルト）【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

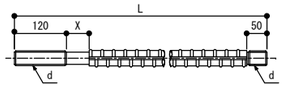
i）アンカーフレーム Aタイプの場合



単位 mm

呼び d	異形部呼び名	L 注1)	X	b 注1)	基準強度 (N/mm²)
M27	D29	650	45	128	490
M30	D32	695	45	133	490
M33	D35	690,735	45	95,140	490
M36	D38	770	60	130	490
M39	D41	770,810	60	98,135	490

ii）アンカーフレーム Cタイプの場合

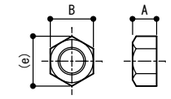


単位 mm

呼び d	異形部呼び名	L 注1)	X	基準強度 (N/mm²)
M30	D32	695	45	490
M33	D35	720	45	490
M36	D38	770	60	490

注1）据付け高さが低い場合に短いアンカーボルトを使用する。

3.3 Mナット【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

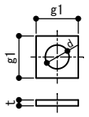


単位 mm

呼び	A	B	(e)
M27	22	41	47
M30	24	46	53
D33	26	50	58
M36	29	55	64
M39	31	60	69

3.4 定着座金

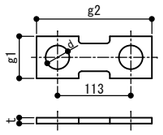
i）アンカーフレーム Aタイプの場合



単位 mm

適用アンカーボルト	g1	t	d	材質
M27	55	9	28	SS400
M30	55	9	31	
M33	60	9	34	
M36	65	12	37	
M39	80	12	40	

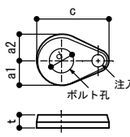
ii）アンカーフレーム Cタイプの場合



単位 mm

適用アンカーボルト	g1	g2	t	d	材質
M30	55	168	9	32	SS400
M33	60	173	9	35	
M36	65	178	9	38	

3.5 注入座金【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

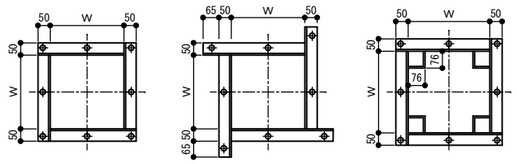


単位 mm

記号	適用アンカーボルト	a1	a2	c	t	d
PM27	M27	32	42	101	18	28
PM30	M30	32	42	101	18	31
PM33	M33	35	45	110	18	34
PM36	M36	35	45	110	18	37
PM39	M39	38	48	118	18	40

3.6 フレームベース

i）Aタイプ ii）Cタイプ iii）特Cタイプ

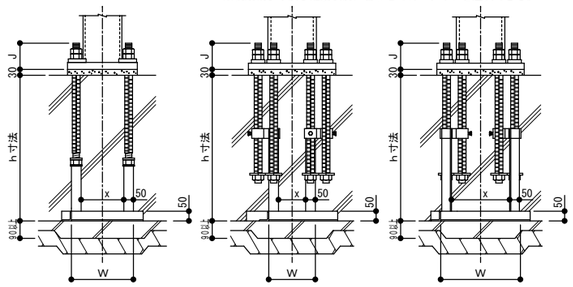


3.7 アンカーフレーム形状および据付け時諸寸法

● ベースパックの据付け高さ（h寸法）はフレームベース下端からコンクリート柱型天端までを示す。据付けに最低限必要な高さ（最低h寸法）は下表に記載の値とする。

〈Aタイプ〉 〈Cタイプ※〉 〈特Cタイプ〉

※杭頭納まり及び配筋状況に合わせて特Cタイプを選択できる。



単位 mm

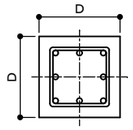
採用	ベースパック記号	柱 外径(mm)	柱 板厚(mm)	ベースプレート 材質	形状	寸法(mm) a	t	ℓ1	ℓ2	ℓ3	d	アンカーボルト 本数-呼び	基準強度(N/mm²)	アンカーフレームタイプ	コンクリート柱型 寸法D(mm) 標準フレーム	特C	配筋 立上り筋	フープ筋	設計基準強度(N/mm²)	フレームベース 寸法W(mm) 標準フレーム	特C	フレームポスト間 寸法X(mm) 標準フレーム	特C	最低h寸法(mm)	J寸法(mm)
	15-12V	□－150×150	t≦12	SN490B	(イ)	300	28	50	200	—	φ45	4－M27	490	A	500	－	12－D16	D13@100	21以上	250	－	150	－	550	135
	17-12V	□－175×175	t≦12	SN490B	(イ)	320	32	45	230	—	φ45	4－M30	490	A	530	－	12－D19	D13@100	21以上	280	－	180	－	600	135
	20-09V	□－200×200	t≦9	SN490B	(イ)	360	28	50	260	—	φ45	4－M30	490	A	600	－	12－D16	D13@100	21以上	310	－	210	－	600	135
	20-12V	□－200×200	t≦12	SN490B	(イ)	360	32	50	260	—	φ50	4－M33	490	A	560	－	12－D19	D13@100	21以上	310	－	210	－	600	135
	25-09V	□－250×250	t≦9	SN490B	(イ)	420	32	55	310	—	φ55	4－M36	490	A	610	－	12－D19	D13@100	21以上	360	－	260	－	650	150
	25-12V	□－250×250	t≦12	SN490B	(イ)	420	36	55	310	—	φ55	4－M39	490	A	630	－	12－D19	D13@100	21以上	370	－	270	－	650	150
●	25-16V	□－250×250	t≦16	SN490B	(ハ)	450	32	50	80	190	φ50	8－M33	490	C	700	－	12－D19	D13@100	21以上	240	440	140	300	650	135
	30-09V	□－300×300	t≦9	SN490B	(イ)	480	36	60	360	—	φ55	4－M39	490	A	680	－	12－D22	D13@100	21以上	420	－	320	－	650	150
	30-12V	□－300×300	t≦12	SN490B	(ハ)	520	32	50	80	260	φ50	8－M30	490	C	700	710	12－D22	D13@100	21以上	310	510	210	370	650	135
●	30-16V	□－300×300	t≦16	SN490B	(ハ)	520	40	50	80	260	φ55	8－M36	490	C	800	－	12－D22	D13@100	21以上	310	510	210	370	700	150
	30-19V	□－300×300	t≦19	SN490B	(ハ)	550	50	50	80	290	φ55	8－M36	490	C	740	740	12－D22	D13@100	21以上	340	540	240	400	700	150

4．コンクリート柱型

4.1 形状・材質

● 形状

柱型寸法を標準から変更する場合は、別紙「ベースパック柱脚工法における柱型寸法最大・最小値一覧」による。



● コンクリート

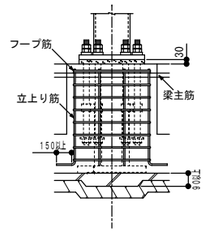
普通コンクリートとし、設計基準強度は 21N/mm² 以上とする。

● 鉄 筋

SD295(D13,D16)

SD345(D19,D22)

4.2 配 筋



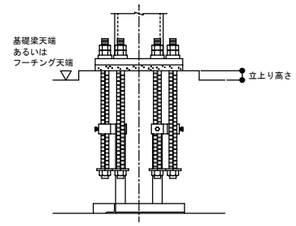
※立上り筋の頂部にはフックを設けなくてよい。

※トップフープはダブルとし、柱型上端近くに配置する。

4.3 基礎立上がり

● 基礎立上がり高さは50mm以下とする。

※ただし基礎立上がり高さが50mmを超え300mm以下の場合、Lシリーズを使用することができる。



5．工場製作（溶接）

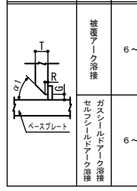
■ 組立

● ベースプレートの中心線（ケガキ線）に柱材軸芯を合わせる。

■ 溶接方法（完全溶込み溶接）

● 完全溶込み溶接とする。（JASS6鉄骨工事による）

完全溶込み溶接の開先標準（JASS 6 鉄骨工事 2007年版より）

図	溶接方法	適用板厚 T(mm)	ルート間隔G(mm) 標準値	許容差	ルート面G(mm) 標準値	許容差	開先角度α1(°) 標準値	許容差	溶接姿勢
	被覆アーク溶接	6～	7	−2,+∞ (−3,+∞)	2	−2,+1 (−2,+2)	α1:45	−2.5,+∞ (−5.0,+∞)	下向き
			9	−2,+∞ (−3,+∞)	2	−2,+1 (−2,+2)	α1:35		
	ガスシールドアーク溶接 セルフシールドアーク溶接	6～	6	−2,+∞ (−3,+∞)	2	−2,+1 (−2,+2)	α1:45	−2.5,+∞ (−5.0,+∞)	下向き
			7	−2,+∞ (−3,+∞)	2	−2,+1 (−2,+2)	α1:35		

許容差 ・記号 ＋∞ は制限無しを示す。

・2段書きは「鉄骨精度検査基準」に規定する許容差（上段：管理許容差、下段括弧内：限界許容差）を示す。

■ ベースプレートの予熱

● 気温(鋼材表面温度)が5°C以上でのベースプレートの予熱は次に示す予熱温度標準により行う。その他必要に応じて適切な予熱をする。

溶接方法	鋼 種	板厚(mm) t<32	32≦t<40	40≦t≦50
低水素系被覆アーク溶接	SN490B	予熱なし	50℃	50℃
CO_2ガスシールドアーク溶接	SN490B	予熱なし	予熱なし	予熱なし

■ 検査方法：溶接部の検査は超音波探傷検査により行う。

■ 施工管理：7．本工法の施工及び施工管理参照。

6．工事場施工

6.1 基礎工事

● 柱脚部の捨コンの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

6.2 アンカーボルト据付け

● アンカーボルト（フレーム）の組立ては、4隅のアンカーボルト4本で組立てを行う。

● フレームベースはステコンアンカーにより水平に固定する。

● 位置決めは、テンプレートの中心線と地墨等の柱芯を合致させることにより行い、標準許容差は下図による。

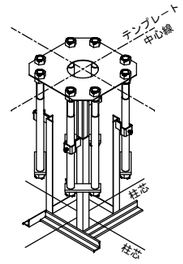
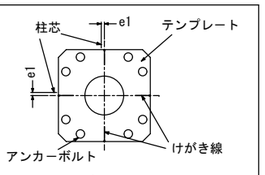


図	 e1：柱芯とテンプレートのけがき線との許容差
標準許容差	−2≦e1≦2 基準高さより誤差は −3≦e≦10

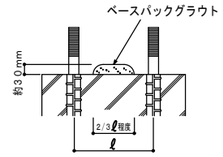
6.3 配筋およびコンクリート打設

● 配筋はアンカーボルト（フレーム）との取り合いを考慮する。

● コンクリート打設前にテンプレート位置精度を確認する。

6.4 建 方

● レベルモルタルはベースパックグラウト（グラウト材）を使用し大きさは右図による。



6.5 アンカーボルトの本締め（弛み止め）

● 本締めはグラウト材の充填前に行い、ダブルナットを標準とする。

6.6 ベースパックグラウト（グラウト材）の注入

● グラウト材のカクハンは、グラウト材1袋(6kg)に対して、計量カップで1.0～1.1ℓの水を加え、電動カクハン機で混練することにより行う。

● グラウト材の注入は、グラウトロートを注入座金にセットし、グラウト材の自重圧により他の注入座金からグラウト材がふき出るまで行う。

7．本工法の施工及び施工管理

● 本工法は、管理者又は施工者（元請）の管理のもとで実施するものとする。

● 本工法のうち6.2アンカーボルト据付け及び6.6ベースパックグラウトの注入は、ベースパック施工技術委員会によって認定された有資格者（ベースパック施工管理技術者・施工技能者）が施工を実施し、チェックシート等により施工管理を行うものとする。

● ベースプレート溶接部の施工管理は、鉄骨製作業者に属する鉄骨製作管理技術者等による。

摘 要	月 日			

ESSE INC. 甲府市飯田4丁目7-14

株式会社 イズ
TEL 055(226)8888(代)
FAX 055(226)5727

一級建築士 長田 孝三 第123273号
一級建築士事務所 第1-031039号
E-mail : esse@coral.plala.or.jp

管理建築士	検図者	設計者	担当者	工事名称	千塚分団本部拠点施設建設（建築主体）工事	図面番号
作 製	令和 6 年 12 月 20 日			図面名称	ベースパック柱脚工法 標準図	縮尺 A-2 S=1:N A-3(35,35%に縮小)

S － 06

一級建築士 第130479号/構造一級建築士 第1971号 渡辺吉彦

ＱＬデッキ合成スラブ設計・施工標準 耐火仕様②
耐火補強筋不要仕様 ［耐火認定FP060FL-0099,0100,0101,0102,0126,FP120FL-0127用］

ＱＬデッキ合成スラブの設計・施工は、(社)日本建築学会「各種合成構造設計指針・同解説」「鉄骨工事技術指針」「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5鉄筋コンクリート工事及びJASS6鉄骨工事」、(社)日本鉄鋼連盟「デッキプレート床構造設計・施工規準-2004」、ＱＬデッキ設計マニュアル・同施工マニュアルによる。

設　　計

材料／デッキプレート　［ISO 9001認証取得］

デッキプレート種類		板厚(mm)	表　面　処　理
■ＱＬ９９－５０ □ＱＬ９９－７５	端部加工 ■ｴﾝﾏ有り □無し	□1.0 ■1.2 □1.6	□裏面防錆処理(一次塗装)*1　ＱＬプライマー(P)*2 ■亜鉛めっき　［■Z12 □Z27］ □JFEｴｺｶﾞﾙ(高耐食溶融めっき鋼板)［□Y18 □Y27］ □その他(　　)　□無し*2

*1 現場搬入までの一次防錆（ＪＩＳ Ｋ ５６２１ ２種または３種相当）
*2 板厚１.２mm，１.６mmに限る

材　質	ＪＩＳ Ｇ ３３５２に定めるＳＤＰ１Ｔ、ＳＤＰ２、ＳＤＰ２Ｇ

材料／コンクリート

種　　類	■普通コンクリート
設計基準強度	□１８　■２１　□（　）Ｎ／mm²
厚さ(ＱＬデッキ山上)	□６０ □７０ ■８０ □８５ □９０ □９５ □１００ □（　）mm

材料／溶接金網・異形鉄筋

■ 溶接金網	ＪＩＳ Ｇ ３５５１	□φ6-150×150 ■φ6-100×100 □（　）
□ 異形鉄筋	ＪＩＳ Ｇ３１１２、３１１７	□Ｄ10-@２００　□（　）

接　　合

■焼抜き栓溶接	下記焼抜き栓溶接の項による
□打込み鋲	接合箇所は特記による
□頭付きスタッド	JIS B 1198 □φ１３ □φ１６ □φ１９ □φ２２ 各長さ・ピッチは特記による ※鋲小長さはデッキ高さ＋３０mm以上とする。
□その他	

耐　　火

	ＱＬ９９－５０	ＱＬ９９－７５
床１時間	□ＦＰ０６０ＦＬ－０１００ □ＦＰ０６０ＦＬ－０１０１ □ＦＰ０６０ＦＬ－０１２６	□ＦＰ０６０ＦＬ－０１０２ □ＦＰ０６０ＦＬ－００９９
床２時間		□ＦＰ１２０ＦＬ－０１２７
その他	□（　）	□（　）
■指定なし	□（　）	□（　）

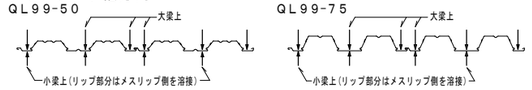
特　　記

支保工有無	その他：
■ 無　□ 有	

上欄内の採用項目に ■ を記して下さい。

焼抜き栓溶接

デッキプレート幅方向



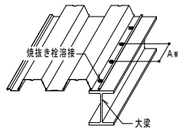
デッキプレートスパン方向

「ＱＬデッキ設計マニュアル」に基づいて決定する。

$$Aw = \frac{1.5Qa}{Qb} \times 1000mm$$ かつ６００mm 以下

Aw：焼抜き栓溶接ピッチ
Qb：設計最大せん断力(N/m)
Qa：焼抜き栓溶接１個当たりの長期許容せん断力（N）

板厚	1.0	1.2	1.6
Qa (N)	4,000	4,900	7,350(SPW) 6,860(APW)



Ａｗ ＝（ ６００ ）mm　（注）接合に頭付きスタッドを用いる場合、焼抜き栓溶接は不要です。

耐　火　仕　様

○共通事項　支持梁：鉄骨梁、コンクリート：設計基準強度18～36 N/mm²の普通コンクリート
溶接金網[JIS G 3551]又は異形鉄筋[JIS G 3112, G 3117]　寸法は下表参照
耐火補強筋：不要

【ＱＬ９９－５０】

□認定番号［ＦＰ０６０ＦＬ－０１００（床１時間耐火）］

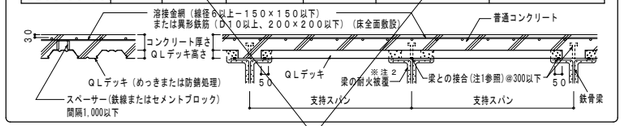
デッキプレート品名	支持形式	支持スパン	コンクリート厚さ	許容積載荷重	溶接金網または異形鉄筋	梁との接合(径)
ＱＬ９９-５０-１０ ＱＬ９９-５０-１２ ＱＬ９９-５０-１６	単純支持 連続支持	2,700mm 以下	80mm 以上	5,400N/m²以下	線径6mm以上-150×150mm以下 D10以上-200×200mm以下	焼抜き栓溶接(φ18以上) 打込み鋲(φ4.5) 頭付きスタッド(φ13以上)

□認定番号［ＦＰ０６０ＦＬ－０１０１（床１時間耐火）］

デッキプレート品名	支持形式	支持スパン	コンクリート厚さ	許容積載荷重	溶接金網または異形鉄筋	梁との接合(径)
ＱＬ９９-５０-１０ ＱＬ９９-５０-１２ ＱＬ９９-５０-１６	単純支持 連続支持	3,000mm 以下	80mm 以上	3,500N/m²以下	線径6mm以上-150×150mm以下 D10以上-200×200mm以下	焼抜き栓溶接(φ18以上) 打込み鋲(φ4.5) 頭付きスタッド(φ13以上)

□認定番号［ＦＰ０６０ＦＬ－０１２６（床１時間耐火）］

デッキプレート品名	支持形式	支持スパン	コンクリート厚さ	許容積載荷重	溶接金網または異形鉄筋	梁との接合(径)
ＱＬ９９-５０-１０ ＱＬ９９-５０-１２ ＱＬ９９-５０-１６	単純支持 連続支持	2,700mm 以下	80mm 以上	7,000N/m²以下	線径6mm以上-150×150mm以下 D10以上-200×200mm以下	頭付きスタッド(φ16以上)



【ＱＬ９９－７５】

□認定番号［ＦＰ０６０ＦＬ－０１０２（床１時間耐火）］

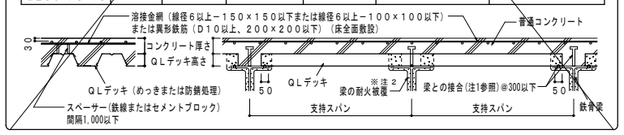
デッキプレート品名	支持形式	支持スパン	コンクリート厚さ	許容積載荷重	溶接金網または異形鉄筋	梁との接合(径)
ＱＬ９９-７５-１０ ＱＬ９９-７５-１２ ＱＬ９９-７５-１６	単純支持 連続支持	3,000mm 以下	80mm 以上	5,400N/m²以下	線径6mm以上-150×150mm以下 D10以上-200×200mm以下	焼抜き栓溶接(φ18以上) 頭付きスタッド(φ13以上)

□認定番号［ＦＰ０６０ＦＬ－００９９（床１時間耐火）］

デッキプレート品名	支持形式	支持スパン	コンクリート厚さ	許容積載荷重	溶接金網または異形鉄筋	梁との接合(径)
ＱＬ９９-７５-１０ ＱＬ９９-７５-１２ ＱＬ９９-７５-１６	単純支持 連続支持	3,400mm 以下	80～100mm	3,500N/m²以下	線径6mm以上-150×150mm以下 D10以上-200×200mm以下	頭付きスタッド (φ16以上)

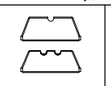
□認定番号［ＦＰ１２０ＦＬ－０１２７（床２時間耐火）］

デッキプレート品名	支持形式	支持スパン	コンクリート厚さ	許容積載荷重	溶接金網または異形鉄筋	梁との接合(径)
ＱＬ９９-７５-１０ ＱＬ９９-７５-１２ ＱＬ９９-７５-１６	単純支持 連続支持	2,500mm 以下	90mm 以上	6,000N/m²以下	線径6mm以上-100×100mm以下 D10以上-200×200mm以下	焼抜き栓溶接(φ18以上) 頭付きスタッド(φ13以上)



注1）梁との接合間隔は、焼抜き栓溶接・打込み鋲・頭付きスタッド共に、デッキ溝と直交する場合300mm以下、平行方向は600mm以下とする。
注2）梁の耐火被覆　梁に所定の耐火性能を要求される場合は、それらに応じて適切な耐火被覆を施す。（本認定仕様外）
注3）許容積載荷重は、床にかかる全荷重(仕上げ荷重も含む)から床荷重(デッキプレート+コンクリート+鉄筋)を差し引いた値を示す。

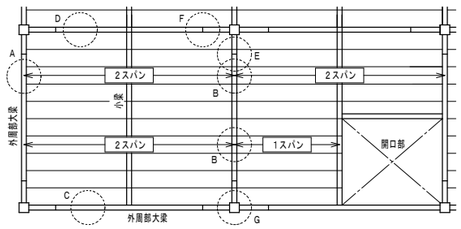
アクセサリー

フラッシング	クローサー		ハンガー金具
			
ＱＬデッキ割付の幅調整に用いる。 定尺2.4m、ｔ＝1.2mmまたは1.6mm	ＱＬデッキの小口ふさぎ用	梁の耐火被覆用面戸	天井インサート用金具 （ＱＬデッキ下溝を利用して取付）

標　　準　　納　　ま　　り

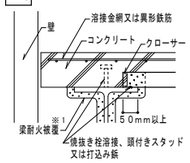
支持梁：鉄骨梁

図中※1は、梁に１、２または３時間の耐火性能が要求される場合のみ適用。
※2 溶接方法等は別途検討が必要。（合成スラブ工業会Ｑ＆Ａ参照）

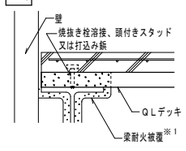


A：外周梁（デッキスパン方向）
B：内部梁（　〃　）
C：外周梁（デッキ幅方向）
D：内部梁（　〃　）
E：梁継手（デッキスパン方向）
F：　〃　（デッキ幅方向）
G：柱廻り

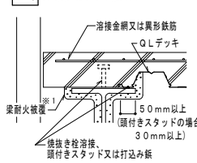
A部 外周梁 ＱＬデッキスパン方向１



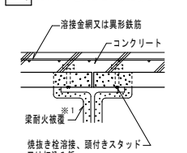
A部 外周梁 ＱＬデッキスパン方向２



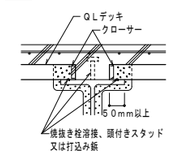
C部 外周梁 ＱＬデッキ幅方向



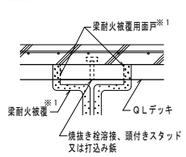
B部 ＱＬデッキを突き合わせた場合



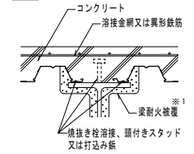
B部 ＱＬデッキを離した場合



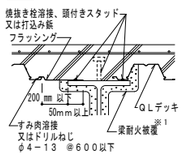
B部 ＱＬデッキを連続にした場合



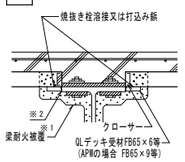
D部 ＱＬデッキを離した場合



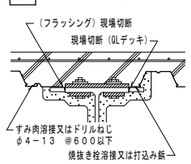
D部 梁との間に隙間がある場合



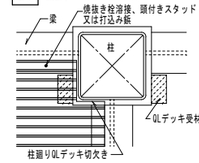
E部 梁継手部 ＱＬデッキスパン方向



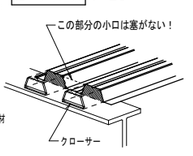
F部 梁継手部 ＱＬデッキ幅方向



G部 柱廻り



ＱＬデッキ端部 小口塞ぎ

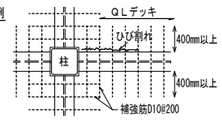


ひび割れ拡大防止のための留意事項

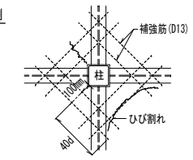
[1]設計上の留意点
1)小梁の剛性を大きくする。
2)ひび割れ拡大防止のため補強筋を設ける。(右図補強例参照)
3)スパンとスラブ厚さの比を小さくし、配筋量を大きくする。
（コンクリート厚さをＱＬデッキ山上から 80～90mmと厚くする。）
4)デッキプレートは各溝で梁に接合すること。
頭付きスタッド使用の場合にも、デッキプレート各溝全てをアークスポット溶接するのが望ましい。

[2]施工上の留意点
1)水セメント比を小さくする。
［例］単位水量　175リットル/m³以下
ベースコンクリートスランプ　10cm　スランプ 15cm
高性能ＡＥ減水剤
2)溶接金網の位置ーかぶり厚さ30mmーを確保する。(補強筋は溶接金網より下に配筋する)
3)コンクリート打込み後１週間は載荷作業を行わない。歩行程度は可。
4)打込み後初期には散水や養生シート等で湿潤養生を行う。
直射日光が当たる屋上は、散水養生は必須。
5)打込み後４～７日間はスラブに振動や荷重を加えないようにし、充分な養生期間を設ける。

大梁上の補強例



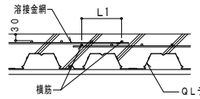
柱廻りの補強例



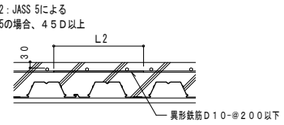
スラブの配筋

コンクリート表面よりのかぶり厚さが３０mmになるようレベル保持し、全面に配筋する。

溶接金網の重ね代Ｌ1：１メッシュと５０mm以上、且つ１５０mm以上
（線径6-１５０×１５０の場合２００mm以上、線径6-１００×１００の場合１５０mm以上）



異形鉄筋の重ね代Ｌ2：JASS 5による
例）Fc18 SD295の場合、４５Ｄ以上

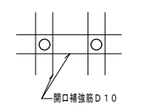


※配筋のスペーサーは鉄線またはセメントブロックとし、間隔は１．０m以下とする。

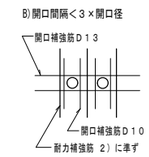
開口部補強案

１）開口がφ150mm程度の場合

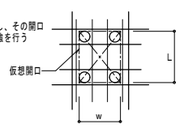
A)開口間隔≧３×開口径



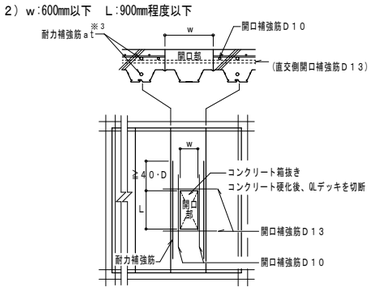
B)開口間隔＜３×開口径



C)開口が連続している場合
連続する開口の開口群(仮想開口)とみなし、その開口部の大きさにより、2)又は3)に準じて補強を行う

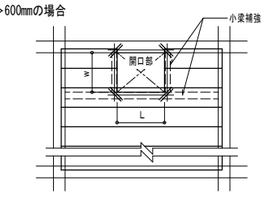


２）ｗ:600mm以下　Ｌ:900mm程度以下



※3 耐力補強筋 所要断面積 $at = \frac{M}{ftxj}$
Ｍ：開口によって生じる隣接スラブの増加曲げモーメント

３）ｗ＞600mmの場合



小梁で補強し、開口部周辺に開口補強筋を配筋（Ｄ10以上）

※開口補強の詳細は、合成スラブ工業会発行「合成スラブの設計・施工マニュアル」（1）合成スラブの設計　4．合成スラブの開口補強方法　を参照する。

施工

施工順序

墨出し
↓
敷込み仮止め溶接
↓
ＱＬデッキと梁との接合
1）頭付きスタッド
2）打込み鋲
3）焼抜き栓溶接
↓
ひび割れ防止筋敷込み
↓
検　査
↓
コンクリート打設

敷　込　み

鉄骨梁の場合
1)墨出し線に合わせて１枚目のデッキプレートを仮止め溶接した後、順次適当な枚数(５～１０枚)ごとに仮止め溶接する。
2)各大梁上にデッキプレートの溝部が乗るように敷込む。

デッキプレート幅方向のかかり代は、５０mm以上あることを確認する。
(頭付きスタッドの場合は３０mm以上)
3)デッキプレート長手方向の大梁のかかり代は、５０mm以上あることを確認する。

デッキプレートと梁との接合

1）頭付きスタッド
施工は、JASS6「鉄骨工事」による。
デッキプレートと梁とはアークスポット溶接等で接合する。

2）打込み鋲
施工は打込み鋲製造業者の施工要領による。
施工の仕様等については別途製造業者へご確認下さい。
日本ヒルティ(株)

3）焼抜き栓溶接
国土交通省告示第３２６号(平成14年4月16日制定)及び国土交通省告示第６０６号(平成19年6月20日改正)の第２項台ハ(4)焼抜き栓溶接に基づく下記仕様による。（梁フランジの表面処理条件：黒皮または一般鋼止め塗装）
合成スラブ工業会主催の「焼抜き栓溶接講習会」の受講が望ましい。

焼抜き栓溶接［ＳＰＷ］―アーク手溶接―

（１）溶接機
交流アーク溶接機　ＡＷ２５０Ａ以上　エンジン溶接機　２３０Ａ以上
（２）溶接棒
JIS Z 3211のE4316、E4916 に定める低水素系被覆アーク溶接棒で棒径４mmφのもの
（３）標準溶接条件
梁フランジ板厚：６mm以上
溶 接 電 流　：１９０～２３０Ａ(標準２１０Ａ)
（４）溶接工の資格
JIS Z 3801、JIS Z 3841 における基本級の有資格者
（５）手順・要領
右の１～４の順に行う。

	工　程	手　順　・　要　領
1	アーク発生	ＱＬデッキを梁になじませ(隙間２mm以下)溶接棒をＱＬデッキに垂直にしてアークを発生させる。
2	ＱＬデッキ焼抜き	溶接棒を若干引き上げてアークを飛ばし、径10mm弱で"の"の字を描いてＱＬデッキを焼抜く。
3	押し込み・溶着	溶接棒を梁上まで押し込み、焼抜きの内側をなぞるように円中央へ２～３回転しながら運棒。
4	整　形	溶着金属を整え、中央部でそっと溶接棒を引き上げる。スラグを除去して仕上がりを確認。

溶接時間の目安：電流値２１０Ａ(標準)の場合８秒程度

自動焼抜き栓溶接［Ａ．Ｐ．Ｗ］―CO_2アークスポット溶接―

（１）一次側電源の必要容量：仮設電力の場合　１８ＫＶＡ以上　３相　２００Ｖ
発電機の場合　３５ＫＶＡ以上　３相　２００Ｖ
（２）ワイヤの種類と直径　：ＹＧＷ　１１、１２　φ１.２mm
（３）標準溶接条件：下表

ＱＬデッキ板厚	梁フランジ板厚	電流（Ａ）	電圧（Ｖ）	アークタイム（秒）
１.２mm	６～９mm未満	３００～３２０	３３～３５	３.０～４.０×１度打ち
	９mm以上	３００～３２０	３３～３５	３.０～４.０×２度打ち
１.６mm	６～９mm未満	３００～３２０	３４～３６	３.５～４.５×１度打ち
	９mm以上	３００～３２０	３４～３６	４.０～４.５×２度打ち

注１.デッキプレート　板厚１.０mm　表面条件：Ｚ１２、Ｚ２７、裏面塗装
２.CO_2ガス流量：２０％／分以上

検　　査

【焼抜き栓溶接（ＳＰＷ）及び自動焼抜き栓溶接（Ａ.Ｐ.Ｗ）】
□事前検査
ＳＰＷ：適正な溶接を行うため下記1)または2)の方法で電流値をチェックする。
1）検流計での計測
2）溶接棒の消費長さによる確認―― 未使用の規定の溶接棒を用いて、アーク長さを約３mmに保持し、１０mm程度の円を描いて１０秒間溶接した時の溶接棒の消費長さが４５～５３mmであること。
Ａ.Ｐ.Ｗ：試し溶接を行って溶接径を確認する。
□溶接後の外観検査
1）溶接箇所の確認　2）焼き切れ、余盛り不足の有無
3）標準余盛り径　ＳＰＷ：18mm以上　Ａ.Ｐ.Ｗ：25mm±3
□不良部の補修
ＳＰＷ　の場合：スラグ除去後、梁にデッキプレートを密着させて再溶接する。
不具合箇所に溶着金属を流し込む要領で補修。
Ａ.Ｐ.Wの場合：重ね溶接して補修する。
【そ　の　他】
(1)ＱＬデッキ相互の嵌合状況　(2)ひび割れ拡大防止筋の敷込み状況　(3)開口部の補強状況

特記事項：

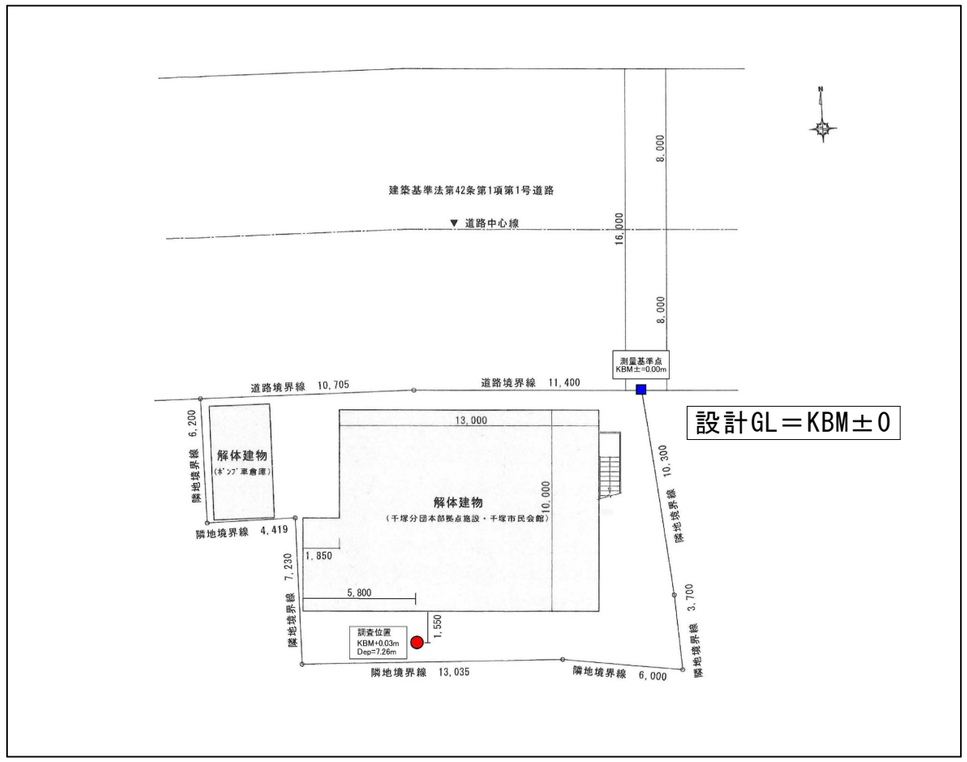
摘　要	月　日			

ESSE INC.
甲府市飯田4丁目7-14
株式会社　イ　ズ
ＴＥＬ　055（226）8888(代)
ＦＡＸ　055（226）5727
一級建築士　長田 孝三　第123273号
一級建築士事務所　第1- 031039号
E-mail ： esse@coral.plala.or.jp

管理建築士	検図者	設計者	担当者	工事名称	千塚分団本部拠点施設建設（建築主体）工事	図面番号
作　製　令和 6 年 12 月 20 日				図面名称	ＱＬデッキ合成スラブ設計・施工標準	S － 07
				縮尺	A-2 S=1:N A-3(35.35%に縮小)	

一級建築士 第130479号/構造一級建築士 第1971号　渡辺吉彦

地盤調査位置図



ボーリング柱状図

調　査　名　千塚分団本部拠点施設建設に伴う地質調査業務委託

ボーリングNo

事業・工事名

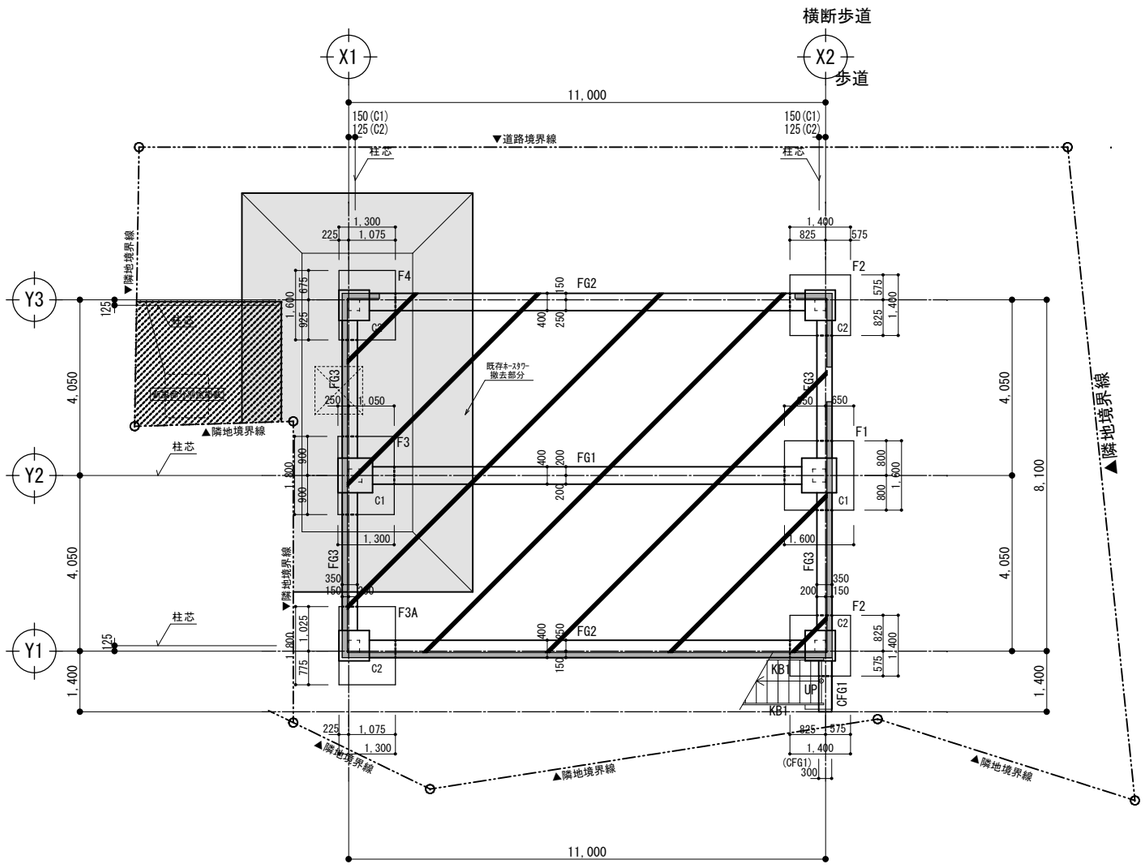
シートNo　24028

ボーリング名		調査位置	山梨県甲府市千塚一丁目2番17号					北緯	35° 40' 52.2"
発注機関	甲府市			調査期間	2024年 8月 1日 ～ 2024年 8月 3日			東経	138° 32' 27.0"
調査業者名	株式会社 ハギ・ボー 電話 (055-243-4777)	主任技師	平川 周司	現場代理人	－	コア鑑定者	平川 周司	ボーリング責任者	清水 孝士
孔口標高	KBM +0.03m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0°	使用機種	試錐機 TOHO-DOD / ハンマー落下用具 半自動落下装置
総掘進長	7.26m								エンジン NFD-10E / ポンプ BG-4C

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値	原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験(　)	掘進月日
1	-1.32	1.35	1.35		盛土	暗灰～暗褐灰			表層、3cmアスファルト。GL-0.10mまで、砕石主体の土砂。GL-0.50mまで、φ20mm以下の礫を少量混入したシルト混じり細砂。以深、φ10mm以下の礫を少量混入した砂質シルト。		1.15	1	8	18	27/30	27		KBM±0 (設計GL) 200 1,200					
2	-2.52	1.20	2.55		砂礫	暗褐灰			φ2～40mm前後の礫主体。マトリックスはシルト分を含有する細砂。部分的にマトリックス優勢となる。所々、φ70mm前後の礫を混入する。含水やや少ない。		1.45 2.15	22	28	10/2	60/22	81.8							
3	-3.77	1.25	3.80		玉石混じり砂礫	暗褐灰			φ2～50mm前後の礫主体。マトリックスは粒子不均一な細砂。L=3～20cm位の玉石を混入する。部分的にマトリックス優勢となる。含水少ない～中位。	8/3 2.91	2.37 3.10	60/4			60/4	450.0							
4	-4.42	0.65	4.45								3.14 4.15	5	6	8	19/30	19							
5					細砂	暗褐灰			粒子不均一な細砂。下部になるにつれ中砂～粗砂多くなる。含水少ない～中位。		4.45 5.15	21	21	18/6	60/26	69.2							
6					玉石混じり砂礫	暗褐灰			φ2～50mm前後の礫主体。マトリックスは粒子不均一な細砂。L=3～10cm位の玉石を混入する。含水少ない～中位。GL-5.00m付近より所々、逸水あり。		5.41 6.15	60/5			60/8	360.0							
7	-7.23	2.81	7.26								6.20 7.15	50	10/1		60/11	163.6							
											7.25												

摘要	月日				ESSE INC. 甲府市飯田4丁目7-14	株式会社 イズ TEL 055 (226) 8888(代) FAX 055 (226) 5727	一級建築士 長田 孝三 第123273号 一級建築士事務所 第1- 031039号 E-mail : esse@coral.plala.or.jp	管理建築士 / 検図者 / 設計者 / 担当者	工事名称 千塚分団本部拠点施設建設（建築主体）工事	図面番号 S - 08	
								作製 令和 6 年 12 月 20 日	図面名称 地盤調査位置図・柱状図	縮尺 A-2 S=1:N A-3(35.35%に縮小)	

一級建築士 第130479号/構造一級建築士 第1971号 渡辺吉彦



基 礎 伏 図　S = 1 : 100

特記なき限り

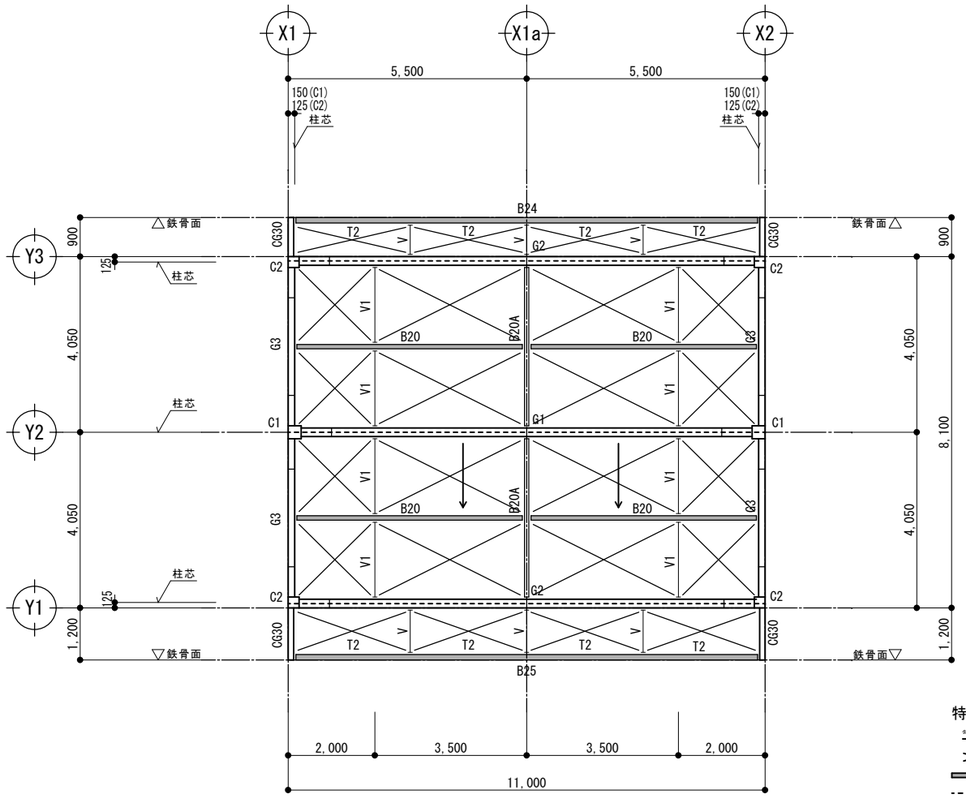
土間コンクリートを示す。 t=180mm

地中梁天端　GL±0mm　とする。
B.PL下端　GL+30mm　とする。

コンクリート立上りを示す。 t=120mm

使用材料	
コンクリート	Fc21
コンクリート	Fc18（土間ｺﾝｸﾘｰﾄ）
鉄筋	SD345　（D19以上）
鉄筋	SD295A（D16以下）
鉄骨	一般材　SS400，SN400B，SSC400
	柱コラム材　BCR295
	仕口材　SN490C（通シダイヤ）
	鋼管材　STKR400，STK400
HTB	F10T・S10T　μ=0.45

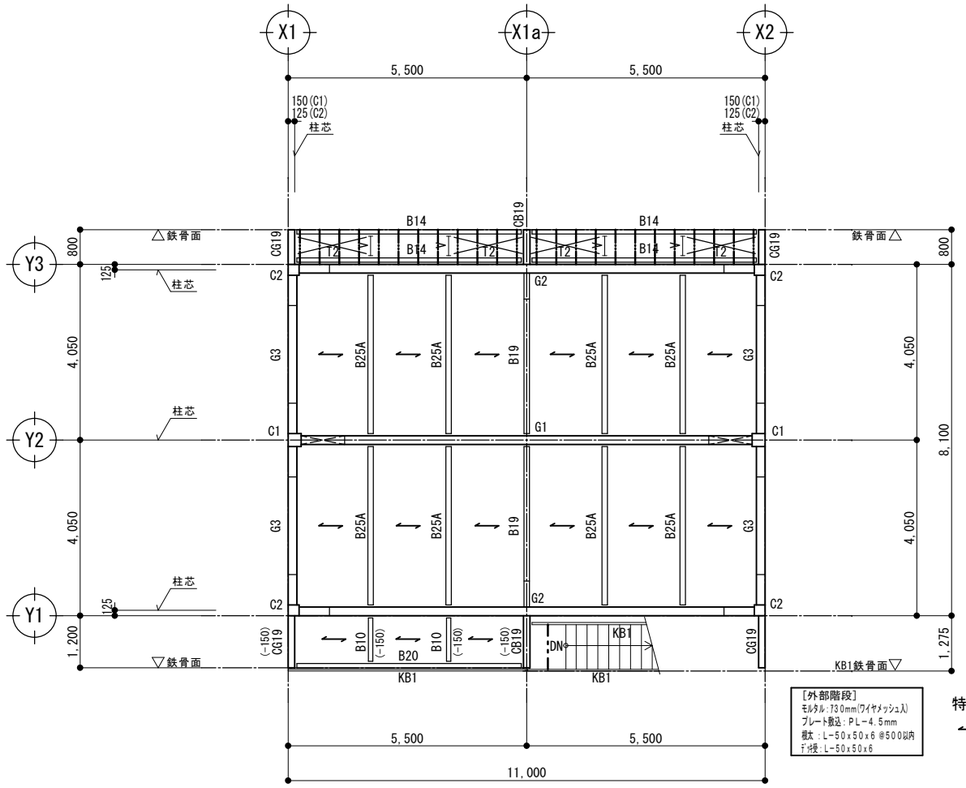
※ 設計地耐力　F=180kN/mm²（長期）
（地業がﾗｯﾌﾟﾙｺﾝｸﾘｰﾄの場合→ﾗｯﾌﾟﾙ天端）



R 階 梁 伏 図　S = 1 : 100

特記なき限り

屋根勾配を示す。
水平ﾌﾞﾚｰｽ T1 を示す。
梁天端 +50 mm を示す。
屋根材受：C-100x50x20x2.3とする。



[外部階段]
ﾓﾙﾀﾙ：130mm(ﾜｲﾔﾒｯｼｭ入)
ﾌﾟﾚｰﾄ敷込：PL-4.5mm
側桁：L-50x50x6 @500以内
ﾃﾞ桁受：L-30x50x6

2 階 梁 伏 図　S = 1 : 100

特記なき限り

デッキ方向を示す。(QL99-50-12)
ｺﾝｸﾘｰﾄ：ﾃﾞｯｷ山上780mm（計 ｱ130mm）

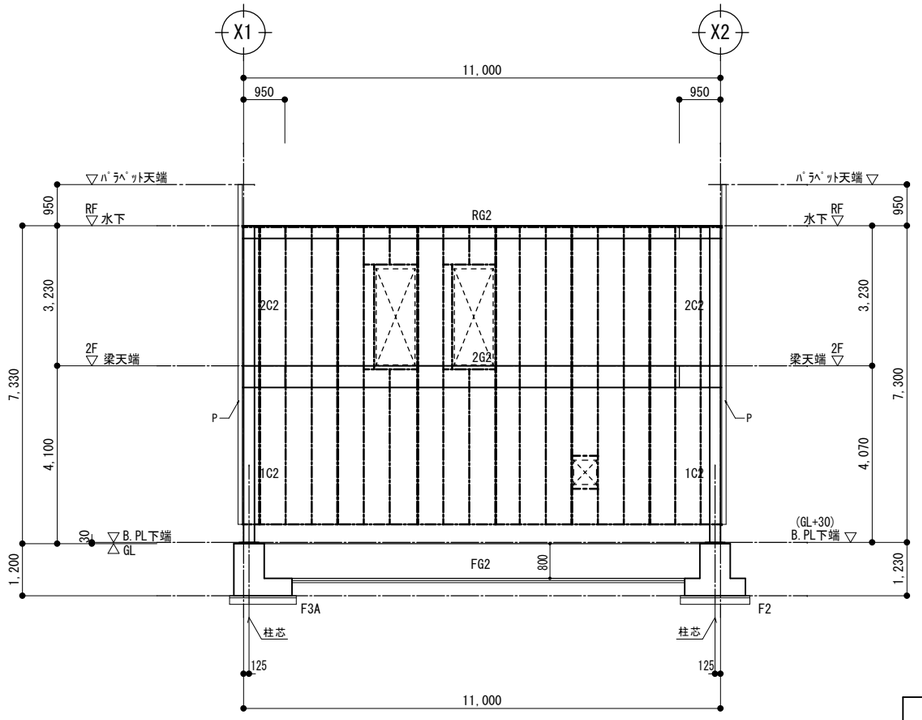
摘要	月日			

ESSE INC.
甲府市飯田4丁目7-14
株式会社　イズ
TEL　055 (226) 8888(代)
FAX　055 (226) 5727
一級建築士　長田 孝三　第123273号
一級建築士事務所　第1- 031039号
E-mail : esse@coral.plala.or.jp

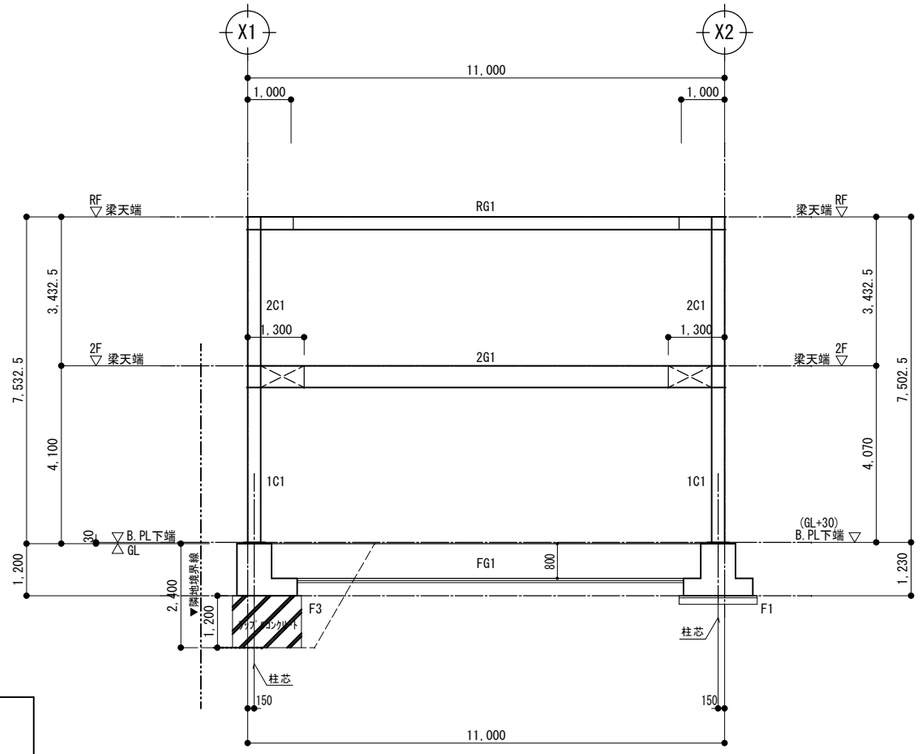
管理建築士	検図者	設計者	担当者	工事名称	千塚分団本部拠点施設建設（建築主体）工事	図面番号
作製　令和 6 年 12 月 20 日				図面名称	梁 伏 図	S - 09

縮尺　A-2 S=1:N　A-3(35.35%に縮小)

一級建築士 第130479号/構造一級建築士 第1971号　渡辺吉彦



Y1通り軸組図　S = 1 : 100

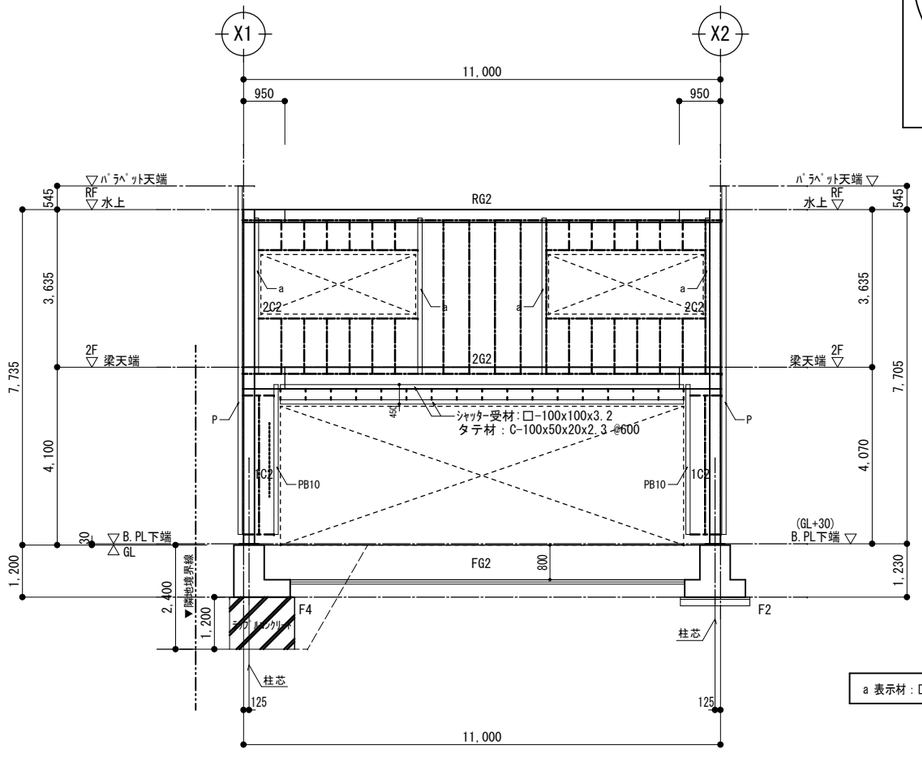


Y2通り軸組図　S = 1 : 100

共 通 事 項

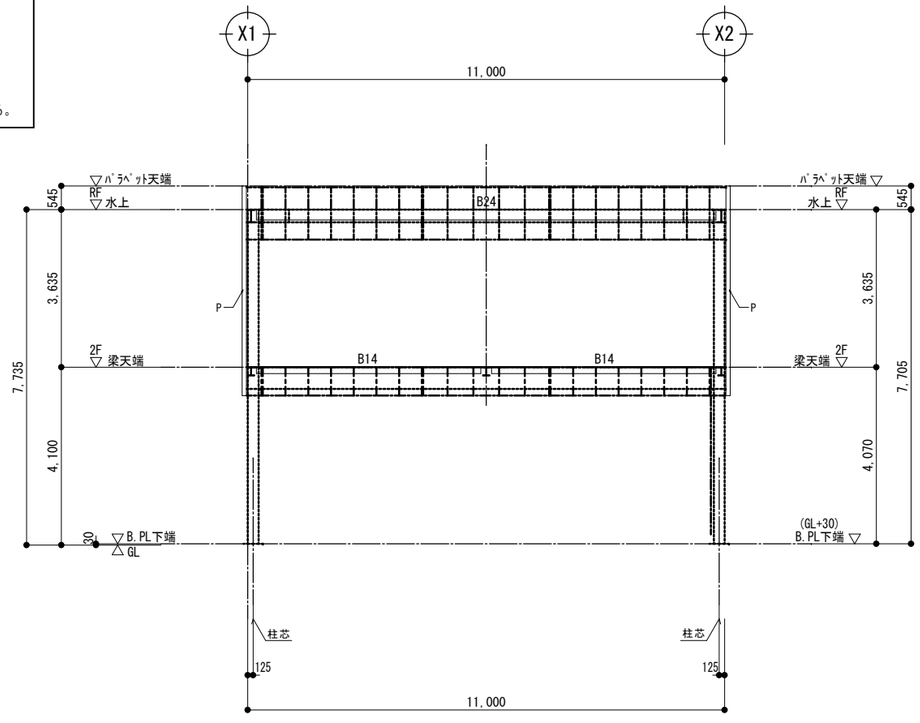
タテ胴縁	2C-100x50x20x2.3 @1800
タテ胴縁	C-100x50x20x2.3 @600
P表示材	□-100x100x2.3（ｺｰﾅｰ部）

土台　C-100x50x20x3.2　とする。
土台アンカーボルト M12（L=150mm）とする。
土台アンカーボルトの配置
土台が切れる開口の両端 かつ @1,800 以下とする。



a 表示材：□-100x100x2.3

Y3通り軸組図　S = 1 : 100



Y3+800～900通り軸組図　S = 1 : 100

摘　要	月　日		

ESSE INC.
甲府市飯田4丁目7-14
株式会社　イ　ズ
ＴＥＬ　055（226）8888(代)
ＦＡＸ　055（226）5727
一級建築士　長田 孝三　第123273号
一級建築士事務所　第1- 031039号
E-mail : esse@coral.plala.or.jp

管理建築士	検図者	設計者	担当者

作 製　令和 6 年 12 月 20 日

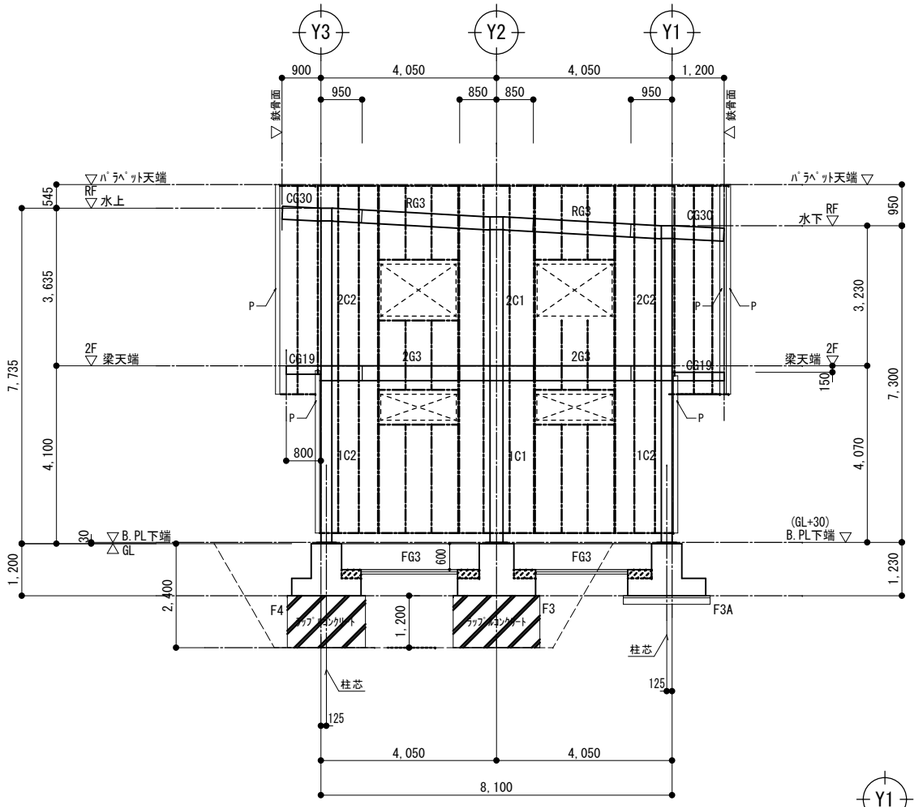
工事名称　千塚分団本部拠点施設建設（建築主体）工事

図面名称　軸 組 図（1）

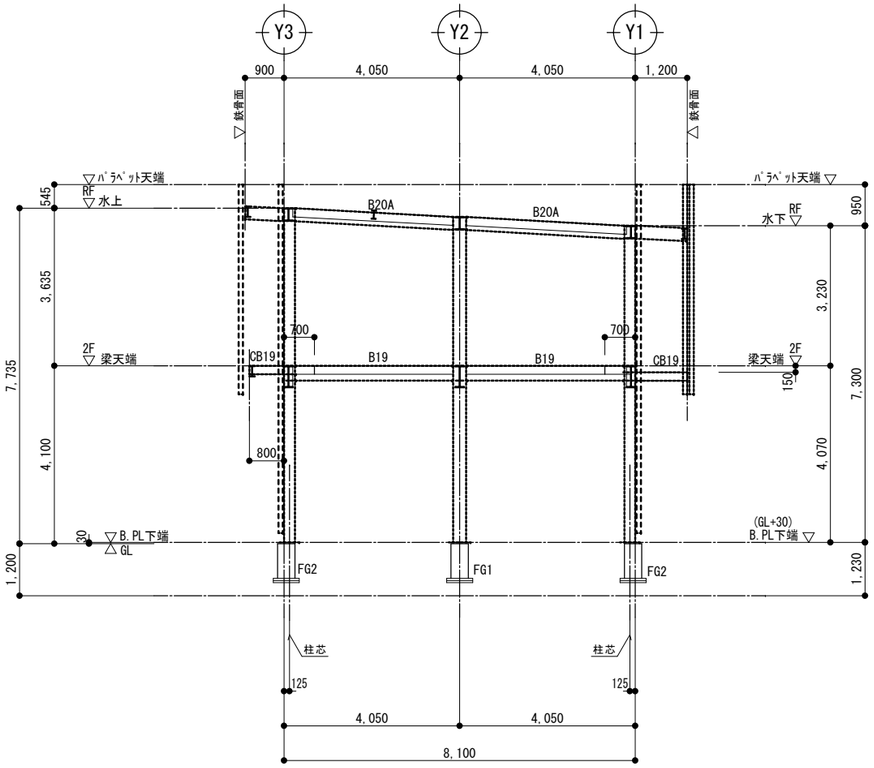
縮 尺　A-2 S=1:N　A-3(35.35%に縮小)

図面番号　S － 10

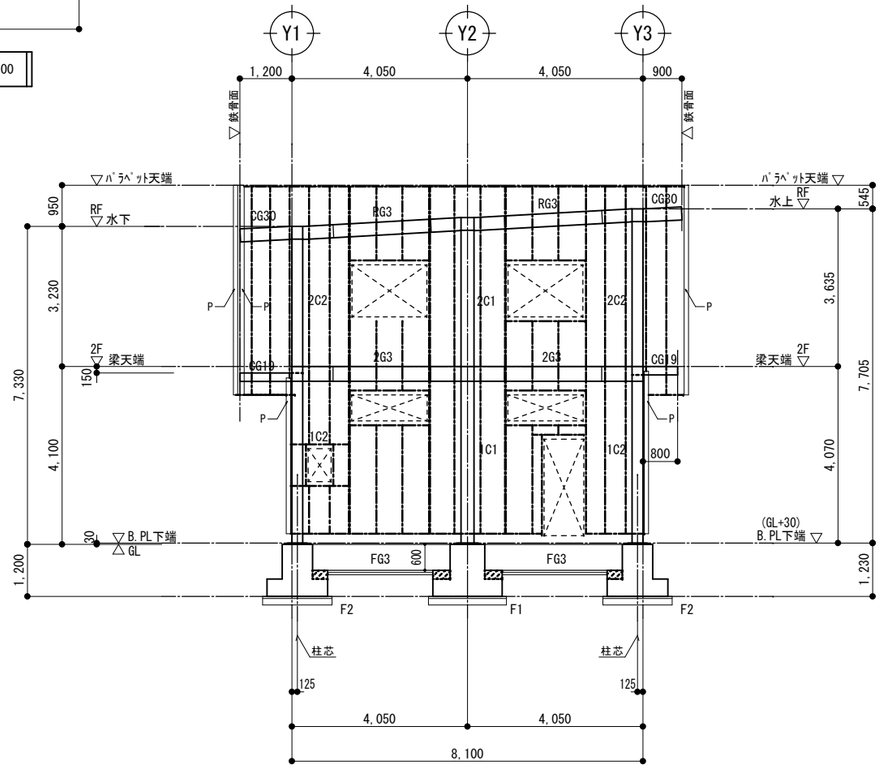
一級建築士 第130479号/構造一級建築士 第1971号　渡辺吉彦



X1通り軸組図　S = 1 : 100



X1a通り軸組図　S = 1 : 100



X2通り軸組図　S = 1 : 100

共 通 事 項

タテ胴縁	2C-100x50x20x2.3 @1800
タテ胴縁	C-100x50x20x2.3 @600
P表示材	□-100x100x2.3 (コーナー部)

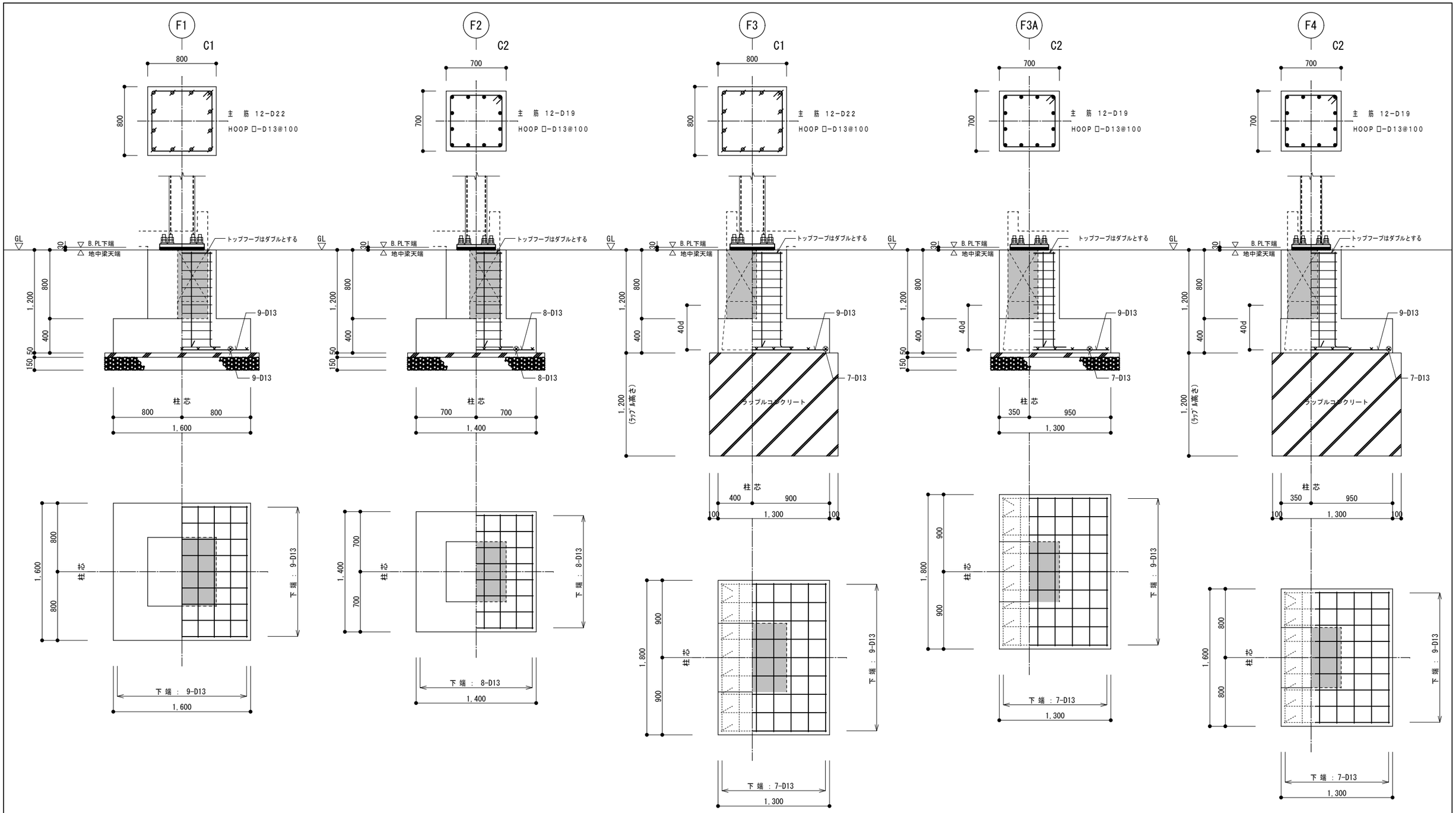
土台　C-100x50x20x3.2　とする。
土台アンカーボルト M12 (L=150mm) とする。
土台アンカーボルトの配置
土台が切れる開口の両端 かつ @1,800 以下とする。

摘　要	月　日			

ESSE INC.
甲府市飯田4丁目7-14
株式会社　イ　ズ
TEL　055 (226) 8888(代)
FAX　055 (226) 5727
一級建築士　長田 孝三　第123273号
一級建築士事務所　第1- 031039号
E-mail : esse@coral.plala.or.jp

管理建築士	検図者	設計者	担当者	工事名称	千塚分団本部拠点施設建設（建築主体）工事	図面番号
作　製　令和 6 年 12 月 20 日				図面名称	軸 組 図 (2)	S - 11
				縮　尺	A-2 S=1:N　A-3(35.35%に縮小)	

一級建築士 第130479号/構造一級建築士 第1971号　渡辺吉彦



基礎リスト　S = 1 : 30

摘　要	月 日			

ESSE INC.
甲府市飯田4丁目7-14
株式会社　イ　ズ
TEL　055 (226) 8888(代)
FAX　055 (226) 5727
一級建築士　長田 孝三　第123273号
一級建築士事務所　第1- 031039号
E-mail : esse@coral.plala.or.jp

管理建築士	検図者	設計者	担当者	工事名称	千塚分団本部拠点施設建設（建築主体）工事	図面番号
作 製 令和 6 年 12 月 20 日				図面名称	基 礎 リ ス ト	S - 12
				縮 尺	A-2 S=1:N A-3(35.35%に縮小)	

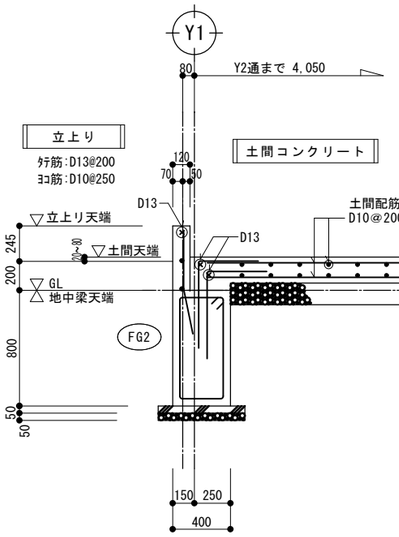
一級建築士 第130479号/構造一級建築士 第1971号　渡辺吉彦

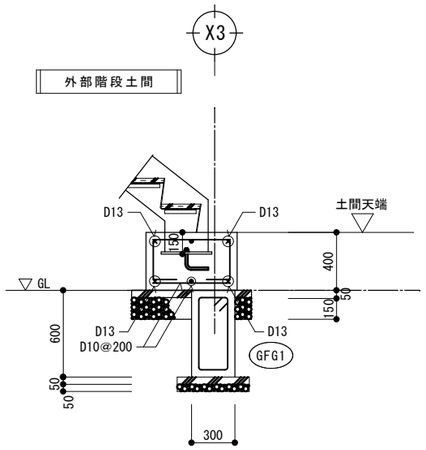
地中梁　リスト　　S = 1:30

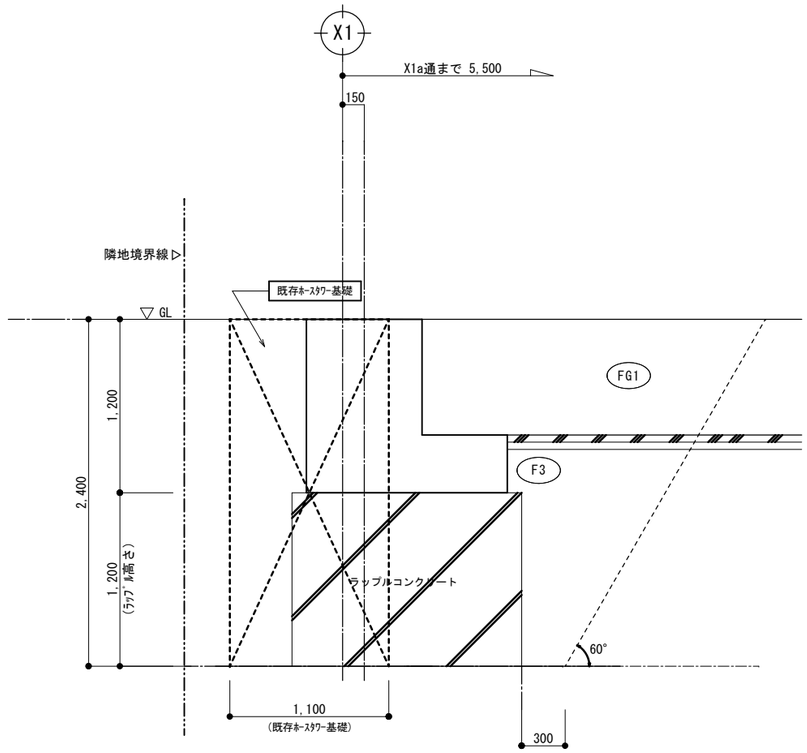
FG1,FG2(X方向)主筋が上下共外側配置とする。

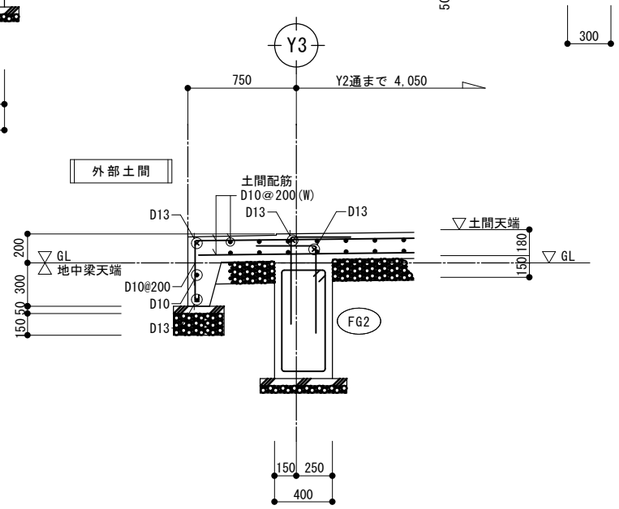
特記なき限り　：巾 止 筋　D10 @1,000 以内とする。
(共通事項)　：捨コンクリート　t=50mm　・　砕　石　t=50mm

符　号	FG1		FG2		FG3	CFG1
位　置	両 端	中 央	両 端	中 央	全 断 面	全 断 面
断　面	▽ GL±0		▽ GL±0		▽ GL±0	▽ GL±0
上 端 筋	7-D19	4-D19	6-D19	4-D19	3-D19	2-D19
下 端 筋	4-D19	5-D19	4-D19	4-D19	3-D19	2-D19
スターラップ	□-D13 @200		□-D13 @200		□-D10 @200	□-D10 @200
腹　筋	2-D10		2-D10		2-D10	2-D10









摘　要	月　日			

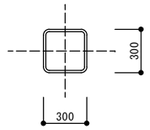
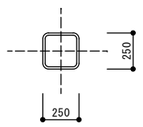
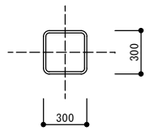
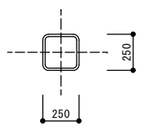
ESSE INC.
甲府市飯田4丁目7-14
株式会社　イ　ズ
ＴＥＬ　055 (226) 8888(代)
ＦＡＸ　055 (226) 5727
一級建築士　長田 孝三　第123273号
一級建築士事務所　第1- 031039号
E-mail : esse@coral.plala.or.jp

管理建築士	検図者	設計者	担当者	工事名称	千塚分団本部拠点施設建設（建築主体）工事	図面番号
作 製	令和 6 年 12 月 20 日			図面名称	地中梁リスト・雑詳細図	S - 13
				縮 尺	A-2 S=1:N A-3(35.35%に縮小)	

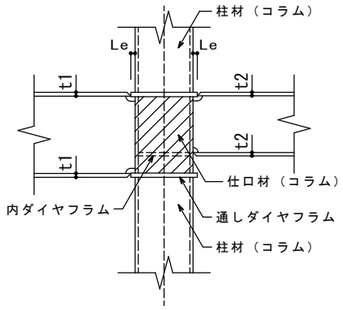
一級建築士 第130479号/構造一級建築士 第1971号　渡辺吉彦

柱　リスト　S = 1:30

使用材料　コラム材　：　表記による。
ダイヤフラム材：　ＳＮ４９０Ｃ材　とする。

符号		C1	C2
階	位置	全断面	全断面
2	断面		
	鉄骨	□-300x300x12	□-250x250x12
		BCR295	BCR295
1	断面		
	鉄骨	□-300x300x16	□-250x250x16
		BCR295	BCR295
	柱脚	ﾍﾞｰｽﾊﾟｯｸ 30-16V	ﾍﾞｰｽﾊﾟｯｸ 25-16V

【共通事項】



※特記なき限り

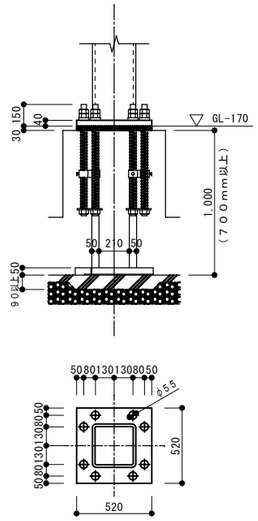
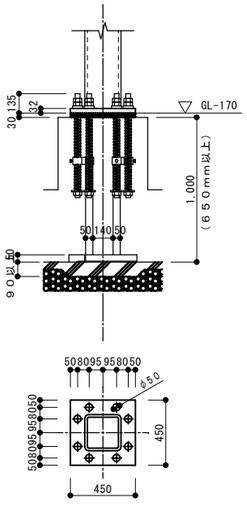
（１）　仕　口　※（告示第１４６４号による）

・仕口材（コラム）の厚さ　→　t2　以上とする。
　（上記以外の仕口形式は、下階の柱材とする。）
・通しダイヤプレートの厚さ
　→　柱材の厚さ以上、かつ　t1　厚の２サイズＵＰとする。
・通しダイヤプレートの出（Ｌｅ）　→　２５mm
・内ダイアプレートの厚さ
　→　柱材の厚さ以上、かつ　t2　厚の１サイズＵＰとする。

※　内ダイヤで取付梁は，柱材の R 部分を逃げること。

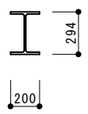
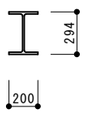
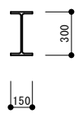
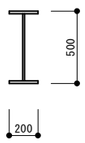
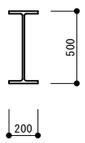
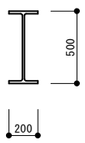
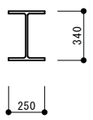
柱脚リスト　S = 1:30

使用材料
ベースパック仕様による。

符号	ベースパック　30-16V	ベースパック　25-16V
主材	□-300x300x16（BCR295）	□-250x250x16（BCR295）
断面		
BASE. PL	PL-40x520x520[SN490B]	PL-32x450x450[SN490B]
A. BOLT	8-M36[SD490]	8-M33[SD490]

大梁　リスト　S = 1:30

使用材料
大　梁　材　：　ＳＮ４００Ｂ材　とする。

符号		G1		G2	G3
階	位置	全断面		全断面	全断面
R	断面				
	鉄骨	H-294x200x8x12		H-294x200x8x12	H-300x150x6.5x9
	継手	J3		J3	J4
	位置	両　端	中　央	全断面	全断面
2	断面				
	鉄骨	BH-500x200x9x22	H-500x200x10x16	H-500x200x10x16	H-340x250x9x14
	継手	J1		J1	J2

摘要	月日			

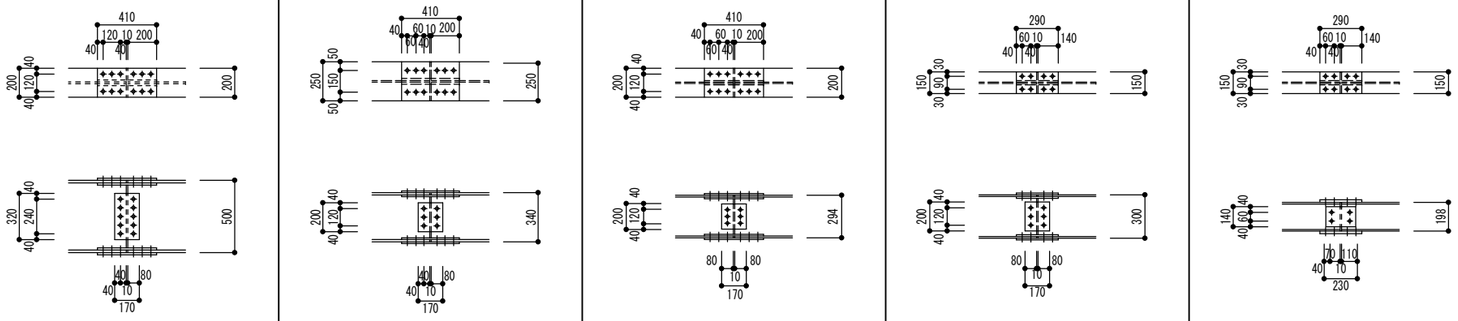
ESSE INC.
甲府市飯田4丁目7-14
株式会社　イズ
ＴＥＬ　055 (226) 8888(代)
ＦＡＸ　055 (226) 5727
一級建築士　長田 孝三　第123273号
一級建築士事務所　第1- 031039号
E-mail ： esse@coral.plala.or.jp

管理建築士	検図者	設計者	担当者	工事名称	千塚分団本部拠点施設建設（建築主体）工事	図面番号
作製　令和 6 年 12 月 20 日				図面名称	柱リスト・柱脚リスト 大梁リスト	S - 14
				縮尺	A-2 S=1:N A-3(35.35%に縮小)	

継手リスト　S = 1:30

使用材料 鋼　板　材　：　ＳＮ４００Ｂ材　とする。
※ 梁継手は、ＳＣＳＳ－Ｈ９７ による。

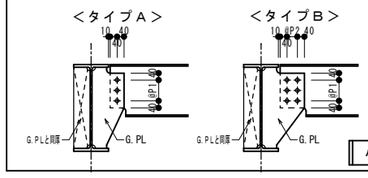
符号		J1	J2	J3	J4	J5
主材		H-500x200x10x16	H-340x250x9x14	H-294x200x8x12	H-300x150x6.5x9	H-194x150x6x9
断面		GGF-4X-J5020·0916-20	GGF-4X-J3525·0916-22	GGF-4X-J3020·0912-20	GGF-4X-J3015·0609-16	GGF-4X-J2015·0609-16
フランジ	ＳＰＬ	2PL-12x200x410	2PL-12x250x410	2PL- 9x200x410	2PL-9x150x290	2PL-9x150x290
	ＨＴＢ	4PL-12x 80x410	4PL-12x100x410	4PL- 9x 80x410	4PL-9x 60x290	4PL-9x 60x290
		24-M20	24-M22	24-M20	16-M16	16-M16
ウェブ	ＳＰＬ	2PL- 9x320x170	2PL-9x200x170	2PL- 9x200x170	2PL-6x200x170	2PL- 6x140x230
	ＨＴＢ	10-M20	6-M22	6-M20	6-M16	4-M16



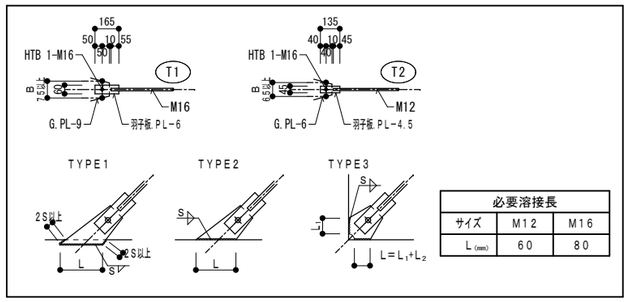
部材　リスト　S = 1: 30

特記なき限り　使用材料

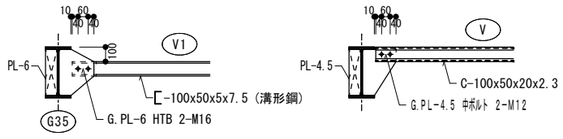
符号	位置	断面	小梁接合タイプ	G.PL	H.T.B	@P1	@P2	備考
B24	全断面	H-244x175x7x11	A	PL-9	1x2-M20	60	—	
B25	全断面	H-250x125x6x9	A	PL-6	1x3-M16	60	—	
B25A	全断面	H-250x125x6x9	B	PL-9	2x3-M20	60	60	
B19	全断面	H-194x150x6x9	A	PL-6	1x2-M16	60	—	ｼﾞｮｲﾝﾄ部:J5　詳細図参照（右記）
B20	全断面	H-200x100x5.5x8	A	PL-6	1x2-M16	60	—	
B20A	全断面	H-200x100x5.5x8	A	PL-6	1x2-M22	60	—	
B14	全断面	H-148x100x6x9	B	PL-6	2x1-M16	—	60	
B10	全断面	H-100x100x6x8	B	PL-6	2x1-M16	—	60	
CG30	全断面	H-300x150x6.5x9	—	—	—	—	—	
CG19	全断面	H-194x150x6x9	—	—	—	—	—	
CB19	全断面	H-194x150x6x9	—	—	—	—	—	詳細図参照（右記）
V	全断面	C-100x50x20x2.3	B	PL-4.5	中ボルト 2x1-M12	—	60	詳細図参照（下記）
V1	全断面	[-100x50x5x7.5　（溝形鋼）	B	PL-6	1x2-M16	—	60	詳細図参照（下記）
T1	全断面	ＪＩＳターンバックル筋違　M16	—	PL-9	2x1-M16	—	60	羽子板.PL-6　詳細図参照（右記）
T2	全断面	ＪＩＳターンバックル筋違　M12	—	PL-9	2x1-M16	—	60	羽子板.PL-6　詳細図参照（右記）
PB10	全断面	□-100x100x2.3(SKTR400)	—	PL-4.5	通しボルト 1-M12	60	—	詳細図参照（右記）
KB1	全断面	PL-12x300	A	PL-12	2-M20	70	—	詳細図参照（右記）
	柱脚	BASE.PL-16x180x350 A.BOLT 2-M16(L=250) Wナット フック付						

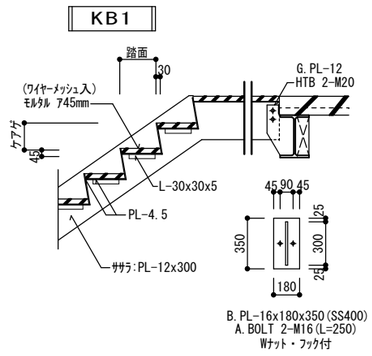


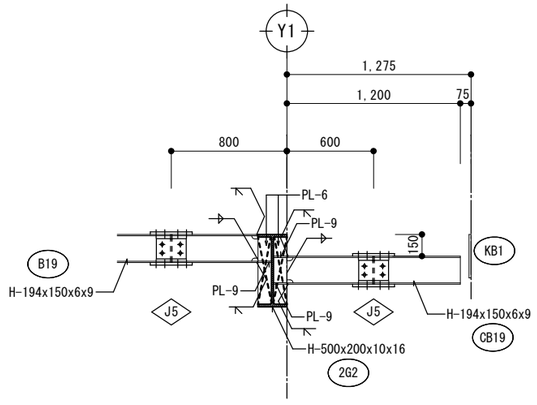
小梁接合詳細図



必要溶接長		
サイズ	M12	M16
L (mm)	60	80





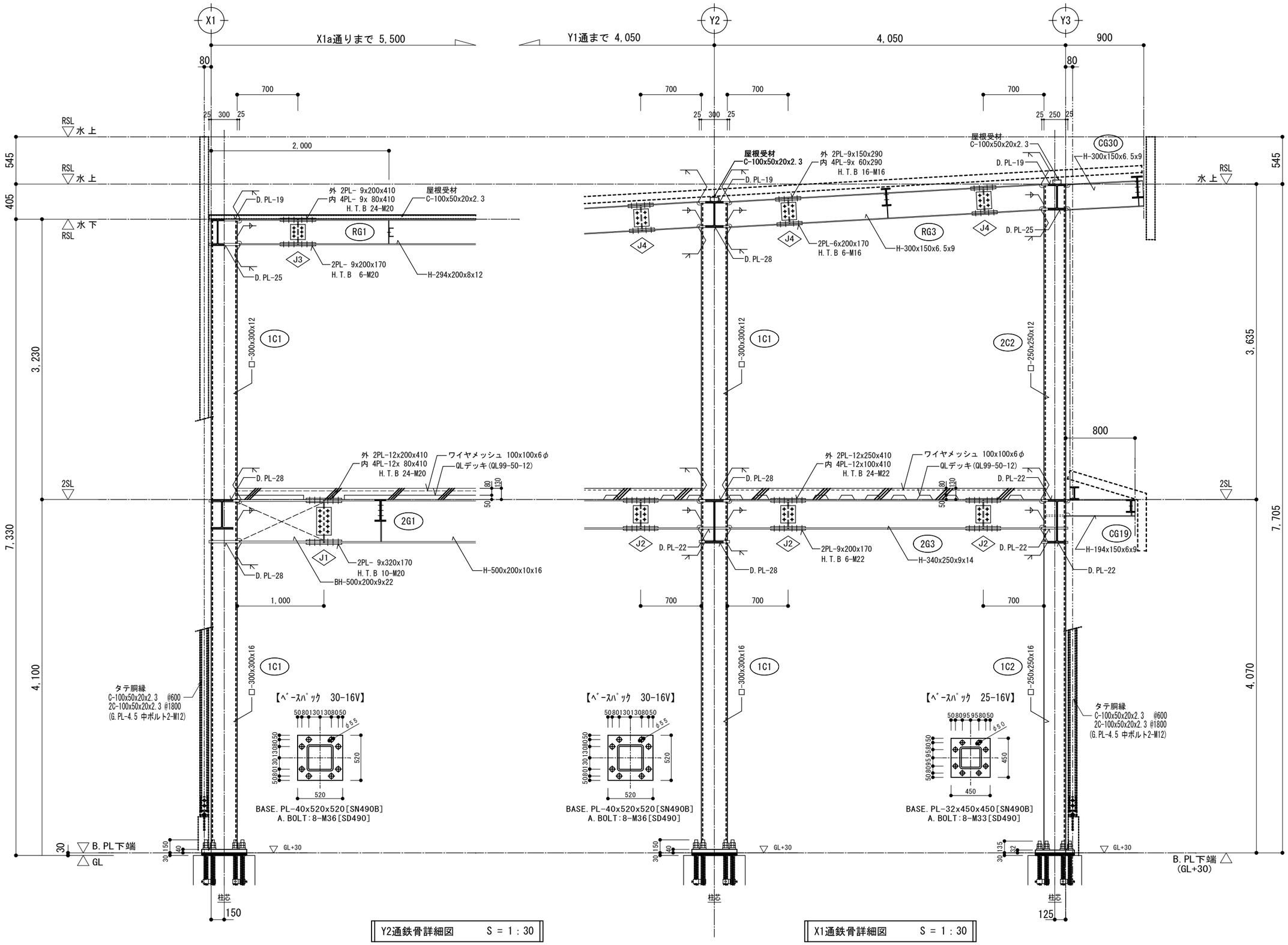


摘要	月日			

ESSE INC.
甲府市飯田4丁目7-14
株式会社　イ　ズ
ＴＥＬ　055 (226) 8888(代)
ＦＡＸ　055 (226) 5727
一級建築士　長田 孝三　第123273号
一級建築士事務所　第1- 031039号
E-mail : esse@coral.plala.or.jp

管理建築士	検図者	設計者	担当者	工事名称	千塚分団本部拠点施設建設（建築主体）工事	図面番号
作製　令和 6 年 12 月 20 日				図面名称	継手リスト・部材リスト	S - 15

縮尺　A-2 S=1:N　A-3(35.35%に縮小)



Y2通鉄骨詳細図　S = 1 : 30

X1通鉄骨詳細図　S = 1 : 30

摘要	月日			

ESSE INC.
甲府市飯田4丁目7-14

株式会社　イズ
TEL　055 (226) 8888(代)
FAX　055 (226) 5727

一級建築士　長田 孝三　第123273号
一級建築士事務所　第1- 031039号
E-mail : esse@coral.plala.or.jp

管理建築士	検図者	設計者	担当者	工事名	千塚分団本部拠点施設建設（建築主体）工事	図面番号
作製 令和 6 年 12 月 20 日				図面名称	Y2通鉄骨詳細図・X1通鉄骨詳細図	S - 16
				縮尺	A-2 S=1:N A-3(35.35%に縮小)	

一級建築士 第130479号/構造一級建築士 第1971号　渡辺吉彦